科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		国際金融論	国際金融論では，開発途上国の国際金融政策に関する課題に取り組むために必要な経済分析手法の獲得を目指す．外国為替や国際収支などの国際金融に関する基礎的な概念と理論を学んだ上で，解放経済の下での財政・金融政策の効果を理論的及び実証的な視点から習得する。また，国際通貨体制や金融危機，各国のマクロ経済政策協調など開発途上国にとって重要な事柄について，国際金融の歴史的推移も含めて理解する．	
	人間総合科学プログラム	総合科学系演習	本演習では，学生によるグループワークを通して，ミニ・プロジェクトに挑戦し，自分の専門分野を活かしながら，文理融合，学際的，国際的な視点を涵養し，総合科学の手法を学ぶ。異分野，多国籍の数名の学生でグループを形成する。概要，目的，手法の具体的なガイダンスの後，日本語又は英語を共通言語として，共同研究のプランニングを行い，その研究計画書を作成する過程を経験することで，研究者としての企画力や統合力，研究計画書作成能力を養成する。年度ごとのローテーションで教員がファシリテーターとなり指導を行う。	
		人間総合科学特論	文系・理系の枠を超えて，人間や社会，環境をめぐる最新の知見や課題，トピックスを集中講義により提供する。人間や社会，環境を理解する視点を広げ，世界で起きている様々な現象について多角的に把握し理解する能力を涵養する。受講者に自分の研究テーマとの関連性を考察させることで，多面的に現象を把握し，学際的なアプローチにより解決することの重要性を認識させ，応用力を養成することを目的とする。先端的な研究を行っている研究者を毎年招聘し，最新の情報を提供する。	共同
		コンピュータと言語研究・教育	（概要）インターネットの機能の急速な発展に伴い，コンピュータに代表される情報技術を用いることは言語研究のどの分野においてもすでに不可欠の前提となっている。本講義では，前半でコンピュータと言語研究の現状について，後半でコンピュータと言語教育の現状について論じてゆく。 （オムニバス方式／全 15 回） （25　井上　永幸・68　岩崎　克己／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （25　井上　永幸／7 回） コーパスとコーパス言語学，コーパスで何がわかるか，Sketch Engine の使い方 (1)，Sketch Engine の使い方 (2)，コーパスと統計値，コーパスを使った英語研究(1)，コーパスを使った英語研究 (2)。 （68　岩崎　克己／7 回） コンピュータと言語教育の歴史と現状，ICT を利用した語彙学習，ICT を利用したリスニング，ICT を利用したリーディング，ICT を利用したスピーキング，LMS を利用したライティング，コーパスと言語教育。	オムニバス方式・共同（一部）
		言語構造論	（概要）一言でいえば，言語は形式（音声など）で意味を伝える記号体系であるが，その点では人間言語と他の動物のコミュニケーション手段とはあまり変わらない。人間が発する声の塊を「言語」たらしめている最も特徴的な点は，言語にはその様々な側面において「構造」が存在するということである。本講義では，言語の様々な側面に見られる構造について，統語，意味，音声などの観点から検討し分析する方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全 15 回） （50　井口　容子／5 回） 使役・起動交替，ヴォイスなど，興味深い言語現象を，統語・意味の両面から分析する。 （171　町田　章／5 回） 言語の意味に関する現象を，語の意味，構文の意味，言外の意味の観点から考察し分析する方法を学ぶ。 （127　大嶋　広美／5 回）	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		諸言語の子音，母音，アクセント，声調など音声・音韻の諸問題について考察し，討論する。	
		言語類型研究	（概要）一説には，世界には 7000 もの言語が存在すると言われている。そして，それらの言語にはある一定の普遍的な原理が見られると同時に，驚くべき多様性が見られることも指摘されている。もちろん，7000 の言語をすべて講義で取り上げることは不可能であるが，異なった語族に属するいくつかの言語を比較検討するだけでも十分有意義な知見が得られる。本講義では，主に日本語，英語，中国語，フランス語などを取り上げながら，それらの言語間に見られる共通性に着目しつつ，それぞれの言語に見られる特徴について検討する。 （オムニバス方式／全 15 回） （171　町田　章／5 回） 主に日本語と英語の対照を通して，認知類型論という比較的新しい分野の考え方や分析法を学ぶ。 （127　大嶋　広美／5 回） 日本語とアジア諸言語，特に中国語を言語類型論，対照言語学の観点から分析し，諸言語間における普遍性と多様性について分析し，討論する。 （50　井口　容子／5 回） 対格言語と能格言語，ヨーロッパ系の言語にみられる与格構文と「被害の受身」に共通してみとめられる特性など，言語類型論的に興味深い現象を考察する。	オムニバス方式
		心理言語的アプローチからの第二言語習得	（概要）第二言語習得は母語習得とどのように異なるのか。本講義では，第二言語習得のメカニズムを主に心理言語学的アプローチから概観する。心理言語学は研究者によって捉え方が異なり，従って，研究手法も異なる。第二言語学習者の認知的側面，心理的側面に焦点を当て，先行研究で何が明らかにされてきたかを理解し，今後の研究について考える。 （オムニバス方式／全 15 回） （94　柴田　美紀・172　TAFERNER ROBERT HORST／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （94　柴田　美紀／7 回） 母語習得と第二言語習得の違い，第二言語習得研究の歴史，第二言語習得研究の主なアプローチ （172　TAFERNER ROBERT HORST／7 回） 心理言語学の概要，心理言語学的アプローチの研究手法と先行研究	オムニバス方式・共同（一部）
		実験言語学	（概要）This course reviews a comprehensive range of research issues and experimental findings related to how learners learn, use, and store a second language. The course is divided into two halves. In the first half, you improve conceptual understanding of research designs in experimental phonetics and phonology, practice measurement methods such as Praat, critically review interdisciplinary studies, and build a research proposal. In the second half, you consider approaches to second language learning in practice with specific reference to vocabulary studies, you develop an appreciation of vocabulary testing, and continue to build a research proposal. As a product of the course, you will be able to review and evaluate published work, and design an experiment related to the spoken language. You cover a broad range of topics, with the module intending to provide foundational understanding of experimental linguistics in relation to second language learning, production, and perception. （Omnibus／15 lessons in total）	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		（150　Noriko Yamane　・173　Jon Clenton／Lesson 1）（Co-teaching） Guidance and course introduction （150　Noriko Yamane／Lesson 2-8） Phonetics and phonology, Measurement methods, Interdisciplinary study （173　Jon Clenton／Lesson 9-15） Teaching and learning, Models & L2 learning, L2 testing approaches, Language and the curriculum （和訳）このコースでは，学習者の第二言語の学習・使用・記憶の方法に関連する，包括的な研究課題や実験研究の成果を概説する。コースの前半では，実験音声学・音韻論における研究デザインの概念的理解を深め，Praat などの測定法を実践し，学際研究を批判的にレビューしつつ，研究プロポーザルを構築する。後半では，語彙研究を参照して実践的に第二言語学習へのアプローチを検討し，語彙テストの評価を深め，引続き研究プロポーザルを構築する。コースの成果として，出版された研究論文をレビュー・評価し，発話に関する実験をデザインできるようになる。第二言語学習，発話や知覚に関する実験言語学の基礎的理解を提供することを目的としているため，幅広いトピックをカバーする。 （オムニバス方式／全 15 回） （150　山根　典子・ 173　CLENTON JONATHAN STUART MICHAEL／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （150　山根　典子／7 回） 音声学と音韻論，測定方法，学際研究 （173　CLENTON JONATHAN STUART MICHAEL／7 回） 教育と学習，モデルと L2 学習，L2 テスト手法，言語とカリキュラム	
		運動生理・生化学	（概要）本講義の目的は，ヒトの身体が可塑性に富んだものであることを理解し，自らの体のあり方を考えることである。そのために，身体の機能に影響を及ぼす要因について，主として「筋の活動」と「栄養」の 2 つの観点から考察する。 （オムニバス方式／全 15 回） （95　和田　正信　・174　緒形　ひとみ／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （95　和田　正信／7 回） 一過性の運動及びトレーニングが筋機能に及ぼす影響 （174　緒形　ひとみ／7 回） 睡眠及び栄養とスポーツ	オムニバス方式・共同（一部）
		運動適応学	（概要）身体活動中に気象環境学的因子が加わると，生体は運動による調節に加えて環境因子に関する調節も必要になってくる。本講義では環境因子として温熱環境をとりあげ，その環境における身体活動中の基礎的な生理的適応反応を明らかにし，さらに身体的能力が劣っている高齢者及び身体障害者の運動適応能力について解説する。また，運動に対する適応反応について自らリサーチクエスチョンを設定し，それに関する過去の研究論文を収集，輪講する。システマティックレビューの手法を身につけ，疑問に対する結論を導く力を養う。 （オムニバス方式／全 15 回） （24　長谷川　博・151　田中　亮／1 回）	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		（24　長谷川　博／7 回） スポーツと環境，運動時の体温・体液調節，コンディショニングの重要性とリカバリー戦略，実践的暑さ対策についての講義，論文輪読，討論を行う。 （151　田中　亮／7 回） システマティックレビューの方法論と実際，運動に対する高齢者の適応反応や運動に対する障害者の適応反応についての講義，論文輪読，討論を行う。	
		運動制御学	（概要）日常動作からスポーツ動作まで，ヒトの身体運動は、物理的に複雑なシステムである身体を，脳や脊髄といった神経系が適切な制御をすることで成り立っている。本講義の前半は，ヒトの身体運動の物理的側面に重点を置き，動作を計測・解析する基本的な技術について学習する。中盤は，生理学的側面から，巧みな運動を可能にする脳神経系の働きに関する基礎的知識やヒトで実施可能な神経生理学的研究手法について学習し，併せて当該分野における先端的研究成果について紹介する。後半は，ヒトの運動制御を支える神経計算メカニズムに関する研究成果とその応用について学習する．受講者の背景や興味にもよるが，システムレベルに限らず，必要に応じて単一ニューロンやシナプス可塑性の話題も取り上げる． （オムニバス方式／全15回） （278　進矢　正宏／5回） ガイダンス，ヒトの身体運動の客観的計測・解析技術および運動学習 （51　船瀬　広三／5回） ヒトの身体運動制御機構に関わる脳神経の働き （218　加藤　荘志／5回） ヒトの運動制御を支える神経計算メカニズムとその応用	オムニバス方式
		運動精神科学	（概要）人間の身体運動と精神の関係は心身相関問題の重要なテーマとして研究されてきた。本講義では主に心理学と哲学の視点から身体運動と精神の関係について学び考察することを目的とする。前半では，スポーツをはじめとする身体運動が心理状態の変化によって受ける影響や，身体運動が心理状態に及ぼす影響について学ぶ。後半では，身体運動や身体知が，文化や社会の形成さらには人間の思想や精神に及ぼす影響をよりマクロの視点から学ぶ。 （オムニバス方式／全 15 回） （96　関矢　寛史・124　上泉　康樹／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （96　関矢　寛史／7 回） 心理状態が身体運動に及ぼす影響と身体運動が心理状態に及ぼす影響 （124　上泉　康樹／7 回） 身体運動や身体知が，文化や社会の形成さらには人間の思想や精神に及ぼす影響	オムニバス方式・共同（一部）
		認知科学論	（概要）　私たちの心と行動の働きについて検討する分野に認知心理学がある。本講義では、認知心理学について、基本的な考え方や役割と意義について紹介し，続いて、認知心理学的なアプローチを行うための研究方法や、そこで用いる主観・行動･生理の各指標の分析方法について概説する。それらを基盤として、心と行動の働きについて、刺激（外界情報）と脳の関係性から解説を行う。本講義では、自分の専門分野や研究テーマについて認知心理学的な研究法を導入し、新たな展開が期待できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全 15 回） （126　有賀　敦紀・125　小川　景子・97　坂田　省吾／1 回）（共同） ガイダンス	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		（126　有賀　敦紀／5 回） 行動科学・認知心理学の基本的な考え方や役割，応用について考える （125　小川　景子／5 回） 主観・行動・生理の各側面から人間行動のメカニズムを考える （97　坂田　省吾／4 回） 人間行動における刺激と脳との関連性について考える	
		比較認知論	（概要）この授業では、環境から受ける刺激によって生体の行動が決定されていく過程について，ヒトを含む動物種間で比較しながら解説する。ヒト以外の動物に関する知見を学ぶことで私たちヒトの行動に関する理解を深める。ヒト以外の動物に関するテーマとして時間知覚研究の知見を紹介し，ヒトの行動に関する行動として心理生理学的研究及び認知心理学的研究からの知見を紹介する。ヒトの認知メカニズムと行動の関連をもとに、社会実装の可能性についても論じる。 （オムニバス方式／全 15 回） （97　坂田　省吾・125　小川　景子・126　有賀　敦紀／1 回）（共同） ガイダンス （97　坂田　省吾／6 回） 動物の生理心理学的研究を紹介し，脳活動と行動との関連を考察する （125　小川　景子／4 回） 人間の心理生理学的研究を紹介し，人の高次認知機能と脳内活動を脳波をもとに考察する （126　有賀　敦紀／4 回） 人間の認知メカニズムを基盤として，実社会への応用を考える	オムニバス方式・共同（一部）
		環境行動論	（概要）人の行動は様々な環境の影響を受けて変容する。本講義では，内的・外的環境が睡眠に及ぼす影響と，音や音楽が与える影響について取り上げる。睡眠は，個人の内的リズムや心理状態により影響を受け，規則正しい睡眠は心身の健康とも関連していることから，睡眠への影響要因や健康との関連について考察する。音・音楽環境については，日々聞いている音や音楽が人に与える心理・生理的な影響について取り上げる。また，その応用として，ストレスコントロールのための聴取型音楽についても考察する。 （オムニバス方式／全 15 回） （43　岩永　誠・259　林　光緒／1 回）（共同） ガイダンス （43　岩永　誠／5 回） 音・音楽環境における感情反応を心理・生理的側面から概説し，音楽による感情コントロールについて考察する。 （259　林　光緒／9 回） 内的・外的環境要因が睡眠に及ぼす影響について概説し，健康的な睡眠のあり方について考察する。	オムニバス方式・共同（一部）
		適応行動論	（概要）人は様々な内的・外的環境の変化の中で生活している。この変化にうまく適応できないと，心身の健康を損ね，時として精神疾患に至ることもある。その代表的なものがストレスであり，不適応の症状としてうつ病や不安症が挙げられる。環境の変化や個人の認知様式がどのように人の心身に影響し，病理的な問題に結びつくのか，またそれをどのように心理的に治療していくのかについて講義し，人と適応との関係について考察する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		（オムニバス方式／全 15 回） （114　杉浦　義典・43　岩永　誠／1 回）（共同） ガイダンス （114　杉浦　義典／9 回） 心理療法について概説し，そこから人の適応について考える柔軟な視点を養う。 （43　岩永　誠／5 回） ストレスの心理生理学的モデルを概説し，社会病理的問題と適応について考察する。	
		社会行動論	（概要）これまで心理学を含む行動科学の諸分野では，社会・集団における人間行動を明らかにしてきた。本講義では，特に社会心理学の知見に基づき，社会及び集団がいかに人間行動に影響を及ぼすのか，また個人の振る舞いがいかに集団や社会に影響を及ぼすのか，人間行動と集団の相互依存性について解説する。多様化する社会における人間の社会行動を，行動科学的な視点から分析し，理解するための理論的・概念的枠組みの習得ならびに実証研究のための方法論の習得を目指す。 （オムニバス方式／全 15 回） （175　小宮　あすか・6　坂田　桐子／1 回）（共同） ガイダンス （175　小宮　あすか／7 回） 文化心理学の最新の知見と研究手法について概説し，人の行動の機序を考察する。 （6　坂田　桐子／7 回） 集団心理学の最新の知見と研究手法について概説し，集団・組織における人の行動について考察する。	オムニバス方式・共同（一部）
		BCM（Business Community Management）	近年日本では様々な災害が起き，多くの被害が出ている。こうした被害を最小限にするためには，防災に関する意識を高め，どのように振る舞うかを理解すること，また一旦災害が起きてしまったら，いかに復旧・復興に取り組まなければならないかを理解することが必要である。またその活動も個人レベルではなく，組織立った体系的な活動が求められる。そのため本講義では， Business Community Management の理念と手法の習得を通して，実践方式の演習を通して，知識の深化と体得をねらいとする。	
		現代哲学	（概要）この授業では，哲学的な文章を正確に理解するトレーニング，及び，哲学的な話題について考え，議論するトレーニングを行うことを通じて，大学院レベルの研究に必要な読解力，思考力を養成する。参加者には，毎回の予習として，（1）教科書の当該箇所を読み，予め配布された確認問題に答える，（2）授業内でのディスカッションに備え，教科書の当該箇所についての自分の考え（意見，疑問，反論，等々）をまとめておく，という二つの準備が求められる。 （オムニバス方式／全 15 回） (285　宮園　健吾／11 回) 第 2 回「環境美学」: 第 3 回「美的経験」: 第 4 回「美的性質」: 第 5 回「芸術の定義」: 第 6 回「芸術作品」: 第 7 回「解釈と意図」: 第 8 回「フィクション」: 第 9 回「描写」: 第 10 回「音楽と詩」: 第 11 回「芸術的価値」: 第 13 回「建築の価値」 (285　宮園　健吾・134　眞嶋　俊造／4 回) 第 1 回「ガイダンス」: 第 12 回「倫理的価値と美的価値」: 第 14&15 回「公開セミナー」	オムニバス方式・共同（一部）
		美的感性論	（概要）「感性の学」としての美学（aesthetics）とその歴史を念頭に，さまざま	オムニバス方

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		な時代の「美」と「趣味（テイスト）」の諸相，「芸術（アート）」と「風景（ランドスケープ）」の諸相を分析する。古典的な芸術諸ジャンルの個別的事象から，現代のメディア，風景・景観，人工知能（ＡＩ），サブカルチャー等とかかわる問題まで射程とする。この授業では，同時にまた，個々のテーマに関連する美学理論史，芸術理論史への目配りも，基礎文献（日本語のほか，英語・独語・仏語など）のテキスト講読を通じておこなわれる。 （オムニバス方式／全 15 回） （98　桑島　秀樹・176　GRAJDIAN MARIA MIHAELA／3 回） 第 1 回～第 2 回：イントロダクション 第 15 回：総括 （98　桑島　秀樹／6 回） 第 3 回～第 8 回：「美」と「感性」，「趣味」と「芸術／技術」の理論展開史とその課題の解説など （176　GRAJDIAN MARIA MIHAELA／6 回） 第 9 回～第 14 回：個別芸術作品の分析・解説など	式・共同（一部）
		文化哲学	（概要）この授業では，主として非英語圏ヨーロッパの文化哲学思想，「芸術／技芸」をあつかった思想を講ずる。現代社会の諸問題とクロスしたアートのあり方が問題となる。特にフランス語圏ないしドイツ語圏のヨーロッパ文化とその基層文化を参照しながら，人間文化のエッセンス，人間存在の根本問題を問うことが目的である。ここでは，「アート」が，技術／技芸（ラテン語の「アルス」，ギリシャ語の「テクネー」）と切り結ぶことを意識させるような，現代の社会事象（倫理・環境・死生観の問題など）が主題となろう。 （オムニバス方式／全 15 回） （134　眞嶋　俊造・285　宮園　健吾／3 回）（共同） 第 1 回～第 2 回：イントロダクション 第 3 回～第 8 回：非英語圏ヨーロッパの文化哲学思想 第 15 回　　：総括 （134　眞嶋　俊造／6 回） 第 3 回～第 8 回：非英語圏ヨーロッパの文化哲学思想 （285　宮園　健吾／6 回） 第 9 回～第 14 回：非英語圏ヨーロッパの芸術技術	オムニバス方式・共同（一部）
		比較芸術論	この授業は，観察と分析に基づき，様々な領野の芸術（アート）をめぐる比較研究を展開する。授業の主眼は，複数の具体的な芸術現象を正確にディスクリプションしたうえで，理論的に比較・検討することにある。特に，一般市民（大衆）が日常生活で享受するような芸術的現象（サブカルチャーにふくまれる，大衆演劇・舞踊，広告，漫画，映画，アニメーションなど）もここでの考察対象となる。本授業はおおきく二つの部分から構成される。第一に，学生に芸術にまつわる「文化研究（カルチャー・スタディーズ）」の基本概念を教示すること。第二に，学生は，そこから学習した「文化研究」の概念と方法を，自身の関心のある芸術現象に応用してみずから考えるということ。この二つである。授業の終盤には，受講者各自が，自己の研究結果を担当教員のまえで口頭発表し，その後授業参加者全員でディスカッションをおこなう。 成績評価は，口頭発表とディスカッションの内容を反映させた，学期末に課す試験（もしくはレポート）によって行なう。	共同
		実践倫理学	（概要）本講義の目的は，実践倫理学（応用倫理学）を学ぶことにある。本講義では。哲学の一分野である倫理学の視座より，倫理学的な考え方や倫理学理論，	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		倫理学の議論の方法を通して，私たちが社会で直面する様々な倫理問題について考え，自分の考えを持ち，グループディスカッションを通して自分の考えを言葉にし，また相手の考えに耳を傾け，お互いに考えていくことを目指す。具体的には，概論（第2～4回）では，哲学としての実践倫理学という位置づけを理解した上で，倫理学・応用倫理学の基礎を習得する。続く各論（第5～13回）では，倫理学的思考を実践する対象として，戦争と平和を巡る倫理問題の諸相を検討する。最後に総合ディスカッションと振り返り，まとめ（第14～15回）を行う。 （オムニバス方式／全15回） (134　眞嶋　俊造・285　宮園　健吾／3回) 第1回「はじめに」：第14回「総合ディスカッション」：第15回「まとめ」 （134　眞嶋　俊造／11回） 第3回「実践倫理学の方法1」：第4回「実践倫理学の方法2」：第5回「戦争と平和の倫理のあらまし」：第6回「武力紛争とその諸相」：第7回「子ども兵士と「道徳的罠」」：第8回「自殺攻撃と道徳的責任」：第9回「人質をとることの暴力」：第10回「ドローンと「倫理的」な攻撃 」：第12回「防衛産業と人々の保護」：第13回　「道徳的運と「より少ない悪」 （285　宮園　健吾／1回） 第2回「哲学としての実践倫理学」	
		比較宗教思想史	（概要）日本を東アジア地域，ならびに，中南米地域の文化のなかから生まれた哲学，宗教，科学，芸術，倫理，経済の概念を取りあげて検討する。これらの宗教概念を，インド，中国，ギリシャ，ヨーロッパ，アメリカ，古代オリエント，オセアニア，メソアメリカなどの概念に比較し，思想史のなかで考える。本年度は特に，西田幾多郎の哲学やそこから影響を受けた京都学派を特別に注目する。 （オムニバス方式／全15回） （177　RIGSBY CURTIS ANDREW・178　辻　輝之／6回） 第1回～第4回：イントロダクション 第14回～第15回：総括 （177　RIGSBY CURTIS ANDREW／9回） 第5回～第13回：本年度のテーマ：西田幾多郎の哲学（リグスビー）	オムニバス方式・共同（一部）
		マイノリティ文化思想	（概要）この授業は，「マイノリティ」として生きる，また，生きることを強制された人々の歴史を考察し，「関与する学び（Engaged Learning)」の場を提供する理論と方法を考える。具体的には，日本や中南米の地域での宗教・信仰のあり方が話題となる。現代社会では，グローバル化による多様化と，それに対する許容を特徴とする一方，格差の広がりや，反動としての差別と排除が跋扈し，これまで以上に「マイノリティ」の生き方が注目を集めている。われわれは，同じ時代を生きる当事者として，彼らにどのように向き合い，彼らの生きる力から何を学ぶべきか。その思想の理論化を主眼としたい。授業では，学生が講義とリーディングから得た概念や理論的枠組みをツールとして，ディスカッションと個人，グループでのプロジェクを通してマイノリティについて，自ら発意，理解，体得することに重きをおく。本授業のキーワード：権力（Power)；文化（Culture)；マイノリティ（Minority)；差別（Discrimination)；偏見（Prejudice)；ステレオタイプ(Stereotype)；人種（Race)；エスニシティ（Ethnicity)；ジェンダー（Gender)；セクシュアリティ（Sexuality）。 （オムニバス方式／全15回） （177　RIGSBY CURTIS ANDREW・178　辻　輝之／3回） 第1回～第2回：イントロダクション 第15回：総括	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		（178　辻　輝之／12回） 第3回～第10回：本年度のテーマ：中南米地域の宗教事情の講義 第10回～第14回：「マイノリティ」一般にかんする解説と討議	
		日本地域研究	アジアのなかの「日本地域」という視点から，歴史的な日本の社会・文化の特色を考える。主として扱う時代は古代・中世だが，近代日本の国家や現代の日本社会が日本固有の文化をそのなかに見出してきた眼差しも意識する。過去の歴史がナショナル・アイデンティティの形成においてどのように理解され，また逆にそうした現代の視点を取り除いたとき，歴史はいかに捉え直されるべきかを考えながら，国際社会における日本の伝統的，地域的な文化・社会のありようを深く理解する視点を学ぶ。授業は年度毎に具体的なテーマを設定して行う。受講者はテキストとして指定された論文を分担して発表し，その内容について全員で議論する形で進める。	共同
		日本文藝社会研究	日本近代文学の文学史を追いながら，歴史的社会的背景と関連づけて考えることを目指す。まず日本近代文学を研究するための基本的な知識と方法（文学理論など）を修得する。その後，日本近代の文学作品とそれを取り巻く時代背景，各々の作品の研究状況を探りながら，歴史的社会的背景，本講義では戦争・植民地と日本近代文学の関係について考える。授業の方法としてはテキストとして指定した研究書の諸論文をそこで言及された作品や研究論文も含めて読解をしていく。指定したテキスト以外にも適宜プリントを配布して様々な作家や批評家の発言，研究史を概観する。その後，随時担当者を決め，担当者は選んだ文学作品と関連する論文について報告し，受講者全員で討論する。	共同
		アジア文化論（現代文化）	本講義は中国語圏をはじめ，日本や朝鮮半島などアジア地域の現代文化について考察するのが目的である。地域によって時期区分が多少異なるが，基本的に20世紀から現在までの期間を中心に文化の伝承，創造，変容について考察する。授業は，年度ごとにテーマを選定し，そのテーマに応じて文学作品，映像や評論を幅広く講読する形式で行う。原則として，日本語で書かれたもの又は日本語に翻訳されたものを扱うため，日本語以外の言語知識は特に前提としていない。受講者は，事前に講読テキストを分担して発表し，発表内容をめぐって全員で議論していくことが求められる。	共同
		アジア文化論（表象文化）	朝鮮戦争休戦後，朝鮮半島は南北に分断されたままにある。韓国では，２０世紀後半から今日に至るまで，韓流シネマが勃興するなかで，朝鮮半島の南北分断状況を題材にした数々の名画が産み出されてきた。『シュリ』（1999）や『JSA』（2000）や『鋼鉄の雨』（2017）が代表的な例である。この授業では，それらの作品群を「分断映画」ないし「スパイ映画」と呼ぶが，１つ１つの作品を丁寧に鑑賞しながら，韓国の表象文化に対する理解を深めると同時に，韓国の歴史と社会について学ぶ。だが，まずは，作品を分析する眼を養う必要があるだろう。①視点（語り），②時間，③登場人物，④比喩（メタファー）の分析眼にもとづいて作品を分析しながら，それを基礎として，作品の芸術性のみならず，作品の歴史性や政治性についても学際的に分析してゆきたい。	共同
		アジア文化論（伝統文化）	敦煌莫高窟は，4世紀から13世頃までのビジュアル資料である壁画を45000㎡以上も残す，中国の歴史研究資料の宝庫である。また同じ敦煌の莫高窟からは，1900年の初夏，敦煌の莫高窟蔵経洞から6万点をこえるともいわれる膨大な写本群，いわゆる敦煌文献が発見されている。これらの壁画資料と文献資料は貴重な研究資料として保管され研究されてきたが，これらを併せ研究する「敦煌学」によって，これまでに多くの歴史上の謎が解明されてきたのである。 とくに敦煌文献は，何らかの理由によって紀元1000年頃に封蔵された敦煌の寺院に収蔵されていた文書であるとされ，中には仏教経典を始め，道家，儒家関連の文書などの経典類ばかりではなく，帳簿などの経済文書，説経の台本，占いの本，当時流行していた歌詞，小説，学習の為に使用された当時の教材，民間信仰の状況を書き残す資料など，伝世の資料には残されない庶民層の資料が多く残され，社会の状況や庶民の生活についてそれまでに知られてこなかった歴史の裏舞台が知られるようになったのである。 本講義では，こうした敦煌文献の中から，「変文」と呼ばれる講唱文学の台本をテキストとして講読し，そこから読み取れる中国の文化について考えていきたい。	共同
		ヨーロッパ社会論	（概要）白人性とは何か。従来のマイノリティ研究においては，多数派の側の文化や価値観が当然の基準とされ，基準から外れているとされるマイノリティの側に，それらとどう整合性を作り上げていくのかが問われてきた。しかし，当然の	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		基準とされた多数派の文化や価値観自体を考察の対象にする「白人性」研究なしには，社会の抱えるマイノリティ問題解決へのアプローチは不十分とは言えまいか。本講義では，ヨーロッパを，地理的概念ではなく，ヨーロッパからの白人が移り住んで国民国家を形成した南北アメリカやオセアニアを含んだ同質地域として捉え，それらの植民地から国家形成に至る中で生み出された「人種問題」を概観し，白人性研究のテキストを利用しながら，教員と受講生との間で，議論をすることで理解を深めていくことを目指すものである。 （オムニバス方式／全 15 回） （92　長田　浩彰・201　河合　信晴／8 回）（共同） 本講義の概要説明，ガイダンス 概要に示した具体的講義，及びテキスト内容に関するディスカッション （92　長田　浩彰／7 回） 概要に示した具体的講義，及びテキスト内容に関するディスカッション	
		ヨーロッパ文化論	（概要）ヨーロッパにおける余暇文化の展開。近代以降，ヨーロッパでは，それまで混交状態にあった時間が，労働とそれ以外の時間に分離してきた。その中で，余暇は，労働力を回復するためのものという意味を離れて，様々な使いかたが考えられるようになった。また，余暇活動は私的なものとしてだけでなく，社会的な意味を持つこともあった。従来の余暇やそれに関する社会空間の在り方を論じた研究を参考にしながら，余暇が時間そして活動として，ヨーロッパにおいてどのような意味を現在持つに至ったのか，そして，他の地域にはいかなる影響が及んでいるのか，いないのかを，関係するテキストを読み，教員と学生との議論を通じて理解を深めたい。 （オムニバス方式／全 15 回） （201　河合　信晴・92　長田　浩彰／8 回）（共同） 本講義の概要説明，ガイダンス 概要に示した具体的講義，及びテキスト内容に関するディスカッション （201　河合　信晴／7 回） 概要に示した具体的講義，及びテキスト内容に関するディスカッション	オムニバス方式・共同（一部）
		欧米地域研究	（概要）イギリスは，いわゆる産業革命を最初に経験した国であり，また広大な植民地を持つ植民地帝国でもあった。産業革命やイギリス帝国の拡大は今日の世界に重要な影響を与えた出来事であり，現代の日本社会にも影響を及ぼしている。本講義ではこのイギリスの近現代の歴史に焦点をあて，前半では産業革命とそれに伴って発生した環境問題（特に煤煙問題）について，後半ではイギリス帝国の形成から崩壊までの過程と，帝国を支えていた経済的，人的ネットワーク，軍事力やイデオロギー，そして帝国支配が孕んでいた矛盾などの諸側面について検討する。 （オムニバス方式／全 15 回） （183　薩摩　真介・184　春日　あゆか／1 回）（共同） なぜ，イギリス史／イギリス帝国史を学ぶのか？ （184　春日　あゆか／7 回） 産業革命と都市環境の悪化について検討。 （183　薩摩　真介／7 回） イギリス帝国の歴史を 16 世紀から 20 世紀まで検討。	オムニバス方式・共同（一部）
		アジア地域研究	（概要）ウエスタン・インパクト以後の中国において，国家統合・国民統合のための重要な課題として位置づけられた立憲主義の導入と定着の問題について，清末から中華民国，現代中国・台湾までを含む長期的な視点に立って分析を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		その際，特に西洋近代思想の受容を巡る日本・欧米との「思想の連鎖」，中央政府と地域権力の対抗関係などを含む中央―地方関係に着目して，立憲主義の受容とそれを巡る議論，各政権による憲政構想の展開，及び憲政実施の政治過程などについて検討する。これらの分析を通じて，近現代中国における政治統合の特徴と立憲主義の東アジアでの展開の世界史的な意義について考える。 （オムニバス方式／全 15 回） （99　水羽　信男・100　丸田　孝志／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （100　丸田　孝志／7 回） 清末から中華民国国民政府時期までの立憲主義をめぐる中央―地方関係 （99　水羽　信男／7 回） 中華民国国民政府・中華人民共和国・台湾の立憲主義及び日本・欧米との「思想の連鎖」	
		英米社会論（国際関係）	開発主義は一部の人びとには豊かさをもたらす一方で，経済的格差を拡大させてきたことは，よく知られている。この授業では，経済分野と比べてあまり取り上げられることがない軍事開発主義を主として取り扱う。授業では，具体的事例をもとに軍事開発主義の歴史や実態について理解を深めるとともに，それを温存する社会構造について考察する。さらに、以上のような講義内容と並行して，軍事環境問題に関する基本文献（英語，日本語）を講読する。	
		ヒロシマ平和学	カタカナの「ヒロシマ」に違和感を持つ被爆者もいるという。また「ナガサキ」と並列しない単独の「ヒロシマ」の意味とは何か、という疑問もある。他方、平和については非武装中立を是とする立場だけでなく、武力で平和を守るという人びともいる。本講義では、広島の近代から現代の軌跡を多角的に論じ、また平和をめぐる思想の展開過程を基本文献の精読を通じて理解する。だが何よりも重視したいのは、受講生との討論である。それは私たちの「平和を科学する思考力」を深めることを授業の目的とするがゆえである。	共同
		英米文化論	英米で発表された表象作品の分析を通して英米の文化の理解を深める。表象作品は映画を中心とし，一つのテーマに即して年代順にその変遷を見る。その際に，社会の変化，科学的な知見の進展，人々の認識の変化等の多様な力学がその変遷にどのように関わっているかを考えていく。15 回の授業の前半は実際の作品を部分的に見ながら講義を進めるが，受講生に基礎的な文化背景や分析方法への理解が進んだ段階で，受講生にも課題となる作品の分析を試みて貰う。	共同
		英米文藝社会研究	英語圏の文学作品に見られる時代精神の影響や社会との関係について考察する。とりわけ古今東西の有名な紀行文学を取り上げ，講義とテキスト抜粋の読解やディスカッションなどを通して，古代から現代にいたる旅の諸相とその記述スタイルの変遷や，作家たちの異文化を見る眼差しや他者表象のあり方，あるいは性差による相違まで，様々な観点から，ときに日本と比較しつつ，旅と移動をテーマにした文学と社会の関係について理解を深める。	共同
		宗教学	（概要）仏教及びキリスト教は，それぞれ宗派ないし教派に分かれて存在してきた長い歴史を持つ。本講義では，それら宗派・教派が成立してきた歴史と要因について概観することを通して，仏教とキリスト教の全体像を整理して把握すると共に，それぞれの宗教がどのような問題を自宗教にとって本質的な問題と見なしてきたか，また分派とはそもそも何なのかといった問題についての理解を深める。さらには，仏教とキリスト教との比較考察も試みる。 （オムニバス方式／全 15 回） （93　辻　学・187　杉木　恒彦／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （93　辻　学／7 回） キリスト教の歴史と教派の成立過程，各教派の特徴	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		（187　杉木　恒彦／7 回） 仏教の歴史と宗派の成立過程，各宗派の特徴	
		宗教聖典論	宗教の理解には，それぞれの宗教が有している聖典の精読と正確な理解が不可欠である。そこで授業の中で，仏教及びキリスト教が有している主要な聖典を受講者と共に講読していく。受講者は，事前にテキストを分担して読み，その意味するところについて考察した後，授業の中で発表する。聖典の原語（サンスクリット，古代ギリシア語等）の知識は特に前提とはしないが，複数の翻訳を比較し，注釈本にあたるといった作業は準備段階で求められる。	共同
		社会人類学	社会人類学は，社会関係の組織のされ方，及び社会関係の中での自己形成の多様性と変化をフィールドワークによって調べ，特定の社会や事象についての理解を深めると同時に，人間社会一般についての洞察を得ようとする研究領域である。この授業では家族，親族，共同性，主体形成，自己などの特定のトピックに関する社会人類学の議論を紹介することで，受講生が社会人類学の概念，実証的知見，方法に関する知識を習得し，それらを自らが選択した特定の事例の考察・分析に応用できるようになることを目指す。	共同
		民族誌論	この授業では，社会・文化人類学の主要な調査研究方法であり，また調査研究の成果でもある民族誌について論じる。授業の目標は，受講生が，人々の間での参与観察やインタビューの持続的な実施によって特徴づけられる民族誌的アプローチに関する知識を習得すること，異文化／他者の表象に伴う諸問題への理解を深めること，そしてそれらを通して現代世界における民族誌の可能性を探求し，自らの研究実践においても民族誌的手法を活用できるようになることである。授業は，担当者が選定した，民族誌的手法に関する諸文献，及び調査研究成果としての民族誌を講読する形ですすめられる。	共同
		科学・技術・社会論	（概要）ある社会，国において科学者に期待される役割は異なっている。社会のあり方に従い科学者の待遇は変わり，また彼らに要求される知の中身や外界とのコミュニケーションのあり方も変化する。この授業では，社会のアクチュアルな問題と科学者との接点・交渉を取り上げる。前半は戦争と科学(科学者)を，後半は宗教と科学(科学者)をテーマとする。まず教員からそれぞれの問題領域に関する概説と事例研究を提示する。その後，受講者と教員が共通のテキストを使って，当該テーマに沿ったディスカッションを行う。受講者に研究発表をお願いする場合もある。 なお，見学授業を組み入れる場合は講義・ディスカッテョンのテーマは仮のもので，変更される場合があることを了解していただきたい。 （オムニバス方式／全 15 回） （53　市川　浩・135　三村　太郎／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （53　市川　浩／7 回） "戦争と科学者"をテーマとするテキスト(広島大学総合科学部編『"戦争と科学"の諸相－原爆と科学者をめぐる２つのシンポジウムの記録－』－丸善 2006 年－，等々)を輪読する。 （135　三村　太郎／7 回） "宗教と科学者"をテーマとするテキスト(Thomas Dickson『科学と宗教〔サイエンス・パレット〕』－丸善　2013－，等々)を輪読する	オムニバス方式・共同（一部）
		社会文化史	地中海周辺の西ヨーロッパを対象とした活版印刷とそれ以降の書物文化と読書のあり方を16世紀初頭のパリの都市空間の中で具体的に明らかにする。資料には，古地図，物語や旅行記などの文学作品，日記，裁判記録，説教書など様々な文献を使用し，アナール派以降の歴史研究を踏まえた上で，16 世紀パリのトポグラフィーから出発し，当時のテクストに関わる様々な問題を分析しながら，テクストの著者表象，西洋の「個人」の成立と共同体との関わりに焦点を合わせて考察する。	共同
		教育文化史	子どもがある社会のなかに生まれ成長していく過程を「人間形成」とするならば，それを促す行為は，古来，時代とともにそのかたちを変えながら世界各地域で受け継がれてきた。その普遍的な営みは，地域，時代，民族，宗教，階層，性	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		別などさまざまな条件に制約されつつ，まずは家族や共同体のなかでおこなわれてきた。そして，19 世紀の近代国家成立とともに，そうした営みに国家が介入しはじめ，とくに公教育制度というかたちで国家の影響力が拡大していった。本講義では，近代国家成立期から現代にいたるまで変遷を遂げてきた公教育制度が果たしてきた機能及びその意義と問題点について，事前に配布するさまざまな文献を参照しながら，学校と社会との関連において多角的な視点から考察する。	
		異文化理解	異なる文化が交わるときには，さまざまな力関係が働く。本授業では１９世紀終わりのドイツとナイジェリアを舞台とする文学作品（フォンターネの『罪なき罪』とアチェベの『崩れゆく絆』）をおもな題材として取り上げ，それらの力関係を，ジェンダー，民族，人種，階級，国籍などの視点から分析することを学ぶ。さらに，東アジアの同時代を舞台にする文学作品も比較の対象としてとりあげる。	共同
		持続可能な観光発展論	（概要）この授業は持続可能な観光に関する理解を深めることを目的とする。観光の発展は環境，社会，文化，経済の側面で地域に影響を与える。そこでまず，観光地理学の分析方法を学びながら観光と地域発展の相互関係を理解する。次に観光の影響を評価する基準や方法とその課題について学ぶ。最後に受講者が事例を取り上げ，評価を試みる。授業は完全に英語で実施し、学生による発表とディスカッションも基本的に英語で行うが，レポートを日本語で提出することも可能とする。 （オムニバス方式／全 15 回） （102　FUNCK，CAROLIN・ELISABETH HANNA・202　張　慶在／3 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 持続可能な観光とその事例についてのディスカッション （102　FUNCK，CAROLIN・ELISABETH HANNA／12 回） 持続可能な観光発展論についての講義	オムニバス方式・共同（一部）
		文化観光論	（概要）本授業は，文化観光（Cultural Tourism）について総合的理解を深めることを目的とする。まず，グローバル文化観光のフレームワークを理解した上，文化観光に関わる政治，経済，社会的イッシューについて学ぶ。その中で，ヘリテージツーリズム，先住民観光，アート観光，コンテンツツーリズムの事例を紹介する。最後に，受講者の発表を聞いてディスカッションを行う。授業とディスカッションは英語での実施を基本とする。 (オムニバス方式／全 15 回) （202　張　慶在・102　FUNCK，CAROLIN・ELISABETH HANNA／3 回）（共同） ガイダンス，授業の目的と到達目標を説明 様々な文化観光の事例についてディスカッションを行う。 （202　張　慶在／12 回） 文化観光についての講義	オムニバス方式・共同（一部）
		社会動態論	基礎的な文献・資料をテキストにして，日本社会の基底的な変化の動向とそれに伴う社会問題，及び対応策を検討する。受講者は指定のテキストと配布資料を精読し，講義で取り上げる問題を事前に検討し，疑問を持って授業に臨むことを予習課題とする。授業では次のよう問題を取り上げる。1 二〇世紀以降の日本の人口動態の特徴。3 戦後日本の社会経済的な変化の特徴。3 グローバリゼーションの進行と日本社会への影響。4 日本の格差の拡大はどこまで進んでいるのか，その原因と影響に関する近年の議論。5 格差の拡大に伴う社会問題の特徴。5 現在の社会保障制度の特徴と問題点。6 現代の社会経済構造に対応して社会保障制度やセーフティネットを再構築する必要性と方向性。	共同
		社会構造論	本講義の目的は，グローバル社会における諸問題を，社会の構造的側面に依拠して分析することである。講義前半部では，日本社会における事象を検討する。例えば，現在日本において問題となっている，少子高齢化の進行と日本の人口構造，地域社会における過疎化の進行と村落の近代化，労働市場における外国人労	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		働者の受け入れと企業組織の構造等について，社会構造の変動過程の観点から考察する。後半部では，グローバル社会における事象を検討する。例えば，現在アメリカで深刻な社会問題となっている中南米からの移民の問題を取り上げる。この問題に関する論点を整理，検討後，本講義では，特に北米（中核）と中南米（周辺）における国家間の階層構造が，移民の発生とどのように関わるかという観点からこの問題を考察する。講義は関連テキストの講読により進める。	
		社会学研究法	社会現象の成立，維持，変化などに関して，正確な認識を得るには，科学的な方法により人間社会にアプローチすることが不可欠である。本講義では，社会学の手法を用いて生産された書籍や論文を読みながら，社会研究のための理論と方法を習得することを目的とする。研究法とはいえ，方法が独立して存在するわけではない。そこで，最初にアクチュアルな社会研究の事例について具体的なイメージを共有するために，担当教員がそれぞれの専門分野において，定性的及び定量的調査を用い，どのような実践がなされているかを解説する。その後，上述のテキストにもとづき，毎回の分担者を決め，全員が参加する演習形式で報告・討議を行う。	共同
		福祉社会論	（概要）人口構成の変化やグローバル化の進展のなか，日本の福祉社会は現在，曲がり角にある。このことを念頭に，本講義では 21 世紀の日本において，すべての人々の「人間らしい生活」を皆で公平に支えあう，持続可能な福祉社会を如何に構築するかという問いを考察するための基礎知識の理解を深めることをねらう。そのために前半では，社会福祉の歴史,諸理論,諸理論の背景にある価値観（哲学）を検討する。次いで後半では，高齢者福祉，子どもの貧困，人口減少地域の地域福祉，外国籍住民の社会福祉といった現代日本が直面する喫緊の課題をとりあげ，検討する。 （オムニバス方式／全 15 回） （191　佐々木　宏・192　河本　尚枝／1 回）（共同） 本講義のガイダンス，概要説明 （191　佐々木　宏／7 回） 社会福祉の歴史，理論，哲学 （192　河本　尚枝／7 回） 現代日本の社会福祉の諸課題	オムニバス方式・共同（一部）
		世界経済体制論	情報革命に伴う世界経済体制の転換過程，つまり，産業革命後の世界工業経済体制との連続性と断絶性を捉えるために，富塚良三の 『経済原論』を使って，19 世紀の K.マルクスの『資本論』の基本概念とその現代的意義を解説する。その上で，21 世紀に入って，なぜ，99%対 1%といった不平等が世界規模で同時進行しているかを生産財・消費財・公共材の 3 部門間の拡大再生表式論でもって検証する。本授業を通して，19 世紀と 20 世紀を比較しながら，現段階の世界経済構造と世界統治形態を総合的に捉えることができる。	共同
		産業システム論	現在の産業は，多くの領域で，グローバル化や自動化などの大きな技術革新の中にある。また従来の産業の枠を超えた提携・合併などが進行している。こうした変化を理解するために，本講義は，産業論の新しい分析手法を学ぶとともに，主要産業の分析事例を学ぶことを目的とする。特に素材産業から電子部品などまでと，裾野が広い総合産業である自動車産業を中心として扱うことで企業間関係について考察する。また非対称性を持つ部品メーカーだけでなく，グローバル・サプライヤーも対象とすることで，現在の特徴を理解することを目指す。	共同
		農村環境社会論	本講義では，農村社会と自然環境をめぐる諸現象や諸問題を解きほぐすために，農村の構造と動態に関する研究史を解説し，近年の主要な議論の論点を整理する。農山漁村で生じる出来事は，地方社会の骨格となる集団とネットワークの基本構造とその動態を抜きにして理解することはできない。講義の前半では，農村理解のベースとなる考えや学説（家村論，共同体論，自治会論，ネットワーク論，移動論など）を解説し，講義の後半では，近年の議論の動向（環境，コモンズ，ジェンダー，国際比較，地域再生）を検討する。	共同
		持続可能地域論	持続可能な地域とはどのようなものか，そのような地域をつくるために何が必要かを，地理学・環境社会学等の視点から，受講生との討議を交えつつ検討する。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		具体的には，いくつか取り上げるテーマに絞って，上記の問いに答えるために，基本的な情報を学ぶとともに，どのような研究計画を構想できるか，討議を通じて考えていく。取り上げるテーマとしては，環境市民活動の意義と役割は何か，環境保全に市民参加を促すために何が必要か，自然環境の保全や野生生物の保護のためになぜその利用を考える必要があるのか，自然の保護・保全につながる利用とはいかなるものであるのか，などを想定している。	
		地域情報論	地域に固有の情報がどのようにして成立するかを考察するとともに，地域を活性化させていくために有効な、新しい価値を生み出すそれぞれの地域固有の情報活用に取り組み成果を挙げている事例について考察を深めていく。授業の中では主に広島県内の事例を紹介し分析していくことによって，地域情報の利活用の仕方について理解を深めるとともに，自らも地域情報によって新しい価値を創造し提案していくことができる能力を身につける。	共同
		生命機能化学	本講義では、生化学及び基礎内分泌学の視点から生命科学の先端的な知見や技術を俯瞰し，その発展性について議論する。まず基礎的な分野と応用的分野のトピックについて掘り下げてその歴史と展開について，次に周辺領域への普及効果や将来性について講義及び討論を行なう。さらに異分野融合型の研究について，その成立と背景，発展性と将来性についての学生主体のアクティブラーニングを行い，より俯瞰的，総合的な視点を育成する。	講義　14 時間 演習　16 時間
		生態系循環論	(概要)本講義では，森林をはじめとする陸上生態系における物質循環，エネルギー・熱収支に関する基本的事項とその研究手法，応用について学ぶ。 （オムニバス方式／全 15 回） （223　中坪　孝之／5 回） 植物による光合成生産，微生物による有機物分解をベースに，陸上生態系における炭素動態と環境要因との関連について学ぶ。 （287　土谷　彰男／5 回） 森林と非森林地域の温湿度環境，エネルギー収支・放射収支・熱収支，水蒸気パラメーターの違いを習得する。また，森林消失で気候緩和作用がなくなると地表面の気候環境がどうなるか考える。さらに，森林復元と持続的利用を両立するアグロフォレストリーについて考える。 （296　戸田　求／5 回） 森林生態系を対象に，微細気象学及び生態系生態学の観点から，積雪なども加味した大気—森林間の相互作用や生態系における炭素・窒素循環に関する理解を深める。	オムニバス方式
		情報システム論	（概要）大きく発展変貌する情報基盤システムとそれが及ぼす人間生活への影響，人間の行動特性という観点から，情報化を議論する。また，このような変革を可能とする情報テクノロジーの基礎技術について論ずる。さらに，社会システムとして学生生活に密接に関係のある大学情報システム等を例に，情報ネットワーク構築や情報に関する基礎技術や先進的な利活用事例などについて議論する。 （オムニバス方式／全 15 回） （261　相原　玲二／8 回） インターネットの歴史と社会的影響，情報ネットワーク技術及び通信方式の概要について講義し，通信方式（ネットワークプロトコル）の基礎について学習する。さらに，実際のネットワーク技術の基礎について理解を深めるため，大規模キャンパスネットワークの事例研究を行う。 （288　近堂　徹／7 回） コンピュータやネットワークの技術を基礎として，大規模分散システムに関する理論や要素技術について講義する。さらにそれらを利用したクラウドサービスやウェブサービスに関する事例研究を行う。	オムニバス方式
		地球表層物質輸送論	（概要）地球表層の物質循環に対して人間活動の影響が様々な地球環境問題を引き起こしてきた。本講義では、地球表層における物質輸送の基盤となる地質構造	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム		とそれに及ぼす地形過程を学ぶとともに、人間活動と密接な物質循環として窒素及びリンの輸送を学ぶ。特に、それを支配する水文過程についても理解する。 （オムニバス方式／全 15 回） （301　平山　恭之／7 回） 前半「地質構造と地形過程」を担当。 （262　小野寺　真一／8 回） 後半「窒素・リン輸送と人間活動」を担当。	
		自然環境リスク論	（概要）地球環境問題、自然災害、環境汚染、資源枯渇、生物種の絶滅など自然環境に関わるリスクは多様である。また、これらのリスクを予測するためには、特にそのリスクが顕在化する過程すなわち時間的に変化することを理解することは重要である。本講義では自然環境に関わる様々なリスクに関して、その多様性と時間的な変化について広く学ぶことを目的とする。 （オムニバス方式／全 15 回） （262　小野寺　真一／3 回） 概要、資源枯渇リスク、土壌劣化リスク （301　平山　恭之／2 回） 地質構造と自然災害リスク （302　児子　修司／2 回） 生物種の絶滅リスクを古生物から紐解く （289　横山　正／2 回） 風化と自然由来物質汚染リスク （290　並木　敦子／2 回） 火山地域のリスク （291　小澤　久／2 回） 気象災害リスク （270　長谷川　祐治／2 回） 土砂災害リスク	オムニバス方式
		気候変動災害論	（概要）本授業では、気候変動の問題と，土砂災害の問題とを関連づけて論じる。まず気候システムの変動のしくみを，理論や観測データの分析に基づいて総合的に論じ、気候の変動や災害の軽減につながる基礎的な概念を提示するとともに、気候変動がもたらす現象としての土砂災害の発生メカニズムを知るために，降雨とそのとらえ方、斜面の土の力学的特性、土塊の移動現象などの物理的な見方を紹介し，受講者の理解を深めていく。 （オムニバス方式／全 15 回） （291　小澤　久／8 回） 第 1 部「気候変動論」を担当。 （270　長谷川　祐治／7 回） 第 2 部「土砂災害論」を担当。	オムニバス方式
		生物多様性科学	（概要）本講義では，生物多様性に関する知見を包括的に理解することを目的に，まず，生物多様性の概念を明確に捉えられるようにするための講義を前半で展開し，同時に生物多様性が維持されるしくみについても説明する。講義の後半では，生物多様性の損失問題について展開し，生物多様性の損失の実態や損失がもたらす悪影響について講義を行い，生物多様性を保全する必要性の理解を促す。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			（オムニバス方式／全 15 回） （263　奥田　敏統／9 回） (1) 生物多様性とは何か説明できる（第 2 回～4 回），(2) 生物多様性が維持されるしくみを説明できる（第 5 回），(3) 生物多様性を評価できる（第 6～8 回），(4) 生物多様性の機能を説明できる（第 9 回） （264　山田　俊弘／6 回） (5) 生物多様性の損失の概要を説明でき，生物多様性を保全する理由を述べることができ，生物多様性の保全方策をあげることができる（第 10 回～15 回）という 5 つの到達目標を設定する。	
プログラム専門科目		特別研究	（概要）人文科学，社会科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに，修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定，検討課題の整理，既存研究のレビュー，調査・実験の方法，データ処理・分析手法，論文執筆，発表方法の習得（研究倫理を含む）等，研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため，指導を行う。 **人文学プログラム** （221　佐藤　利行） 修士論文作成のための資料の収集・整理，その読解力などを深める。 （28　高永　茂） 言語学，コミュニケーション学に関する知識を基礎として，実証的な研究を行ってもらいたいと考えている。 （56　中村　平） 日本学，人類学，歴史学，社会思想史，文化理論などの諸領域における知見に学びつつ，こうした人文学の広さのなかで自分の問題意識に沿った方法論を思考し，周囲の人々と討議し，獲得することを方針としている。 （8　溝渕　園子） 翻訳文学や世界文学を含む比較文学や，国際的な視点から見た日本近現代文学の研究指導を行う。 （245　本田　義央） 学生の研究課題に応じて修士論文執筆を指導する。 （153　LAURI KITSNIK ） 映像を中心とした表象文化に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。 （210　劉　金鵬） 戦後日本知識人のアジア論を中心とする日本現代史に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。 （46　後藤　弘志） 西洋哲学に関する修士論文の作成を通じて学界水準の研究能力を身に付けられるよう，または特定課題研究の作成を通じて教員・学芸員・公務員などの専門職業人に求められる能力を身に付けられるよう指導する。 （116　赤井　清晃） 西洋哲学に関する修士論文の作成を通じて学界水準の研究能力を身に付けられるよう，または特定課題研究の作成を通じて教員・学芸員・公務員などの専門職業人に求められる能力を身に付けられるよう指導する。 （138　硲　智樹）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			西洋哲学に関する修士論文の作成を通じて学界水準の研究能力を身に付けられるよう，または特定課題研究の作成を通じて教員・学芸員・公務員などの専門職業人に求められる能力を身に付けられるよう指導する。 （57　根本　裕史） 修士論文作成のための文献研究指導。 （106　川村　悠人） 修士論文作成のための文献研究指導。 （9　衞藤　吉則） 修士論文の作成に当たり，研究課題の選定，先行研究の把握，資料の収集・分析，論文作成の方法を指導し，論文作成の助言をおこなう。 （107　後藤　雄太） 修士論文作成の指導。資料の扱い方，原典の読解の仕方，さらに，文章の作成，独創性の発揮，論文の構成のあり方等を指導する。 （299　岡本　慎平） ロボット倫理学を中心とした応用倫理学に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。 （29　有馬　卓也） 漢代から魏晋南北朝期に至る思想・文化，及び日本思想に関する研究指導を行う。 （10　末永　高康） 経学及び先秦諸子，並びに出土文献を資料とする哲学・思想に関する研究指導を行う。 （11　本多　博之） 日本中世史研究に関する修士論文に取り組む学生を個別に指導する。 （58　中山　富廣） 日本近世史研究に関する修士論文に取り組む学生を個別に指導する。 （108　奈良　勝司） 明治維新をはさむ１９世紀日本の歴史に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。 （59　金子　肇） 近現代中国史専攻の院生を対象に修士論文執筆能力を養成する。 （30　八尾　隆生） アジア史専攻の院生を対象に修士論文執筆能力を養成する。 （117　舩田　善之） 前近代中国史・内陸アジア史専攻の院生を対象に修士論文執筆能力を養成する。 （31　井内　太郎） 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて，近代史専攻学生の個別指導を行う。 （12　前野　弘志） 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて，古代史専攻学生の個別指導を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（139　足立　孝） 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて，中世史専攻学生の個別指導を行う。 （32　有元　伸子） 個別指導と集団指導を組み合わせつつ，論文の構想から執筆までの支援を行って，修士論文の完成を目指す。 （44　久保田　啓一） 日本古典文学（主に近世文学）に関する修士論文の完成に至るまで懇切な指導を行う。 （47　妹尾　好信） ゼミ形式による集団指導を基本としつつ，日本古典文学（特に古代・中世文学）に関する修士論文の完成まで丁寧な指導を行う。 （141　白井　純） 日本語学に関する修士論文を作成，完成させるまで懇切に指導する。 （140　下岡　友加） 日本近現代文学に関する修士論文を作成するに必要となる指導を行う。 （13　小川　恒男） 中国古典詩を研究対象として修士論文を作成する院生を主に指導する。 （60　川島　優子） 中国の古典小説を研究対象として修士論文を作成する院生を主に指導する。 （142　陳　チュウ） 中国古典文学，文献学及び東アジアン書籍・学術交流史を研究テーマとして修士論文を作成する院生を主に指導する。 （33　大地　真介） アメリカ文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （61　吉中　孝志） イギリス戯曲・詩文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （70　VALLINS DAVID MCNEILL） 英語圏文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （154　倉田　賢一） イギリス小説を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （206　松本　舞） イギリスの形而上派詩文学等に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。 （14　今林　修） 英語学の修士論文作成または特別研究課題のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。 （143　大野　英志） 英語学の修士論文作成または特別研究課題のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。 （15　小林　英起子）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			近現代ドイツ文学を中心に修士論文執筆に向けた個別指導を行う。 （71　FEDERMAIR LEOPOLD） 近現代ドイツ語圏文学を中心に修士論文執筆に向けた個別指導を行う。 （144　今道　晴彦） ドイツ語コーパス言語学を中心に修士論文執筆に向けた個別指導を行う。 （34　宮川　朗子） 修士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし，個別的な指導を行う。 （156　LORRILLARD OLIVIER ALAIN） 修士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし，個別的な指導を行う。 （155　BEAUVIEUX MARIE NOELLE BENEDICTE ISABELL） 修士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし，個別的な指導を行う。 （35　今田　良信） 学生のより良い修士論文の完成のため，言語学の一般的観点，および各教員の専門領域の観点から内容・方法論などについて的確な助言を与える。 （109　上野　貴史） 学生のより良い修士論文の完成のため，言語学の一般的観点，および各教員の専門領域の観点から内容・方法論などについて的確な助言を与える。 （137　深見　兼孝） 韓国語を中心とした東洋の言語に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。 （37　奥村　晃史） 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。 （36　友澤　和夫） 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。 （145　後藤　拓也） 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。 （118　後藤　秀昭） 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。 （62　竹広　文明） 石器文化，石器石材の利用・流通の通史的な調査研究から，先史時代における社会複雑化過程の解明を行う。 （38　野島　永） 弥生時代･古墳時代から古代にかけての鉄器文化の考古学的研究を行う。 （146　有松　唯） 西アジア初期鉄器時代の土器文化研究から，当該期の社会構造研究を行う。 （16　安嶋　紀昭） 美術作品（絵画・彫刻・書蹟など）に関する修士論文執筆指導。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（110　伊藤　奈保子） 東南アジアの宗教美術に関する研究・日本の工芸に関する研究についての論文指導。 **心理学プログラム** （220　宮谷　真人） 実験系心理学，特に，注意，記憶，言語などの心の働きに関する研究指導を行う。 （69　中條　和光） 学習心理学・認知心理学，特に，記憶に関する認知心理学的研究，文・文章理解に関する研究の研究指導を行う。 （42　森永　康子） 社会心理学，特に，ジェンダーに関する社会心理学的研究の研究指導を行う。 （72　湯澤　正通） 教育・社会系心理学，特に，概念・思考の発達と教育に関する研究指導を行う。 （26　森田　愛子） 教育心理学・認知心理学，特に，読解や記憶，教材デザイン，学習意欲に関する研究指導を行う。 （27　杉村　和美） 発達心理学，特に，青年のアイデンティティ発達プロセスに関する研究指導を行う。 （45　杉村　伸一郎） 幼児心理学，特に，幼児期における認知発達と遊びに関する研究指導を行う。 （152　中尾　敬） 認知心理学・神経科学，特に，自己，迷い，意思決定などに関わる心と脳の機能に関する研究指導を行う。 （136　中島　健一郎） 社会心理学，特に，自己，他者，集団，社会の重層性に関する研究指導を行う。 （115　梅村　比丘） 発達心理学，特に，アタッチメント理論（愛着理論），日本文化における子どもの発達と適応・不適応に関する研究指導を行う。 （123　清水　寿代） 幼児心理学，特に，幼児期の社会性の発達と適応に関する研究指導を行う。 （199　平川　真） 社会心理学，特に，意図伝達過程及び他者の態度表象の形成過程に関する研究指導を行う。 （208　神原　利宗） 言語心理学，特に，ことばの学び，理解，発話に関する研究指導を行う。 （17　服巻　豊） 臨床心理学・コミュニティ心理学，特に，緩和ケア，透析ケア，ストレスマネジメントに関する研究指導を行う。 （63　石田　弓） 臨床心理学，特に，臨床描画法の研究及び学校心理臨床に関する研究指導を行	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			う。 （147　尾形　明子） 　臨床心理学，特に，医療心理学，子どもの心理的問題，認知行動療法に関する研究指導を行う。 （111　上手　由香） 　臨床心理学，特に，力動的心理療法におけるトラウマへの援助，思春期・青年期の心理臨床に関する研究指導を行う。 **法学・政治学プログラム** （18　江頭　大藏） 　社会学の概念や研究手法を用いた現代社会の分析に関する研究指導を行う。 （74　横藤田　誠） 　憲法又は医事法に関する修士論文の作成に対する指導を行う。 　受講者の修士論文のテーマ案に関連する文献を講読し，討論していく中で，テーマを確定する。テーマ確定後は，それに 関する発表・討論の中で考察を深めていく。 　毎回，受講者が修士論文のテーマに関する発表を行い，それに対して教員が質問・助言を行い，その後他の受講者を交えて討論を行う。参考文献等は随時指示する。 　必要に応じ，修士論文のテーマについて教員がレクチャーを行い，その後討論を行う。 （19　宮永　文雄） 　民事手続の理論と実務，及び裁判外紛争処理に関する研究指導を行う （79　堀田　親臣） 　民法（財産法）の中でも，不動産を中心とした所有・利用関係の諸問題，それが担保に供されたときの法律関係，侵害に対する効力等の問題について教育・研究指導を行う。また，不動産と関わりの深い環境問題や自然災害に関する法的問題についても，主として私法の視点から教育・研究指導を行う。 （160　茂木　康俊） 　比較自治体論や行政学に関する研究指導を行う。 （77　森邊　成一） 　修士論文の作成に向けて，最初のセメスターでは，個々の学生の問題関心に合わせて，研究課題が設定できるように学習を指導する。また，政治学上の様々な理論モデルについて学習する。　第二セメスターでは，研究史を整理し研究課題を学問的に提起できるようになるとともに，資料収集の方法を指導し，国立公文書館や国会図書館などの利用ができるようになることを目指す。また，研究課題の分析を進めるにあたって，適用可能な理論モデルについての理解を深める。第三セメスターでは，使用する理論モデルを定めるとともに，必要な資料を収集・整理する。第四セメスターでは，修士論文の執筆を，添削を含めて指導する。 （83　吉中　信人） 　博士課程前期院生が，学術的な修士論文を作成できるようになることを目的として，刑事法領域における受講生の専門的テーマに対応した指導を行う。第一段階として，参照すべき文献・資料等の指導，比較法的見地からの外国法制度の指導，アプローチの方法について，専門的論文作成のために不可欠な方法論の確立を目指す。第二段階として，受講生が定めたテーマについて，内容の吟味を行い，既存の判例・学説に対する正確な理解を確認しつつ，その分析と総合について，徹底した討論を行う。最終段階として，導出された既存の判例・学説状況の当否を検討し，その上で私見の提示が行えるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（81　三井　正信） 労働法の観点から，理論状況を的確に押さえ雇用社会の現実やワーキングライフの展開をも踏まえつつ修士論文のテーマの選定，修士論文の全体構成案の作成，修士論文テーマに関する文献資料の収集・調査，修士論文の中間発表を総合的・有機的に行う。 （80　松原　正至） 修士論文の作成に向け，個々の学生のテーマにしたがって，論点整理とともに判例の分析や文献の読み込みを行う。それを繰り返すことで修士論文の完成を目指す。 （78　手塚　貴大） この授業は，大学院生が執筆した租税法に関する修士論文の指導を行い，完成にまで導くことを目的とする。素材は院生の発表する論文草稿である。 （82　西谷　元） 国際法また国際機構法に関する知識を前提に，論文作成のための研究指導を行う。 （2　吉田　修） 国際関係，外国政治，地域研究の分野での論文指導を行う。文献レビュー，章構成，分析手法や論理的枠組み等について検討する。 （247　永山　博之） 特別演習Ｉの内容を継承して，国際政治学及び安全保障についての研究成果を修士論文の作成に生かしていけるように，履修者に対して研究指導を行う。 （75　鈴木　玉緒） 社会学を専攻する大学院生が，論文執筆のための先行研究の探索と読み込みを行います。まずは先行研究をベースとして拡充すべき論点の抽出やその再調査を行いつつ，周辺関連分野における文献の渉猟や，海外との比較などの作業を，必要に応じて行う予定です。 （76　浅利　宙） 社会学の方法論を基盤に，主に法社会学の研究領域，及び家族，地域社会，社会福祉に関連する領域の論文作成指導を行う。 （158　井上　嘉仁） 憲法学に関する修士論文を作成するのに必要な指導をおこなう。アメリカの憲法判例及び Law Review の検討を中心におこなう。 （161　山口　幹雄） 日本民法における債権発生原因（契約，事務管理，不当利得及び不法行為）の法的規律等に関する研究指導を行う。 （157　岡田　昌浩） 主に企業法の領域に関し研究し，修士論文を作成する。 （159　田中　優輝） 刑事法，その中でもとりわけ実体法に関する論文作成指導を行う。 （73　折橋　洋介） 行政法学の研究を自ら行う能力を養うことを目的とする。 （164　加藤　紫帆） 国際私法（又は抵触法。以下，「抵触法」という）とは，二つ以上の（国家）法秩序に関連を有する私人間の法律関係から生じる法的問題を扱う法律ないし法分	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			野であるが，本特別研究では，抵触法上の問題を題材とする論文を執筆する予定の学生に対して論文指導を行なう。 （163　湯川　勇人） 受講者は，歴史的又は現代的な日本外交の事象，問題とそれを取り巻く国際関係を取り上げ，そのテーマについての修士論文を作成する。 （162　長久　明日香） 国際政治経済に関する研究指導を行う。国際関係論，国際政治経済学の理論に基づき，テーマの設定，分析方法について議論した上で，各自の研究関心に沿った論文作成を指導する。具体的な指導方法は各自の専門によって異なるが，基本的には理論に基づいた事例研究の方法について検討した上で論文作成を行ってもらい，その内容を添削する形で進める。 **経済学プログラム** （64　瀧　敦弘） 労働経済学又は労使関係論を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。理論分析・実証分析の指導だけではなく，それらのプレゼンについても指導する。 （49　千田　隆） 金融論を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は金融政策の理論的分析能力を習得したうえで，計量経済学の本を講読し，金融政策の効果の数量分析を行うことである。 （84　山田　宏） 計量経済分析手法の開発・評価もしくは応用を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。研究テーマに関して，(計量経済学の分野に限らない広い分野における)最先端の研究動向の把握とそうした研究内容への深い理解を踏まえた競争力のある研究論文を作成するために必要な事項を扱う。 （85　早川　和彦） 計量経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は，自分自身で，理論的な分析と数値実験ができるようなることである。 （86　西埜　晴久） 計量分析の手法の開発及びその応用を行う。特に，いくつかの応用分野を選定して行う。具体的には，経済不平等度，保険データ，人口統計といった経済・金融データ分析を対象とする。そのために海外で標準的なテキストブック及び英語文献を読み解き，理解する能力を養う。合わせてデータ分析のためのプログラミングの能力を育成し，必要に応じてシミュレーション実験も行うこととする。 （87　二村　博司） 財政学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は財政政策の理論的分析能力を習得したうえで，各自パソコンを用いて，財政政策の効果の数量分析を行うことである。 （20　大澤　俊一） 財政学・公共経済学・地方財政論・環境経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は様々な経済政策の経済学的手法による分析と英語の論文を読解する能力を養うことである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（21　大内田　康徳） 競争政策や環境政策に関連した分野を専攻する学生を対象とした修士論文の作成を指導する。政策的な議論のために求められる理論的な分析能力を習得し，そして応用ミクロ経済学の手法などを用いた政策分析を行うことを目標とする。 （88　山口　力） 公共経済学の分野における修士論文の執筆指導を行う。関連論文のサーベイを通した既存研究の整理を行ったうえで，独創的な研究を行い，その成果を論文としてまとめることを目的とする。 （65　友田　康信） 応用理論研究の手法に基づいて，修士論文の作成指導を行う。当該分野の先行研究のサーベイを踏まえて，学生の問題意識にふさわしい独自の応用理論モデルを盛り込んだ修士論文の作成を目標とする。 （165　安武　公一） 計算社会科学（Computational Social Science），深層学習（Deep Learning）など新しい社会科学アプローチの習得も視野に入れて，修士論文の作成指導を行う。具体的には，最先端の論文・文献の精読とサーベイ，研究課題となる「問」の導出，「問」への「解」を導くために必要なデータ解析手法，基礎理論の習得，国内外での研究発表等について，個別指導を行う。 （89　森　良次） 欧米経済史を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は指導学生の研究テーマ・実証課題を具体化することであり，そのために研究テーマに関連する先行研究の輪読を行う。 （166　宮澤　和敏） 経済学史を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は，経済学史上の諸学説の方法的・理論的特徴を理解するとともに，経済学の歴史を通して発展してきた資本主義経済の基礎理論について基本的知識を習得することである。 （119　小野　貞幸） ファイナンス分野の修士論文の主要目的である実証を行うための高度なデータ解析手法を習得する。論文の題目を決定し関連した研究論文の概要の発表を行いファイナンスにおける研究分野の知識を深める。 （48　鈴木　喜久） ファイナンスを専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標はファイナンス分野の諸問題・諸現象に対する理論的分析能力を修得したうえで，実際のデータを用いた計量ファイナンス手法による実証分析を行い，対象とする理論及び現象に関する理解を深めることである。 （128　山根　明子） ファイナンスを専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は，ファイナンスに関する理論的分析能力を習得したうえで，証券市場に関する実証分析を行うことである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（112　大河内　治） ゲーム理論のモデルを応用する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は経済政策の理論的分析能力を習得したうえで，各経済主体の戦略的な行動と，経済政策，制度改革の現実的な効果を理論的に分析することである。 （120　折登　由希子） 経済情報分析を研究テーマとする学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。経済学分野における最適化問題へ適用する最適化手法の基礎理論と基礎アルゴリズムの習得を行う。 （39　角谷　快彦） 医療経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は実証研究の分析手法を習得したうえで，各自パソコンを用いて，データ分析を行うことである。 （105　佐野　浩一郎） 公共経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は，自分自身で最新の文献を理解し、独自の問題設定を行ったうえで、理論的な分析ができるようなることである。 （167　増澤　拓也） 数理経済学およびゲーム理論を応用する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は理論的に有意味な問題の定式化とその解決を，正確に行うことである。 **マネジメントプログラム** （254　加藤　厚海） 主に，同族経営，中小企業，起業家，企業間関係，産業集積などを題材とした研究指導を行う。 （22　PELTOKORPI VESA MATTI） 組織行動・人的資源管理論・国際経営に関する研究指導を行う。 （40　築達　延征） 経営組織・CSR・企業倫理・比較経営に関する研究指導を行う。 （66　小柏　葉子） グローバル化，リージョナリズム，トランスナショナル研究を中心とした国際関係に関する研究指導を行う。 （67　盧　濤） 異文化コミュニケーション及び異文化ビジネスコミュニケーション研究の遂行に必要な専門知識や概念，調査方法等を習得させるとともに，博士論文作成のための研究指導を行う。専門性のある具体的な研究課題の設定，検討課題の整理，関連論文の解読，データ収集，調査の方法，調査結果の分析，研究動向の把握，発表方法の習得等，当該領域研究の遂行に必要な知識，概念及び方法を習得するため，ゼミナール方式で研究指導を行う。 （130　秋山　高志） 経営戦略とイノベーション・マネジメント分野における専門的知識を習得させるとともに，学位論文作成に必要な研究計画の立案，実施における学術的能力の養成を図る。具体的には，少人数の演習方式で各受講生の進捗状況を踏まえつつ，	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			研究目的の設定，先行研究のレビュー，仮設の導出，データの収集，分析，考察，プレゼンという論文作成上の手法を体系的に研究指導する。これらを通して，修士論文や学術誌投稿論文の執筆を綿密に支援・促進する。 （122　徐　恩之） 企業のマーケティング戦略や消費者の反応に関する研究指導を行う。 （131　奥居　正樹） 組織内における対人コミュニケーションの伝え方とその操作性，マネジメントにおける意味・価値の創出・伝達に関する研究指導を行う。 （148　相馬　敏彦） 社会心理学や組織心理学の知見をベースに，さまざまな社会行動についての研究指導を行う。 （149　原田　隆） 組織や社会の活動を支えるシステムへの情報通信技術の応用に関する研究指導を行う。 （113　松嶋　健） フィールドワークを中心とした人類学的研究に関する研究指導を行う。 （23　星野　一郎） 在学生の自主性を尊重しつつ，財務会計分野，企業会計分野における修士論文作成のための研究指導を行う。 （197　金　宰ウク） 管理会計分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析方法等を習得させるとともに，修士論文作成のための研究指導を行う。専門性の高い研究課題の設定，関連研究の動向把握と整理，関連文献を含む資料の収集，データの解析など，研究の遂行に必要な知識及び技能を習得するため，個別的な指導を行う。 （160　茂木　康俊） 地域経営論と公共経営論に関する研究指導を行う。 **国際平和共生プログラム** （5　関　恒樹） 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに，各学生の研究発表と討論を通じて，修士論文の作成を目指す。 （3　片柳　真理） 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い，受講生の研究発表と討論を通じて，修士論文の作成を目指す。 （104　山根　達郎） 国際関係論の観点から，平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 （132　掛江　朋子） 紛争解決論，国際法の観点から，受講生の研究テーマに即して具体的事例，理論枠組みを検討し，修士論文の完成を目指す。 （168　長坂　格） 人の移動，家族親族に関する文化人類学及び隣接分野の文献の検討，受講生による調査報告を通して，現代世界における民族誌的アプローチの可能性を探求する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（198　中空　萌） 文化人類学の最新の文献の購読，修士論文の基礎となるレビュー論文の執筆，フィールド調査の報告を行う。 （2　吉田　修） 最新の文献のレビューを通じて，国際政治及び国際政治経済に関するより深い理解を追求する。 （1　川野　徳幸） 平和学，原爆被ばく研究に関する文献レビューを行うとともに，受講生の研究発表と討論を通じて，修士論文の作成を目指す。 （133　友次　晋介） 核兵器の軍縮，不拡散，原子力の民生利用，関連する国際関係の諸問題に関する文献のレビューを行う。修士論文作成にむけ受講生の研究発表と討論を行う。 （134　眞嶋　俊造） 特別研究では，国際関係をめぐる倫理問題の内から学生の興味関心に沿ったトピックについて研究を行う。 （129　VAN DER DOES LULI） ヒロシマの原爆の記憶の継承及び関連する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い，受講生の研究発表と討論を通じて，修士論文の作成を目指す。 **国際経済開発プログラム** （227　市橋　勝） 貧困削減，地域経済開発，国際比較，比較発展史などに関する研究指導を行う。 （91　柿中　真） 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う. （90　渡邉　聡） 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 （169　高橋　新吾） 開発途上国における労働市場政策，教育政策，また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。 （170　高橋　与志） 開発途上国などで活動する企業，公的機関，非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 （40　築達　延征） 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 （4　MAHARJAN，KESHAV LALL） 開発途上国における農村開発，持続可能な農業に関する研究指導を行う。 （226　金子　慎治） 開発途上国のエネルギー政策，資源管理政策，環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 （224　吉田　雄一朗） 開発途上国の都市開発，インフラ整備，交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（282　後藤　大策） 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 **人間総合科学プログラム** （102　FUNCK，CAROLIN・ELISABETH HANNA） 観光地理学の手法を用いて，日本とヨーロッパにおける観光地域と観光の発展に関する研究指導を行う。 （50　井口　容子） 言語学的手法を用いてフランス語の様々な構文分析，フランス語と日本語・英語との比較・対象に関する研究指導を行う。 （25　井上　永幸） 英語学の観点から，現代英語の文法と語法，コーパス言語学，辞書学に関する研究指導を行う。 （96　関矢　寛史） スポーツ心理学の手法を用いて，運動とメンタルヘルスの関係に関する研究指導を行う。 （100　丸田　孝志） 近代中国史研究の手法を用いて，金現代中国の政治と社会の歴史に関する研究指導を行う。 （43　岩永　誠） 心理学的手法を用いて，「こころの問題」を引き起こす社会的・個人的要因の解明及びその改善法に関する研究指導を行う。 （68　岩崎　克己） ドイツ語教育の観点から，構成主義的な学習のコンセプト及び学習環境に関する研究指導を行う。 （98　桑島　秀樹） 美学・芸術文化論の手法を用いて，「感性」的価値に関わる美学・芸術に関する研究指導を行う。 （52　荒見　泰史） 中国文化研究の観点から，古代から現代に至る中国文化について，遺跡調査や民俗調査も含めた研究指導を行う。 （103　材木　和雄） 地域研究の手法を用いて，民族問題・民族紛争，また日本の社会動態に関する研究指導を行う。 （6　坂田　桐子） 社会心理学的手法を用いて，集団における人間行動やリーダーシップに関する調査や実験を含めた研究指導を行う。 （97　坂田　省吾） 動物心理学的手法を用いて，学習行動と脳の情報処理に関する実験を含めた研究指導を行う。 （53　市川　浩） 科学史的手法を用いて，現代科学・技術が社会にもたらした諸問題に関する研究指導を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（94　柴田　美紀） 言語学的手法を用いて，第二外国語習得の過程ならびに手法に関する研究指導を行う。 （99　水羽　信男） 地域史研究の手法を用いて，近代中国の自由主義や民主主義に関する研究指導を行う。 （55　青木　利夫） 社会史研究の手法を用いて，ラテンアメリカ近現代史・教育文化史に関する研究指導を行う。 （51　船瀬　広三） 身体運動研究の手法を用いて，ヒトの運動を制御する脳機能の解明に関する研究指導を行う。 （7　大池　真知子） 英語圏文学研究の観点から，アフリカの文学を対象に，とくにジェンダーの視点からの研究指導を行う。 （24　長谷川　博） 運動生理学的手法を用いて，スポーツ活動時における体温調節，栄養学的サポート等に関する研究指導を行う。 （92　長田　浩彰） 社会史研究の手法を用いて，ヨーロッパを中心とした人種問題及びマイノリティの問題に関する研究指導を行う。 （93　辻　学） 宗教学，キリスト教研究の立場から，初期キリスト教史に関する文献学的な研究指導を行う。 （101　平手　友彦） 言語文化学の手法を用いて，テクストのあり方と読書の関係，社会との影響関係に関する研究指導を行う。 （259　林　光緒） 実験心理学的手法を用いて，睡眠を対象とした研究指導を行う。 （95　和田　正信） 筋生理学的手法を用いて，特に筋疲労のメカニズムに関する研究指導を行う。 （54　淺野　敏久） 人文地理学及び環境社会学的手法を用いて，環境変化の問題ならびに市民・住民運動と地域の関わりに関する研究指導を行う。 （173　CLENTON JONATHAN STUART MICHAEL） 言語学的手法を用いて，語彙習得及び語彙理解の過程に関する研究指導を行う。 （176　GRAJDIAN MARIA MIHAELA） 文化人類学的手法を用いて，大衆娯楽の現象やメディアに関する研究指導を行う。 （177　RIGSBY CURTIS ANDREW） 哲学研究の観点から，日本の哲学，とりわけ京都学派を中心とした展開に関する研究指導を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			（188　SCHLARB HANS MICHAEL） ドイツ文学研究の観点から，近現代ドイツの文学全般に関する研究指導を行う。 （172　TAFERNER ROBERT HORST） 応用言語学の手法を用いて，言語学習者の言語処理の過程に関する研究指導を行う。 （189　園井　ゆり） 社会学的手法を用いて，家族社会学，社会調査法，ジェンダー論に関する研究指導を行う。 （192　河本　尚枝） 社会福祉学的手法を用いて，日本社会における外国籍及び外国にルーツを持つ日本人の福祉に関する研究指導を行う。 （285　宮園　健吾） 哲学，とりわけ現代英米の哲学及び近世哲学に関する研究指導を行う。 （191　佐々木　宏） 社会福祉学的手法を用いて，とくに日本と開発途上国における社会福祉の諸問題に関する研究指導を行う。 （183　薩摩　真介） 社会史研究の手法を用いて，近世・近代のイギリス及び北米・カリブ海英語圏地域の歴史に関する研究指導を行う。 （135　三村　太郎） 科学史的手法を用いて，イスラーム地域における科学の歴史に関する研究指導を行う。 （194　山崎　修嗣） 産業論・経営学の手法を用いて，自動車メーカー及びサプライヤーと社会・地域との関係に関する研究指導を行う。 （184　春日　あゆか） 社会史研究の手法を用いて，イギリス近代における環境問題の歴史に関する研究指導を行う。 （175　小宮　あすか） 社会心理学的手法を用いて，感情や社会行動の文化差・社会差に関する研究指導を行う。 （125　小川　景子） 心理学的手法を用いて，とくに睡眠中の脳活動や自立神経活動に関する研究指導を行う。 （124　上泉　康樹） 体育哲学・スポーツ哲学の観点から，ギュムナスティケー論及び運動競技論，身体論に関する研究指導を行う。 （186　城戸　光世） 英米文学研究の手法を用いて，英語圏の文化や視覚芸術（絵画・映画・ドラマ等）に関する研究指導を行う。 （278　進矢　正宏） スポーツバイオメカニクス研究の手法を用いて，ヒトの運動の行動学的・力学	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			的解析に関する研究指導を行う。 （114　杉浦　義典） 臨床心理学の手法を用いて，心理的不適応の要因及び治療法に関する研究指導を行う。 （187　杉木　恒彦） 比較宗教学的手法を用いて，南アジア地域の仏教・ヒンドゥー教，また宗教一般に関する研究指導を行う。 （127　大嶋　広美） 言語学的手法を用いて，中国語の方言及び中国少数民族の言語に関する研究指導を行う。 （171　町田　章） 言語学的手法を用いて，英語・日本語の文法現象及び人間の認知能力に関する研究指導を行う。 （168　長坂　格） 文化人類学的手法を用いて，フィリピンの地域社会や家族，移民に関する研究指導を行う。 （178　辻　輝之） 文化人類学・民俗学の手法を用いて，多宗教共存とエスニシティの問題に関する研究指導を行う。 （185　的場　いづみ） アメリカ文化研究の観点から，20 世紀後半のアメリカ文化及び文学に関する研究指導を行う。 （151　田中　亮） 身体運動研究の観点から，痛みや障害と身体運動との関係に関する研究指導を行う。 （179　渡邊　誠） 歴史学的手法を用いて，日本古代史，とくに奈良・平安時代を中心とした外交関係史に関する研究指導を行う。 （190　白川　俊之） 社会学的手法を用いて，社会階層と教育の関係に関する研究指導を行う。 （196　匹田　篤） メディア論の観点から，都市や施設のメディア性，またコミュニケーションやリスクに関する研究指導を行う。 （195　福田　恵） 社会学的手法を用いて，農山村における地域組織の構造や変動に関する研究指導を行う。 （180　柳瀬　善治） 日本文学研究の観点から，日本近代文学と文学理論に関する研究指導を行う。 （126　有賀　敦紀） 認知心理学の手法を用いて，脳における情報の取捨選択過程及び心のメカニズムに関する研究指導を行う。 （181　李　郁惠）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			文学研究の手法を用いて，東アジアの日本語文学及び中国語文学，文化に関する研究指導を行う。 （193　李　東碩） 社会経済学的観点から，経済活動と格差社会との関わりに関する研究指導を行う。 （182　崔　真碩） 朝鮮文化論の観点から，朝鮮近代文学，在日朝鮮人文学，またコリアン・ディアスポラの文化に関する研究指導を行う。 （134　眞嶋　俊造） 倫理学研究の観点から，応用倫理学諸分野（生命倫理，戦争倫理，研究倫理，専門職倫理，国際倫理）に関する研究指導を行う。 （201　河合　信晴） 社会史研究の手法を用いて，近現代ドイツ・ヨーロッパの政治・社会・文化に関する研究指導を行う。 （202　張　慶在） 観光学的手法を用いて，コンテンツツーリズムに関する研究指導を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格 A4 縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間社会科学研究科人文社会科学専攻　博士課程後期）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型 SDGs アイディアマイニング学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し，学生同士のブレインストーミングによって，SDG を達成するためのアイディアを発掘する。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」を踏まえ，ひとつの SDG に対して異なる専門分野から意見を出し合い，ペアのディスカッション，グループ内でのディスカッションを通じて，ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし，全体として 17 つの SDGs をカバーする包括的なアプローチを提案する。	
		SDGs の観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し，広島県及び県内市町村の 1 つを取り上げ，SDGs の観点から課題を議論し，解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ，その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い，最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ，市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
		普遍的平和を目指して	（概要）本講義では，今日の国際社会において，緊急性の高い諸問題をテーマに，それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは，例えば，貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題，世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び，同時にその解決方策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には，大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって，そのギャップを説明し，かつ乗り越えることを目指したい。 （オムニバス方式／全 8 回） （206　河合　幸一郎／2 回） 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策 （142　掛江　朋子／2 回） 世界各地の難民問題の現状と課題 （97　山根　達郎／2 回） 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み （207　中坪　孝之／2 回） 水資源問題，地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり	オムニバス方式
		データサイエンス	データサイエンスは，データそのものを対象とする科学である．データの蓄積や利用法に留まらず，データの抽出，解析，検証，問題解決にいたる一連の手順について講義を行い，必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う．具体的には，使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング，ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化，平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく，散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化，重回帰分析やロジスティック回帰分析，さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
		パターン認識と機械学習	人工知能は，人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では，パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では，ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている．また，膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは，基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では，機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する．また，訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで，機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンティスト養成	近年，ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善，素材等の探索，顧客データに基づく新商品開発など，膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材—データサイエンティスト—に対するニーズも高まってきている。一方，理工系分野に限らず，人文社会系を含めた幅広い研究分野においても，データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では，これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力や IT 関連スキルのみならず，実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。	
		医療情報リテラシー活用	（概要）がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や，有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ，電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など，医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため，これからの医療関連分野で活躍するには，個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本授業では，医療情報を処理するために必要な知識，解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに，演習を行い，医療情報の解析法について履修する。 （オムニバス方式／全８回） （223　小笹　晃太郎／1 回） 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習 （212　工藤　美樹／1 回） ゲノム情報の種類と，ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則，功罪や有用性。演習 （220　森野　豊之／1 回） 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習 （211　粟井　和夫・210　有廣　光司／1 回）（共同） 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題，情報の有用性と社会における活用と演習 （222　田中　剛／1 回） 広島県独自の HMnet（ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network）を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習 （213　田中　純子／1 回） NDB（National database）などの大規模医療データベースの種類，概要，倫理，疫学研究への活用と演習 （221　大上　直秀／1 回） がんゲノム情報の概要，倫理的課題，応用と活用と演習 （214　久保　達彦／1 回） 臨床治験の大規模化に伴う課題，功罪，応用と活用と演習	オムニバス方式，共同（一部）
		リーダーシップ手法	組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず，自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本授業では，まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し，自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で，国内外のリーダーの実像も交えながら，リーダーに求められる特性について概説する。また，リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに，大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考え	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	キャリア開発・デ―タリテラシ―科目		る。授業の全編を通じて，クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。	
		高度イノベーション人財のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い，社会における人財ニーズも時代とともに変化している。本授業では，多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義，ディスカッション，さらには自己理解を深めるためのワークを通じて，研究経験を有する専門性の高い人財が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え，将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢，行動，特質についても考察を深める。なお，人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
		イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには，科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識，技術，サービス，ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本授業では，新たな社会的・経済的付加価値を生み出す（＝イノベーション）ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに，企業等が抱える実際の課題に触れ，その解決プロセスを通じて，異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を修得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し，異なる分野の学生のみならず，企業・団体等の関係者と協働することで，多様な視点や考え方を理解し，新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお，人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
		長期インターンシップ	国内外の民間企業，公的機関，非営利団体などへの長期インターンシップを通じて，企業や社会の課題解決に貢献するとともに，実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則，1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し，受講認定，事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また，派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金，学内資金，外部資金を問わない。	
		事業創造概論	発明とイノベーションは似ているようで，実は大きく異なる。斬新なアイデアや発明でも，商業化されなければイノベーションにならない。日本経済が数十年にわたって停滞してしまったのは，日本企業のイノベーション力が低下したことが主因である。日本は科学技術のレベルが高いにも関わらず，開発の成果を新しい事業に結びつけられる人材が不足している。近年，科学者にもアントレプレナーシップ（起業家の思考と行動）が求められるようになったのはこのような事情がある。座学だけでなく，授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて考察し，事業創造の基礎を学ぶ。特に技術の商用化に焦点をあて，製品開発と顧客開発の違いを理解し，演習などでその感覚をつかむことなどを到達目標とする。ビジネスの知識は問わない。コミュニケーション能力の向上も目標の一つなので，受講者には授業に参加し積極的に取り組むことを求める。	
研究科共通科目		プロジェクト研究	主指導教員又は主指導教員以外の教員が行う研究プロジェクトに参加し，プロジェクトの目的を達成するためにどのような活動，協働が行われ，得られた成果が社会に還元されていくのかを体験する。プロジェクトに参加する複数の分野の教員や学生と交流することにより，多角的で広い視野を獲得するとともに，チームの一員あるいはリーダーとして活動を通じて個人としての成果と組織としての成果の両方を挙げていくことのできるセンスを身に付ける。	共同
		人間社会科学講究	人文科学，社会科学，教育科学の諸分野における最先端の研究を行っている学内外の研究者により，それぞれの分野における研究や，分野をまたいで行う共同研究に関する最新の話題を提供する。受講生が自分の専門分野や他分野の先端的取り組みや研究者に触れることにより，研究に取り組む意欲を高め，将来の展望を広げることを目指す。担当教員は，話題提供者のオーガナイズを行う。講義形式であるが，少人数によるグループワーク等も実施する。	共同
		特別研究	（概要）人文科学，社会科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに，博士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		究課題の設定，検討課題の整理，既存研究のレビュー，調査・実験の方法，データ処理・分析手法，論文執筆，発表方法の習得（研究倫理を含む）等，研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため，指導を行う。 **人文学プログラム** （191　佐藤　利行） 博士論文作成のための資料の収集・整理，その読解力などを深める。 （18　高永　茂） 言語学，コミュニケーション学に関する知識を基礎として，実証的な研究を行ってもらいたいと考えている。 （16　中村　平） 日本学，人類学，歴史学，社会思想史，文化理論などの諸領域における知見に学びつつ，こうした人文学の広さのなかで自分の問題意識に沿った方法論を思考し，周囲の人々と討議し，獲得することを方針としている。 （17　溝渕　園子） 翻訳文学や世界文学を含む比較文学や，国際的な視点から見た日本近現代文学の研究指導を行う。 （202　本田　義央） 学生の研究課題に応じて博士論文執筆を指導する。 （19　後藤　弘志） 西洋哲学に関する博士論文作成を通じて，自立した研究者または高度専門職業人として活動するために必要な能力を身に付けられるよう指導する。 （99　赤井　清晃） 西洋哲学に関する博士論文作成を通じて，自立した研究者または高度専門職業人として活動するために必要な能力を身に付けられるよう指導する。 （20　根本　裕史） 博士論文作成のための文献研究指導。 （100　川村　悠人） 博士論文作成のための文献研究指導。 （21　衞藤　吉則） 博士論文の作成に当たり，研究課題の選定，先行研究の把握，資料の収集・分析，論文作成の方法を指導し，論文作成の助言をおこなう。 （101　後藤　雄太） 博士論文作成の指導。資料の扱い方，原典の読解の仕方，さらに，文章の作成，独創性の発揮，論文の構成のあり方等を指導する。 （23　有馬　卓也） 漢代から魏晋南北朝期に至る思想・文化，及び日本思想に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		（22　末永　高康） 経学及び先秦諸子，並びに出土文献を資料とする哲学・思想に関する研究指導を行う。 （24　本多　博之） 日本中世史研究に関する博士論文に取り組む学生を個別に指導する。 （102　奈良　勝司） 明治維新をはさむ１９世紀日本の歴史に関する博士論文の執筆に向けて指導を行う。 （26　金子　肇） 近現代中国史専攻の院生を対象に学位論文執筆能力を養成する。 （25　八尾　隆生） アジア史専攻の院生を対象に学位論文執筆能力を養成する。 （103　舩田　善之） 前近代中国史・内陸アジア史専攻の院生を対象に学位論文執筆能力を養成する。 （28　前野　弘志） 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて，古代史専攻学生の個別指導を行う。 （104　足立　孝） 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて，中世史専攻学生の個別指導を行う。 （27　井内　太郎） 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて，近代史専攻学生の個別指導を行う。 （30　有元　伸子） 個別指導と集団指導を組み合わせつつ，論文の構想から執筆までの支援を行って，学位論文の完成を目指す。 （3　久保田　啓一） 日本古典文学（主に近世文学）に関する博士論文の完成に至るまで懇切な指導を行う。 （29　妹尾　好信） ゼミ形式による討論を取り入れ，雑誌掲載論文を積み上げながら，博士論文完成まで丁寧な指導を行う。 （105　下岡　友加） 日本近現代文学に関する修士論文を作成するに必要となる指導を行う。 （32　小川　恒男） 中国古典詩を研究対象として博士論文を作成する院生を主に指導し，主体的に	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		研究を継続できる研究者を養成する。 （31　川島　優子） 中国の古典小説を研究対象として博士論文を作成する院生を主に指導する。 （107　陳　チュウ） 中国古典文学，文献学及び東アジアン書籍・学術交流史を研究対象として博士論文作成する院生を主に指導し，主体的に研究を継続できる研究者を養成する。 （34　吉中　孝志） イギリス戯曲・詩文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （38　VALLINS DAVID MCNEILL） 英語圏文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （33　大地　真介） アメリカ文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （116　倉田　賢一） イギリス小説を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。 （35　今林　修） 英語学の博士論文作成のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。 （108　大野　英志） 英語学の博士論文作成のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。 （36　小林　英起子） 近現代ドイツ文学を中心に博士論文執筆に向けた個別指導を行う。 （39　FEDERMAIR LEOPOLD） 近現代ドイツ語圏文学を中心に博士論文執筆に向けた個別指導を行う。 （37　宮川　朗子） 博士論文の作成と学会での研究発表に関する基礎知識を修得することを目的とした個別的な指導を行う。 （110　BEAUVIEUX MARIE NOELLE BENEDICTE ISABELL） 博士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし，個別的な指導を行う。 （111　上野　貴史） 学生のより良い博士論文の完成のため，言語学の一般的観点，および各教員の専門領域の観点から内容・方法論などについて的確な助言を与える。 （40　友澤　和夫） 博士論文の作成にかかわる個別指導を実施する。 （112　後藤　拓也）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		博士論文の作成にかかわる個別指導を実施する。 （113　後藤　秀昭） 博士論文の作成にかかわる個別指導を実施する。 （41　竹広　文明） 先史時代，アジアにおける人類の石器文化の解明を行う。 （42　野島　永） 日本列島における古代鉄器文化の考古学的研究を行う。 （114　有松　唯） 西アジア古代文明の成りたちと初期鉄器時代の人類史研究を行う。 （43　安嶋　紀昭） 美術作品（絵画・彫刻・書蹟など）に関する博士論文執筆指導。 （115　伊藤　奈保子） 東南アジアの宗教美術に関する研究の論文指導 **心理学プログラム** （190　宮谷　真人） 実験系心理学，特に，注意，記憶，言語などの心の働きに関する研究指導を行う。 （44　中條　和光） 学習心理学・認知心理学，特に，記憶に関する認知心理学的研究，文・文章理解に関する研究の研究指導を行う。 （45　森永　康子） 社会心理学，特に，ジェンダーに関する社会心理学的研究の研究指導を行う。 （10　湯澤　正通） 教育・社会系心理学，特に，概念・思考の発達と教育に関する研究指導を行う。 （6　森田　愛子） 教育心理学・認知心理学，特に，読解や記憶，教材デザイン，学習意欲に関する研究指導を行う。 （92　杉村　和美） 発達心理学，特に，青年のアイデンティティ発達プロセスに関する研究指導を行う。 （47　杉村　伸一郎） 幼児心理学，特に，幼児期における認知発達と遊びに関する研究指導を行う。 （181　中尾　敬） 認知心理学・神経科学，特に，自己，迷い，意思決定などに関わる心と脳の機能に関する研究指導を行う。 （180　中島　健一郎） 社会心理学，特に，自己，他者，集団，社会の重層性に関する研究指導を行う。 （182　梅村　比丘）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		発達心理学，特に，アタッチメント理論（愛着理論），日本文化における子どもの発達と適応・不適応に関する研究指導を行う。 （120　清水　寿代） 幼児心理学，特に，幼児期の社会性の発達と適応に関する研究指導を行う。 （46　服巻　豊） 臨床心理学・コミュニティ心理学，特に，緩和ケア，透析ケア，ストレスマネジメントに関する研究指導を行う。 （48　石田　弓） 臨床心理学，特に，臨床描画法の研究および学校心理臨床に関する研究指導を行う。 （118　尾形　明子） 臨床心理学，特に，医療心理学，子どもの心理的問題，認知行動療法に関する研究指導を行う。 （119　上手　由香） 臨床心理学，特に，力動的心理療法におけるトラウマへの援助，思春期・青年期の心理臨床に関する研究指導を行う。 **法学・政治学プログラム** （8　江頭　大藏） 社会学の概念や研究手法を用いた現代社会の分析に関する研究指導を行う。 （55　宮永　文雄） 民事手続の理論と実務，および裁判外紛争処理に関する研究指導を行う （53　堀田　親臣） 民法（財産法）の中でも，不動産を中心とした所有・利用関係の諸問題，それが担保に供されたときの法律関係，侵害に対する効力等の問題について教育・研究指導を行う。また，不動産と関わりの深い環境問題や自然災害に関する法的問題についても，主として私法の視点から教育・研究指導を行う。 （52　森邊　成一） 複数本のモノグラフが公刊できるように研究を指導し，これを踏まえて学位請求論文の完成を目指す。まず，修士論文を再検討し，より深く掘り下げるための，方法論の洗練と追加の資料の収集・整理を指導する。ついで，最初の公刊論文を準備しつつ，後期 2 年次には，学位論文の全体構成を示せるようにする。そして，2 本目以降の論文を公刊しながら，学位論文を完成させることができるように指導する。 （57　吉中　信人） 学界レベルにある博士論文を作成できるようになることを目的として，刑事法領域における受講生の専門的テーマに対応した指導を行う。前期課程で修得した方法論を前提として，第一段階では，専門的見地から受講生が定めたテーマについて，将来的な可能性と有意義性の検討を行い，現在の学界ニーズに対応したものとするため，必要なパースペクティブの提示や軌道修正を行う。第二段階では，リファインされた内容の徹底的な吟味を行い，既存の判例・学説に対する正確な理解を踏まえながら，その分析と総合について，多角的且つ洞察的な討論を行う。最終段階として，導出された全ての判例・学説状況の当否を検討しつつ批判し，	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		その上で独創的な私見の提示が行えるようになることを目指す。 （56　三井　正信） 労働法（ワークルール）に関する博士論文の執筆に向けて指導を行う。具体的には変化してやまない複雑化する労働法（ワークリール）を現実の雇用社会やワーキングライフを踏まえつつグローバルかつトータルに把握・分析し，理論的に優れた高度の博士論文となるように検討を加える。 （54　松原　正至） 博士論文の作成に向け，個々の学生のテーマにしたがって，論点整理を行う。その上で，論点に対応した判例の分析と文献の読み込みを行う。加えて，判例分析では外国判例も参照するほか，文献では外国文献も積極的に活用する。 （2　手塚　貴大） この授業は，大学院生が執筆した租税法に関する博士論文の指導を行い，完成にまで導くことを目的とする。素材は院生の発表する論文草稿である。 （5　吉田　修） 国際関係，外国政治，地域研究の分野での論文指導を行う。文献レビュー，章構成，分析手法や論理的枠組み等について検討する。 （203　永山　博之） 博士論文の執筆を指導する。多くの学生が留学生であることと，教員の専門分野を学士課程では学んでいない学生が多いことを考慮し，論文執筆の基本的な方法論を含めて指導を行う。受講者は，他の受講者の研究発表とそれに対する教員のコメントを聞いて，できるだけ多くのものを学ぶようにしてほしい。 （51　浅利　宙） 社会学の方法論を基盤に，主に法社会学の研究領域，および家族，地域社会，社会福祉に関連する領域の論文作成指導を行う。 （50　鈴木　玉緒） 社会学を専攻する大学院生が，論文執筆のための先行研究の探索と読み込みを行います。まずは先行研究をベースとして拡充すべき論点の抽出やその再調査を行いつつ，周辺関連分野における文献の渉猟や，海外との比較などの作業を，必要に応じて行う予定です。 （49　折橋　洋介） 行政法学の研究を自ら行う能力を養うことを目的とする。 （122　井上　嘉仁） 憲法学に関する博士論文の執筆に必要な指導をおこなう。研究テーマに関する文献研究を中心におこなう **経済学プログラム** （58　瀧　敦弘） 労働経済学または労使関係論を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。課題の設定から，データや資料の収集，理論分析・実証分析の指導をおこなう。さらに，研究成果の公表についても，対象者にアドバイスする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		（59　千田　隆） 金融論を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は金融政策の理論的分析能力を習得したうえで，各自パソコンを用いて，金融政策の効果の数量分析を行うことである。 （4　山田　宏） 計量経済分析手法の開発・評価もしくは応用を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。研究テーマに関して，(計量経済学の分野に限らない広い分野における)最先端の研究動向の把握とそうした研究内容への深い理解を踏まえた国際競争力のある数編の研究論文を作成し，それらをまとめて博士論文を作成する方向で指導する。 （60　早川　和彦） 計量経済学を専攻する学生を対象にした博士論文の作成指導を行う。目標は，自分自身で，テーマ探し・理論的分析・数値実験ができ，それを論文としてまとめられるようになることである。 （61　西埜　晴久） 計量経済学の手法の開発あるいはその応用を研究するために，学術書の講読および学術論文などの先行研究の理解をめざす。合わせて，必要なデータ分析を行うためのプログラミング能力の育成に努める。 （63　二村　博司） 財政学を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は財政政策の理論的分析能力を習得したうえで，各自パソコンを用いて，財政政策の効果の数量分析を行うことである。 （65　大内田　康徳） 競争政策や環境政策に関連した分野を専攻する学生を対象とした博士論文の作成を指導する。政策的な議論のために求められる理論的な分析能力を習得し，そして応用ミクロ経済学の手法などを用いた精緻な政策分析を行うことを目標とする。 （9　山口　力） 公共経済学の分野における博士論文の執筆指導を行う。関連文献の内容を完全に理解したうえで，独創的な研究成果を専門ジャーナルに掲載することを目的とする。 （66　友田　康信） 応用理論研究を先行する学生を対象とした博士論文の指導を行う。先行研究の理論モデルを発展させ，独自の理論モデルを構築し，新たな経済学的含意を導くことを目標とする。 （135　安武　公一） 計算社会科学（Computational Social Science），深層学習（Deep Learning）など新しい社会科学アプローチの習得も視野に入れて，博士論文の作成指導を行う。具体的には，最先端の論文・文献の精読とサーベイ，研究課題となる「問」の導出，「問」への「解」を導くために必要なデータ解析手法，基礎理論の習得，	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		国内外での研究発表等について，個別指導を行う。 （67　森　良次） 欧米経済史を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は研究テーマに関する先行研究の歴史理論的実証的到達点を確認したうえで，実証課題の特定と史料の分析を行うことである。 （136　宮澤　和敏） 経済学史を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。経済学の歴史に現れた学説のなかからテーマを設定し，原典を精読することを通してその理論的・方法的特徴を明らかにするとともに，その学説をふまえて資本主義経済の基礎理論をどのように発展させることができるかについて深く考察することを目標とする。 （129　小野　貞幸） ファイナンス分野の博士論文作成のため高度な計量時系列分析，データ解析手法そして技術計算言語の MATLAB を習得する。論文の題目を決定し関連した研究論文の概要の発表を行う。研究分野の知識を深め，先行研究に貢献する独自性・創造性のある考えを見つける。 （62　鈴木　喜久） ファイナンスを専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標はファイナンス分野の諸問題・諸現象に対する深い理論的理解と分析能力を修得したうえで，実際のデータを用いた計量ファイナンス手法による厳密な実証分析を行い，当該理論の検証を行い対象分野に関する理解を深めることである。 （130　山根　明子） ファイナンスを専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は，ファイナンスの理論的分析能力を習得したうえで，証券市場に関する実証分析を行うことである。 （132　大河内　治） ゲーム理論の応用モデルを用いる学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は経済政策の理論的分析能力を習得したうえで，現実の政策や制度改革の効果の理論的分析を目標とする。さらに，理論の限界を批判的に検討し，理論それ自体の発展を進めることができるようになることも目標とする。 （133　折登　由希子） 経済情報分析を研究テーマとする学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。経済学分野における最適化問題のモデル化と最適化手法アルゴリズムの開発を行う。 （64　角谷　快彦） 医療経済学を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は実証文政と論文作成手法を習得したうえで，各自パソコンを用いて，データ分析を行うことである。 **マネジメントプログラム** （199　加藤　厚海） 主に，同族経営，中小企業，起業家，企業間関係，産業集積などを題材とした	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		研究指導を行う。 （93　PELTOKORPI VESA MATTI） 組織行動・人的資源管理論・国際経営に関する研究指導を行う。 （70　築達　延征） 経営組織・CSR・企業倫理・比較経営に関する研究指導を行う。 （69　小柏　葉子） グローバル化，リージョナリズム，トランスナショナル研究を中心とした国際関係に関する研究指導を行う。 （68　盧　濤） 異文化コミュニケーション及び異文化ビジネスコミュニケーション研究の遂行に必要な専門知識や概念，調査方法等を習得させるとともに，博士論文作成のための研究指導を行う。専門性のある具体的な研究課題の設定，検討課題の整理，関連論文の解読，データ収集，調査の方法，調査結果の分析，研究動向の把握，発表方法の習得等，当該領域研究の遂行に必要な知識，概念及び方法を習得するため，ゼミナール方式で研究指導を行う。 （137　秋山　高志） 経営戦略とイノベーション・マネジメント分野における専門的知識を習得させるとともに，学位論文作成に必要な研究計画の立案，実施における学術的能力の養成を図る。具体的には，少人数の演習方式で各受講生の進捗状況を踏まえつつ，研究目的の設定，先行研究のレビュー，仮設の導出，データの収集，分析，考察，プレゼンという論文作成上の手法を体系的に研究指導する。これらを通して，博士論文や学術誌投稿論文の執筆を綿密に支援・促進する。 （138　徐　恩之） 企業のマーケティング戦略や消費者の反応に関する研究指導を行う。 （139　奥居　正樹） 組織内における対人コミュニケーションの伝え方とその操作性，マネジメントにおける意味・価値の創出・伝達に関する研究指導を行う。 （96　相馬　敏彦） 社会心理学や組織心理学の知見をベースに，さまざまな社会行動についての研究指導を行う。 （141　原田　隆） 組織や社会の活動を支えるシステムへの情報通信技術の応用に関する研究指導を行う。 （140　松嶋　健） フィールドワークを中心とした人類学的研究に関する研究指導を行う。 **国際平和共生プログラム** （13　関　恒樹） 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに，各学生の研究発表と討	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		論を通じて，博士論文の作成を目指す。 （94　片柳　真理） 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い，受講生の研究発表と討論を通じて，博士論文の作成を目指す。 （97　山根　達郎） 国際関係論の観点から，平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 （142　掛江　朋子） 紛争解決論，国際法の観点から，受講生の研究テーマに即して具体的事例，理論枠組みを検討し，博士論文の完成を目指す。 （145　長坂　格） 人の移動，家族親族に関する文化人類学および隣接分野の文献の検討，受講生による調査報告を通して，現代世界における民族誌的アプローチの可能性を探求する。 （185　中空　萌） 文化人類学の最新の文献の購読，博士論文の基礎となるレビュー論文の執筆，フィールド調査の報告を行う。 （5　吉田　修） 最新の文献のレビューを通じて，国際政治および国際政治経済に関するより深い理解を追求する。 （11　川野　徳幸） 平和学，原爆被ばく研究に関する文献レビューを行うとともに，受講生の研究発表と討論を通じて，博士論文の作成を目指す。 （184　友次　晋介） 核兵器の軍縮，不拡散，原子力の民生利用，関連する国際関係の諸問題に関する文献のレビューを行う。博士論文作成にむけ受講生の研究発表と討論を行う。 （144　眞嶋　俊造） 特別研究では，国際関係をめぐる倫理問題の内から学生の興味関心に沿ったトピックについて研究を行う。 （143　VAN DER DOES LULI） ヒロシマの原爆の記憶の継承および関連する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い，受講生の研究発表と討論を通じて，博士論文の作成を目指す。 **国際経済開発プログラム** （204　市橋　勝） 貧困削減，地域経済開発，国際比較，比較発展史などに関する研究指導を行う。 （71　柿中　真） 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 （95　渡邉　聡） 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 （147　高橋　新吾） 開発途上国における労働市場政策，教育政策，また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		（148　高橋　与志） 開発途上国などで活動する企業，公的機関，非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 （70　築達　延征） 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 （12　MAHARJAN，KESHAV LALL） 開発途上国における農村開発，持続可能な農業に関する研究指導を行う。 （194　金子　慎治） 開発途上国のエネルギー政策，資源管理政策，環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 （198　吉田　雄一朗） 開発途上国の都市開発，インフラ整備，交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。 （218　後藤　大策） 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 **人間総合科学プログラム** （89　FUNCK，CAROLIN・ELISABETH HANNA） 観光地理学の手法を用いて，日本とヨーロッパにおける観光地域と観光の発展に関する研究指導を行う。 （75　井口　容子） 言語学的手法を用いてフランス語の様々な構文分析，フランス語と日本語・英語との比較・対象に関する研究指導を行う。 （74　井上　永幸） 英語学の観点から，現代英語の文法と語法，コーパス言語学，辞書学に関する研究指導を行う。 （80　関矢　寛史） スポーツ心理学の手法を用いて，運動とメンタルヘルスの関係に関する研究指導を行う。 （85　丸田　孝志） 近代中国史研究の手法を用いて，金現代中国の政治と社会の歴史に関する研究指導を行う。 （72　岩永　誠） 心理学的手法を用いて，「こころの問題」を引き起こす社会的・個人的要因の解明及びその改善法に関する研究指導を行う。 （73　岩崎　克己） ドイツ語教育の観点から，構成主義的な学習のコンセプト及び学習環境に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		（82　桑島　秀樹） 美学・芸術文化論の手法を用いて，「感性」的価値に関わる美学・芸術に関する研究指導を行う。 （83　荒見　泰史） 中国文化研究の観点から，古代から現代に至る中国文化について，遺跡調査や民俗調査も含めた研究指導を行う。 （90　材木　和雄） 地域研究の手法を用いて，民族問題・民族紛争，また日本の社会動態に関する研究指導を行う。 （14　坂田　桐子） 社会心理学的手法を用いて，集団における人間行動やリーダーシップに関する調査や実験を含めた研究指導を行う。 （81　坂田　省吾） 動物心理学的手法を用いて，学習行動と脳の情報処理に関する実験を含めた研究指導を行う。 （86　市川　浩） 科学史的手法を用いて，現代科学・技術が社会にもたらした諸問題に関する研究指導を行う。 （76　柴田　美紀） 言語学的手法を用いて，第二外国語習得の過程ならびに手法に関する研究指導を行う。 （84　水羽　信男） 地域史研究の手法を用いて，近代中国の自由主義や民主主義に関する研究指導を行う。 （88　青木　利夫） 社会史研究の手法を用いて，ラテンアメリカ近現代史・教育文化史に関する研究指導を行う。 （79　船瀬　広三） 身体運動研究の手法を用いて，ヒトの運動を制御する脳機能の解明に関する研究指導を行う。 （15　大池　真知子） 英語圏文学研究の観点から，アフリカの文学を対象に，とくにジェンダーの視点からの研究指導を行う。 （78　長谷川　博） 運動生理学的手法を用いて，スポーツ活動時における体温調節，栄養学的サポート等に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		（7　長田　浩彰） 社会史研究の手法を用いて，ヨーロッパを中心とした人種問題及びマイノリティの問題に関する研究指導を行う。 （1　辻　学） 宗教学，キリスト教研究の立場から，初期キリスト教史に関する文献学的な研究指導を行う。 （87　平手　友彦） 言語文化学の手法を用いて，テクストのあり方と読書の関係，社会との影響関係に関する研究指導を行う。 （205　林　光緒） 実験心理学的手法を用いて，睡眠を対象とした研究指導を行う。 （77　和田　正信） 筋生理学的手法を用いて，特に筋疲労のメカニズムに関する研究指導を行う。 （91　淺野　敏久） 人文地理学及び環境社会学的手法を用いて，環境変化の問題ならびに市民・住民運動と地域の関わりに関する研究指導を行う。 （152　CLENTON JONATHAN STUART MICHAEL） 言語学的手法を用いて，語彙習得及び語彙理解の過程に関する研究指導を行う。 （159　GRAJDIAN MARIA MIHAELA） 文化人類学的手法を用いて，大衆娯楽の現象やメディアに関する研究指導を行う。 （160　RIGSBY CURTIS ANDREW） 哲学研究の観点から，日本の哲学，とりわけ京都学派を中心とした展開に関する研究指導を行う。 （172　SCHLARB HANS MICHAEL） ドイツ文学研究の観点から，近現代ドイツの文学全般に関する研究指導を行う。 （151　TAFERNER ROBERT HORST） 応用言語学の手法を用いて，言語学習者の言語処理の過程に関する研究指導を行う。 （173　園井　ゆり） 社会学的手法を用いて，家族社会学，社会調査法，ジェンダー論に関する研究指導を行う。 （175　河本　尚枝） 社会福祉学的手法を用いて，日本社会における外国籍及び外国にルーツを持つ日本人の福祉に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		（217　宮園　健吾） 哲学，とりわけ現代英米の哲学及び近世哲学に関する研究指導を行う。 （174　佐々木　宏） 社会福祉学的手法を用いて，とくに日本と開発途上国における社会福祉の諸問題に関する研究指導を行う。 （166　薩摩　真介） 社会史研究の手法を用いて，近世・近代のイギリス及び北米・カリブ海英語圏地域の歴史に関する研究指導を行う。 （171　三村　太郎） 科学史的手法を用いて，イスラーム地域における科学の歴史に関する研究指導を行う。 （177　山崎　修嗣） 産業論・経営学の手法を用いて，自動車メーカーおよびサプライヤーと社会・地域との関係に関する研究指導を行う。 （167　春日　あゆか） 社会史研究の手法を用いて，イギリス近代における環境問題の歴史に関する研究指導を行う。 （158　小宮　あすか） 社会心理学的手法を用いて，感情や社会行動の文化差・社会差に関する研究指導を行う。 （155　小川　景子） 心理学的手法を用いて，とくに睡眠中の脳活動や自立神経活動に関する研究指導を行う。 （154　上泉　康樹） 体育哲学・スポーツ哲学の観点から，ギュムナスティケー論および運動競技論，身体論に関する研究指導を行う。 （169　城戸　光世） 英米文学研究の手法を用いて，英語圏の文化や視覚芸術（絵画・映画・ドラマ等）に関する研究指導を行う。 （216　進矢　正宏） スポーツバイオメカニクス研究の手法を用いて，ヒトの運動の行動学的・力学的解析に関する研究指導を行う。 （157　杉浦　義典） 臨床心理学の手法を用いて，心理的不適応の要因及び治療法に関する研究指導を行う。 （170　杉木　恒彦） 比較宗教学的手法を用いて，南アジア地域の仏教・ヒンドゥー教，また宗教一	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		般に関する研究指導を行う。 （150　大嶋　広美） 言語学的手法を用いて，中国語の方言及び中国少数民族の言語に関する研究指導を行う。 （149　町田　章） 言語学的手法を用いて，英語・日本語の文法現象及び人間の認知能力に関する研究指導を行う。 （145　長坂　格） 文化人類学的手法を用いて，フィリピンの地域社会や家族，移民に関する研究指導を行う。 （161　辻　輝之） 文化人類学・民俗学の手法を用いて，多宗教共存とエスニシティの問題に関する研究指導を行う。 （168　的場　いづみ） アメリカ文化研究の観点から，20 世紀後半のアメリカ文化及び文学に関する研究指導を行う。 （153　田中　亮） 身体運動研究の観点から，痛みや障害と身体運動との関係に関する研究指導を行う。 （162　渡邊　誠） 歴史学的手法を用いて，日本古代史，とくに奈良・平安時代を中心とした外交関係史に関する研究指導を行う。 （146　白川　俊之） 社会学的手法を用いて，社会階層と教育の関係に関する研究指導を行う。 （179　匹田　篤） メディア論の観点から，都市や施設のメディア性，またコミュニケーションやリスクに関する研究指導を行う。 （178　福田　恵） 社会学的手法を用いて，農山村における地域組織の構造や変動に関する研究指導を行う。 （163　柳瀬　善治） 日本文学研究の観点から，日本近代文学と文学理論に関する研究指導を行う。 （156　有賀　敦紀） 認知心理学の手法を用いて，脳における情報の取捨選択過程及び心のメカニズムに関する研究指導を行う。 （164　李　郁惠）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		文学研究の手法を用いて，東アジアの日本語文学及び中国語文学，文化に関する研究指導を行う。 （176　李　東碩） 社会経済学的観点から，経済活動と格差社会との関わりに関する研究指導を行う。 （165　崔　真碩） 朝鮮文化論の観点から，朝鮮近代文学，在日朝鮮人文学，またコリアン・ディアスポラの文化に関する研究指導を行う。 （144　眞嶋　俊造） 倫理学研究の観点から，応用倫理学諸分野（生命倫理，戦争倫理，研究倫理，専門職倫理，国際倫理）に関する研究指導を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格 A4 縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間社会科学研究科教育科学専攻　博士課程前期）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshima から世界平和を考える	（概要）被爆地広島に立脚する広島大学は，理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいうべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに，ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは，今日的に緊急性の高いテーマである。例えば，貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに，理想と現実との間にあるギャップをも理解し，理想的な平和のあり方を検討する。 （オムニバス方式／全８回） （132　川野　徳幸／2 回） 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要 （207　小宮山　道夫／2 回） 原爆と広島大学の関わり，広島の歴史，広島に課された役割 （130　河合　幸一郎／1 回） 途上国における貧困と飢餓，食糧生産の現状と課題 （131　中坪　孝之／1 回） 地球温暖化，環境破壊，天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策 （206　山根　達郎／2 回） 現代における地域紛争の特徴，紛争後の平和構築の在り方	オムニバス方式
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	（英文）This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, historiy, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, becuase Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects. lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Masaru Ichihashi “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective” （和訳）本講義では，「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして，SDGs について議論する。SDGs は，世界的な問題の核として，持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は，常に多くの関連した問題を含み，ある問題の解決は，別の問題を引き起こすかもし	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目		れない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに，SDGs は包摂性を重要な原則としており，先進国，発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。 　これらの学際的アプローチ，歴史的視点と包摂性を踏まえれば，日本は貴重な経験を有しており，日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては，我々はその結果に関わらず，多くの点を学ぶことができ，今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で，日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり，本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。 （オムニバス方式／全 8 回） （137　金子　慎治／1 回） 　本講義のガイダンス、概要説明 （271　三角　幸子／1 回） 　JICA の活動、役割 （133　吉田　雄一朗／1 回） 　日本の政策経験 （138　市橋　勝／1 回） 　産業政策と経済成長 （134　張　峻屹／2 回） 　日本の環境政策の歴史 （135　吉田　修／1 回） 　日本の ODA とアジア政策 （136　片柳　真理／1 回） 　平和構築から見た広島の復興	
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	（英文）This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, historiy, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, becuase Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects. lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way ofLiving” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目		the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion (和訳）本講義では，「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして，SDGs について議論する。SDGs は，世界的な問題の核として，持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は，常に多くの関連した問題を含み，ある問題の解決は，別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに，SDGs は包摂性を重要な原則としており，先進国，発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。 これらの学際的アプローチ，歴史的視点と包摂性を踏まえれば，日本は貴重な経験を有しており，日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては，我々はその結果に関わらず，多くの点を学ぶことができ，今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で，日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり，本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。 （オムニバス方式／全 8 回） （2　馬場　卓也／2 回） 本講義のガイダンス，概要説明，まとめ （141　MAHARJAN，KESHAV LALL／1 回） 農業開発における日本の経験 （142　関　恒樹／1 回） 日本の現代化における社会文化的側面 （1　清水　欽也／2 回） 日本における教育開発 （139　田中　純子／1 回） 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 （140　森山　美知子／1 回） 日本のヘルスケアシステム	
		SDGs への学問的アプローチ　A	（概要）国際目標 SDGs と広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017 の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGs は持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本 SDGs への学問的アプローチ A では、人権を中心に取り組む。B と合わせて受講することが推奨される。 （オムニバス方式／全 8 回）（括弧内 SDGs 目標番号） （2　馬場　卓也／2 回） １．コースの概要、SDGs と貧困問題　（1，17）：SDG s の設置経緯について説明し、17 の目標の中で、貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明、議論する。 ８．総括討議 （143　実岡　寛文／1 回） ２．持続可能な消費と飢餓　（2，12）：地球規模で食料の持続可能性を考える時、先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態、栄養改善などについて議論する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			（139　田中　純子／1 回） ３．公衆衛生と社会医学　(3，6)：安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから、疾病対策を含む健康維持のための社会医学的、公衆衛生学的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。 （140　森山　美知子・ 208　RAHMAN MD MOSHIUR／1 回）（共同） ４．健康と福祉　(3)：プライマリ・ヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス、非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。 （4　永田　良太／1 回） ５．教育と社会　(4)：情報化による急激な変化が進む中で、先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。 （3　石田　洋子／1 回） ６．ジェンダー問題と平等な社会　(5，10)／ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題、国家間及び各国内の不平等削減に係る課題、そしてこれら 2 つの課題解決が他の SDGs ゴール達成に深く関わることについて議論する。 （272　隈元　美穂子／1 回） ７．国際機関の取り組み（17）：　SDGs を推進している立場から、その取り組みの課題と進捗状況について議論する。	
大学院共通科目	持続可能な発展科目	SDGs への学問的アプローチ　B	国際目標 SDGs と広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017 の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGs は持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本 SDGs への学問的アプローチ B では、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。A と合わせて受講することが推奨される。 （オムニバス方式／全 8 回）（括弧内 SDGs 目標番号） （136　片柳　真理／2 回） １．コース概要、平和な社会（16）：SDGs の設立経緯について説明し、それら目標の最終ゴールとして、平和な社会の実現について議論をする。 ８．総括討議 （210　長谷川　祐治／1 回） ２．気候変動と防災　(13)：気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり、その影響を軽減するための防災、緊急対策について議論する。 （209　日比野　忠史／1 回） ３．エネルギーと持続可能な都市　(7，11)：安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し、包摂的、強靱(レジリエント）で持続可能な環境の実現について議論する。 （211　佐野　浩一郎／1 回） ４．経済成長と雇用　(8)：すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と、持続可能な経済成長の可能性と課題とについて議論する。 （145　河合　研至／1 回） ５．インフラと産業　(9)：包摂的で強靱（レジリエント）なインフラ構築、持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。 （144　小池　一彦／1 回） ６．陸上資源 生物資源学(14，15)：　農業・畜産・水産業における生物資源の利	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目		用と生態系保全とのジレンマについて講義する。 （273　川本　亮之／1 回） 　7．地域社会の取り組み　（地方自治体）　（17、11）：広島県内の地方自治体での種々の取り組みを、SDGs の観点から議論する。	
		SDGs への実践的アプローチ	SDGs は、貧困や飢餓の根絶、質の高い教育の実現、女性の社会進出の促進、再生可能エネルギーの利用、経済成長と生産的で働きがいのある雇用の確保、強靭(きょうじん)なインフラ構築と持続可能な産業化・技術革新の促進、不平等の是正、気候変動への対策等の 17 の目標と各目標を達成するための 169 のターゲットからなる。これらを実現するために、最も影響力があるのは小中高等学校における教育である。授業では、次世代を生きる子どもたちに地球規模での課題をどのように教え、行動力を育成しているかについて実践的にアプローチする。具体的には、SDGs の理念、基本的な考え方を学ぶとともに、ユネスコスクールに認定されている学校への訪問・見学等を行う。社会人を優先する。	共同
		ダイバーシティの理解	SDGs の達成を目指す社会において、ダイバーシティ＆インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。 （オムニバス方式／全 8 回） （147　坂田　桐子・65　櫻井　里穂 ／2 回)(共同） 　1．ダイバーシティに関する理論：特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて，理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。 （250　北梶　陽子／5 回） 　2．ゲーム演習：多様な人々で構成される集団や社会において，異なる他者の視点を取得し，問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。 （148　大池　真知子・ 250　北梶　陽子／1 回）（共同） 　3．ディスカッション：理論とゲーム演習の体験に基づき，ダイバーシティ＆インクルージョンの価値と実現方法について議論する。	オムニバス方式・共同（一部）
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	（概要）ICT の普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され，これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり，データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では，社会的背景，データを取り扱う手法として機械学習，統計学といったデータ科学の考え方について紹介し，いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また，セキュリティ，個人情報の保護といった問題についても触れる。 （オムニバス方式／全 8 回） （214　宮尾　淳一／4 回） 　ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には，ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し，その可能性を理解すると共に，AI への応用なども解説する。また，ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに，ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。 （149　柳原　宏和／4 回） 　本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして，記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフト R を用いて，データの取り込み，抽出，結合，ヒストグラムやボックスプロット，散布図などによるデータの視覚化，平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに，単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	医療情報リテラシー	（概要）がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や，有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ，電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など，医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため，これからの医療関連分野で活躍するためには，個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では，医療情報を処理するために必要な知識，解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに，その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ，倫理，法律などについても触れる。 （オムニバス方式／全８回） （261　小笹　晃太郎／１回） 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究 （150　工藤　美樹／１回） ゲノム情報の種類と，ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則，功罪や有用性 （215　森野　豊之／１回） 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法 （152　粟井　和夫・151　有廣　光司／１回）（共同） 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題，情報の有用性と社会における活用 （262　田中　剛／１回） 広島県独自の HMnet（ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network）を利用した医療情報共有の仕組みと活用 （139　田中　純子／１回） NDB（National data base）などの大規模医療データベースの種類，概要，倫理，疫学研究への活用 （216　大上　直秀／１回） がんゲノム情報の概要，理的課題，応用と活用 （153　久保　達彦／１回） 臨床治験の大規模化に伴う課題，功罪，応用と活用と演習	オムニバス方式・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	この授業の目標は次の２点である。１．キャリア理論を学習することで，大学院での自分の研究とキャリア（生き方）を，どう関連付けるかを考える契機とする。２．大学院から社会へのトランジションについて意識し，課題発見解決力やコミュニケーション力等，充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の３点に取り組む、１．自己理解。２．社会の現状を知る。３．グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
		理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は，社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である．本科目では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する．対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報（表情，視線，態度など）は重要な意味を持つため，本科目では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め，演習を通してスキルを向上させる．具体的な内容は，１）対話によるコミュニケーションの基礎，２）プレゼンテーション，３）高度なコミュニケーションスキルである傾聴，４）ファシリテーション，である．授業の目標は次のとおりである．1. 対話コミュニケーションにとっては，言語情報だけでなく非言語的要素（視線，あいづち，うなずき等）が重要であることを理解する．2. 目的に応じた研究概要書の作成方法，研究内容のプレゼンテーション方法を修得する．3. 傾聴スキルの基本について理解する．4. ファシリテーションスキルについて理解し，グループでのディスカッション方法を修得する．	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	ストレスマネジメント	現代は，社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している．ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり，対処が適切でないと，心身の健康や対人関係に影響を及ぼし，個人や組織の生産性を低下させることになる．したがって，社会で活躍し充実した人生を過ごすためには，ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる． そこで，本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し，心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得するための演習を実施する． 講義の目標は，次のとおりである．1.心理・社会的ストレスと，その特徴について知り，ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する．2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する．3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今，ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する．	
		MOT 入門	本講義は MOT とベンチャービジネスの基本を系統的に学習することを目標とする。経営管理の本質を理解するために，多くの事例を用いて，経営管理の基本である効率をはじめ，損益分岐点分析，倫理，品質管理，在庫管理，モティベーション，リーダーシップ，ビジネスプランなどの中核的な問題を系統的かつ分かりやすく説明する。	
		情報セキュリティ	（概要）本講義は社会人として、研究者として必要とされる情報セキュリティの基本を体系的に習得することを目標とする。情報セキュリティの基本概念の理解をはじめに、情報セキュリティを確保するための基礎技術、対策、教育などを体系的に学習するとともに、情報セキュリティ管理やインシデント対応などの実際について事例を交えて説明する。 （オムニバス形式／全 15 回） （155　西村　浩二／5 回） 情報セキュリティの基本概念および情報セキュリティ管理を実現するための体制構築や手法について、事例を交えて解説する。 （246　岩沢　和男／5 回） 情報システムのライフサイクルを中心に、セキュアシステムを構成するための経営戦略やプロジェクトマネジメントについて解説する。 （251　渡邉　英伸／5 回） 情報セキュリティを構成する基本技術および関連技術について、情報セキュリティ対策の実際を事例を交えて解説する。	オムニバス形式
		アントレプレナーシップ概論	イノベーションを起こすには、アントレプレナーシップが不可欠である。日本経済が長らく停滞してきた背景には、アントレプレナーシップが軽視されたことがあげられる。かつて、アントレプレナーシップは“起業家精神”と訳されていた。しかし、経営学の世界では、アントレプレナーシップを起業家的な思考と行動ととらえる。練習を通じて習得でき、決して神秘的なものではないことが研究で裏づけられている。本科目では、小説や映画などを教材に使い、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて学ぶ。科学者を目指さなくても、サイエンスの方法論を学ぶことに意義がある。キャリアとして起業家になることを考えていなくても、起業の方法論を知り、ある程度実践できることは、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとなりつつある。受講者が自分なりにアントレプレナーシップを理解し、自分の言葉で表現できることなどを到達目標とする。	
研究科共通科目		人間社会科学特別講義	（概要）文学，史学，哲学，言語学，経済学，経営学，法学，政治学，社会学，心理学，教育学などの，人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野の研究内容について，自然科学や生命科学を含む他分野との関連を踏まえて解説する。それぞれの分野に関する専門的知見を学び，人間社会科学研究科の各プログラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに，幅広い分野を俯瞰的に理解することを目指す。講義形式であるが，少人数による討論等も実施する。 （オムニバス方式／全 15 回） （158　衞藤　吉則・168　森田　愛子・172　星野　一郎・136　片柳　真理／1	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目		回） ガイダンスとして，本講義の全体像を解説する。 （159　溝渕　園子・169　本田　義央・253　古川　昌文・226　上野　貴史／1回） 多文化社会，比較文化などの分野の研究内容について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （218　後藤　雄太・173　末永　高康・227　川村　悠人／1回） 哲学，倫理学，思想文化などの分野の研究内容について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （219　奈良　勝司・174　本多　博之・176　前野　弘志／1回） 日本史学，東洋史学，西洋史学などの分野の研究内容について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （160　安嶋　紀昭・223　伊藤　奈保子・260　笛吹　理絵／1回） 地理学，考古学，文化財学などの分野の研究内容について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （161　小川　恒男・170　小林　英起子・8　柳澤　浩哉・177　今林　修／1回） 日本語学，日本文学，中国語学，中国文学，英米文学語学などの分野の研究内容について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （162　大内田　康徳・221　大河内　治・175　大澤　俊一・252　中川　雅央／1回） 経済学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （220　松嶋　健・247　金　宰ウク・254　吉田　有紀・178　PELTOKORPI VESA MATTI／1回） 経営学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （163　宮永　文雄・156　片木　晴彦／1回） 法学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （164　永山　博之・206　山根　達郎／1回） 政治学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （165　江頭　大蔵／1回） 社会学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （166　服巻　豊・222　上手　由香・224　梅村　比丘・179　杉村　和美／1回） 心理学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （167　長谷川　博・171　井上　永幸・225　杉浦　義典・228　進矢　正宏／1回） 心理学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （5　小山　正孝・6　山田　浩之・121　DELAKORDA KAWASHIMA TINKA／1回） 教育学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		まえて解説する。 （7　松見　法男・66　中矢　礼美・157　松浦　武人・1　清水　欽也／1回） 教育学に関する分野を中心として，研究内容について，他の分野との関連を踏まえて解説する。	
研究科共通科目	人間社会科学のための科学史	（概要）文学，史学，哲学，言語学，経済学，経営学，法学，政治学，社会学，心理学，教育学などの，人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野について，それらが自然科学や生命科学を含む他分野とどのように関連しながら発展し，現代社会を形成してきたかを解説する。それぞれの分野の歴史を学ぶことで，人間社会科学研究科の各プログラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに，歴史を接点として幅広い分野を俯瞰的に理解することを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （9　草原　和博・6　山田　浩之・190　加藤　厚海・133　吉田　雄一朗／1回） ガイダンスとして，本講義の全体像を解説する。 （182　高永　茂・255　奥村　真理子・191　宮川　朗子・258　松本　舞／1回） 多文化社会，比較文化などの分野の歴史について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （229　赤井　清晃・256　藤田　衛・192　有馬　卓也・259　岡本　慎平／1回） 哲学，倫理学，思想文化などの分野の歴史について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （230　舩田　善之・186　八尾　隆生・194　井内　太郎／1回） 日本史学，東洋史学，西洋史学などの分野の歴史について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （183　友澤　和夫・187　野島　永・237　後藤　秀昭・195　奥村　晃史／1回） 地理学，考古学，文化財学などの分野の歴史について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （184　有元　伸子・188　今田　良信・8　柳澤　浩哉・196　大地　真介／1回） 日本語学，日本文学，中国語学，中国文学，英米文学語学などの分野の歴史について，他の諸分野との関連を踏まえて解説する。 （231　小野　貞幸・234　折登　由希子・193　角谷　快彦・240　高橋　新吾／1回） 経済学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。 （232　陳　俊甫・189　林　幸一・238　徐　恩之・197　築達　延征／1回） 経営学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。 （163　宮永　文雄・180　秋野　成人・181　田村　耕一／1回） 法学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。 （164　永山　博之／1回） 政治学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。 （165　江頭　大藏・248　中空　萌／1回） 社会学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目		（185　森永　康子・235　清水　寿代・257　神原　利宗・179　杉村　和美／1回） 心理学・行動科学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。 （233　上泉　康樹・236　大嶋　広美・239　有賀　敦紀・241　小川　景子／1回） 心理学・行動科学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。 （9　草原　和博・6　山田　浩之・122　WALTER BRETT RAYMOND／1回） 教育学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。 （7　松見　法男・67　牧　貴愛・157　松浦　武人・68　三輪　千明／1回） 教育学に関する分野を中心として，その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。	
	異分野協働プロジェクト	複数の分野が協働して取り組むプロジェクトを取り上げ，受講生それぞれの専門分野がそのプロジェクトにどのように貢献できるかを考察する。分野は人文社会科学，自然科学，生命科学の全てを対象とする。また，プロジェクトは学内のものに限定せず，学外の研究者も積極的に活用する。異分野の学生で構成するグループを構成し，講義とグループワークを通して，人間や社会を多角的に捉え，他分野との共働により共通の課題を解決する過程を体験する	
	未来創造思考（基礎）	本講義では，新規事業を開発・実行するために必要な知識や方法として，ビジネスプラン，マーケティング，資金調達，事業運営などに関する計画と実行についての理解が必要であるという観点に立ち，起業の観点から未来創造思考（future creation thinking）を実践するための基礎を学ぶ。未来創造思考は未来を創造するための思考枠組みであり，現実の問題を解決し望ましい未来の実現を図るプロフェッショナルにとって必須のスキルである。新ビジネスの開発・事業化のみならず，社会問題の解決や組織の改革などに必要とされるものである。本講義では，未来創造思考の概念，問題の定義，未来の構想，チームビルディング，戦略的実行という未来創造思考に関する講義と演習を通して，自ら率先して未来創造を実践するための基礎知識と基礎能力を育成する。	
	国際標準化論	広く世の中経済・社会活動は，ルール（標準等 「任意」及び規制等の「強制的なルールにより定められた土俵上で行われているが， 標準等の任意ルールは誰でも主導することが可能であるので，民間企業であっても積極的にルール作り取組まなければ，競争に生き残れないことを認識する。実例を元に国際的な標準化についての問題点や対応策について説明する。	
	理工系のための経営組織論	過去におけるものづくり現場での無数の観察結果や証言を凝縮する形で，現場から見上げた歴史および世界観を総括し，今後の日本のものづくり産業の競争戦略・企業戦略について講義する。これまでの世界のものづくり産業の興廃の歴史などを概観することによって，現場の能力構築やイノベーション・アーキテクチャをどう育てていくかが重要な時代となってきたことが明確になってきている。今後，ものづくり現場と本社が一体となって，どのような方向性で取り組むべきかについて学ぶ。	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	平和を希求する広島大学において，平和教育を構築することは重要な課題である。グローバル社会の進展により多様な文化的歴史的背景をもった人々が共生する時代において，平和教育をどのように構築していけばよいか，ヒロシマからの視点を含め，実践的にアプローチする。授業では，積極的平和観，消極的平和観等の平和教育に関する理論について学び，各国における平和の概念について検討する。さらに，広島市内の小中学校，附属学校等，平和教育を実践している学校や平和教育関係施設への訪問・見学等，実践的なアプローチを行い，平和を継続発展するための実践力を培う。社会人を優先する。	共同
	教育科学のための研究法と倫理	（概要）教育科学で用いられる代表的な研究法について解説する。学校現場における実践的な研究を含め，それぞれの分野における主要な研究を取り上げ，問題への気づきからその解決に至る過程がどのように進行していったのかを調べることにより，受講生の専門分野における方法論との異同や特徴についての理解を深	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目		める。また，教育科学領域における研究倫理について，具体的な事例を取り上げて解説し，受講生自身の研究テーマと関連づけながら倫理意識を高める。 （オムニバス方式／全 15 回） （5　小山　正孝・2　馬場　卓也／1 回） ガイダンスとして，本講義の全体像を解説する。 （9　草原　和博・68　三輪　千明／1 回） 教育科学領域における研究倫理について総括的に解説する。 （6　山田　浩之／4 回） 教育学の諸分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに，研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。 （5　小山　正孝・9　草原　和博／6 回） 教師教育デザイン学における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに，研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。 （7　松見　法男／3 回） 日本語教育学における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに，研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。	
	教育科学と社会	（概要）教育科学における研究が社会にどのような影響を及ぼし，また社会からどのような影響を受けてきたのかについて，自然科学や生命科学を含む他分野との関連も踏まえて解説する。それぞれの分野と日本社会及び国際社会との繋がりを学ぶことにより，教育科学が今後の社会の形成においてどのような役割を期待されているのかの理解につなげる。また，受講生自身の研究テーマが人間社会の発展にどのような関与をし得るのかを考察することにより，研究意欲の向上を目指す。 （オムニバス方式／全 15 回） （9　草原　和博・1　清水　欽也／1 回） ガイダンスとして，本講義の全体像を解説する。 （6　山田　浩之／3 回） 教育学に関する分野を中心として，日本社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。 （3　石田　洋子・66　中矢　礼美／1 回） 教育学に関する分野を中心として，国際社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。 （2　馬場　卓也・67　牧　貴愛／1 回） 教育学に関する分野を中心として，国際社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。 （5　小山　正孝・9　草原　和博／6 回） 日本における学校教育と社会との関わりについて，他の分野との関連を踏まえて解説する。 （7　松見　法男／3 回） 日本語教育学関する分野を中心として，社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。	オムニバス方式
	Sheltered　Instruction:	（英文）This course is designed to introduce the students to some standards for	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	Making Content Comprehensible	instructing non-native speakers in a content-based class. Making Content Comprehensible focuses on the assessment and teaching of non-native speakers and relates the techniques to second language acquisition theory. This course is designed to introduce the pre-service teacher to appropriate assessment and instructional techniques to support the development of oral proficiency, literacy skills, and content instruction for children whose first language is not Japanese (JLLs – Japanese language learners). This course will be especially useful for any student who will have a non-native speaker in their future classrooms. （和訳）本授業の目的は，内容中心の授業において非母語話者の児童・生徒を教える際の基準を紹介することである。内容を分かりやすくすることは，非母語話者の評価と教育に焦点を当て，その技法を第二言語習得論に結び付ける。本授業は，教員養成を受けている学生に対して，適切な評価や，母語が日本語ではない児童・生徒（日本語学習者）の発話能力，読み書き能力及び内容理解の発達を支える教授法を紹介するために設計される。本授業は，将来，非母語話者を対象に授業を行う学生に特に役立つ。	
	Religious culture in public education	（英文）Religious culture in public education course will contribute to students' knowledge of principal religions and worldviews, and the diversity within and between them as well as the commonalities they share. The students will develop an understanding of the influence of beliefs, values and traditions on individuals, communities, societies and cultures. Based on such understanding, they will analyze and compare religious culture education in various countries including Japan and discuss the role and significance of religious culture and interreligious competency in Japanese school education. （和訳）公教育における宗教文化の授業は，学生の主要な宗教及び世界観，また宗教内・宗教間の多様性と共通点についての知識を深めることに役立つ。学生は，個人，地域，社会，文化への信念，価値観と習慣の影響について理解することができる。本講義では，その理解を基に，日本を含むさまざまな国における宗教文化教育を分析・比較し，日本の学校教育における宗教文化及び宗教間コンピテンシーの役割と意義について議論する。	
	Academic Writing for Graduate Students in Education	（英文）Academic English is useful for global communication and is recognized as a register of English with specific linguistic characteristics that distinguish it from other registers. This course aims to introduce those features to graduate students who are not native or near-native speakers of English and thus make the challenge of intercultural communication easier and more enjoyable. （和訳）アカデミック英語は，グローバルコミュニケーションに役立ち，他の言語使用域と区別できるような特定の言語学的特徴を持つ英語の使用域として認識される。本授業の目的は，このような特徴を，英語非母語話者の大学院生，あるいは英語母語話者に近い言語能力を持つ大学院生に紹介し，異文化間コミュニケーションをより円滑にすること，そしてより楽しくすることである。	
	日本の教育開発経験	（概要）日本は教育開発の歴史において今日の途上国が抱える教育問題と似通った課題に遭遇し、その原因の解明や新たな政策や改革の導入によって解決を図ってきた。本科目では現代日本の教育制度・政策を概観した上で、戦前と戦後の教育政策の変遷を異なる視点（教師教育、幼児教育・保育、初等・中等教育（理科・数学・社会）、高等教育、国際教育協力）から分析する。受講生は、途上国の教育開発との比較を通して、日本の教育開発経験から得られる教訓を考える。本科目の履修を通して受講生は以下の能力を修得する。1）日本の教育開発の過程と特徴を説明できる。2）日本の教育開発経験から途上国の教育課題解決に有益な教訓を導き、その政策的含意を考えられる。 （オムニバス方式／全 15 回） （68　三輪　千明／3 回） 日本の教育制度と政策の変遷，日本の幼児教育・保育開発 1，日本の幼児教育・保育開発 2 （67　牧　貴愛／2 回） 日本の教師教育・政策の変遷 1，日本の教師教育・政策の変遷 2	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			（1　清水　欽也／2 回） 日本の初等・中等教育開発（理科）1，日本の初等・中等教育開発（理科）2 （2　馬場　卓也／2 回） 日本の初等・中等教育開発（数学）1，日本の初等・中等教育開発（数学）2 （66　中矢　礼美／2 回） 日本の初等・中等教育開発（社会科）1，日本の初等・中等教育開発（社会科）2 （10　齊藤　一彦／1 回） 日本の初等・中等教育開発（保健体育） （11　堀田　泰司／2 回） 日本の高等教育開発 1，日本の高等教育開発 2 （120　丸山　隆央／1 回） 日本の国際教育協力政策の変遷	
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	学習開発学特別研究	（概要）学校カウンセリング（栗原），キャリア発達（児玉），学校教育史（山内），学習心理学（深谷），発達心理学（藤木），教師教育（米沢）の 6 領域（クラス）にわかれ，それぞれの領域から学習開発に関する基本的な課題を取り上げ，関係する文献の講読・討議，課題解決のための調査の設計・実施・考察を通して，学習開発を探究する上で必要な基礎的知識・技能について，各領域の視点から指導する。また，領域相互での討議を実施するほか，学生のニーズに併せて，4 期にわたってテーマを深めたり領域を変えたりしながら，問題を追及することによって，多様な観点から学習開発を探究する知識・技能を身につける。 （12　栗原　愼二） 学校カウンセリングの観点から研究指導を行う。 （13　児玉　真樹子） キャリア発達の観点から研究指導を行う。 （14　山内　規嗣） 学校教育史の観点から研究指導を行う。 （70　深谷　達史） 学習心理学の観点から研究指導を行う。 （71　藤木　大介） 発達心理学の観点から研究指導を行う。 （72　米沢　崇） 教師教育の観点から研究指導を行う。	
		カリキュラム開発特別研究	（概要）学校教育のカリキュラムや学習指導と評価に関する基本的な課題について，学生が特に研究を深めたいテーマに合わせて８クラスから１つを選択し，専門教員の指導のもとで，実践を踏まえた新たな研究開発ができる高度な専門的能力を身につける。クラス１（木原成一郎）では,保健体育教育の課題,クラス２（木村博一）では,社会認識教育の課題,クラス３（権藤　敦子）では,音楽教育の課題,クラス４（松本仁志）では,国語・文字教育の課題,クラス５（中村和世）では,美術教育の課題,クラス６（真野祐輔）では,数学教育の課題,クラス７（松宮奈賀子）では,英語教育の課題,クラス８（渡邉巧）では,生活・総合教育の課題を扱う。基本的な文献の講読とレビュー，研究方法のデザイン，研究の実施，学会などでの研究発表，研究報告書の作成，研究倫理などの基本を学ぶことを通して，教職の中で生涯を通して学び続けるために必要な資質を高めるとともに，知識やスキルを段階的に獲得できるように指導する。また，異なる専門領域との研究交流を通して，カリキュラム開発に必要な多角的な視点や協働性を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		（15　木原　成一郎） 保健体育教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。 （16　木村　博一） 社会認識教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。 （17　權藤　敦子） 音楽教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。 （202　松本　仁志） 国語・文字教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。 （18　中村　和世） 美術教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。 （119　真野　祐輔） 数学教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。 （73　松宮　奈賀子） 英語教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。 （74　渡邉　巧） 生活・総合教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。	
		特別支援教育学特別研究	（概要）本授業では，視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，病弱，重複・LD 等領域，または特別支援教育に関わる全般的なトピックのうち，学生が特に学びを深めたいと考えている障害に関する今日的な課題を取り上げる。関係する文献の講読・発表・討議，課題解決のための調査の設計・実施・考察を通して，特別支援教育を探究する上で必要な基礎的知識・技能について，選択した領域の視点から指導する。また，発表や選択した領域を超えた全体討議を通して，多様な観点から特別支援教育を探究する知識・技能を身につける。 （19　川合　紀宗） 主にコミュニケーション障害及びインクルーシブ教育に関する研究指導を行う。 （20　若松　昭彦） 主に知的障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病理的側面に関する研究指導を行う。 （75　竹林地　毅） 主に知的障害のある幼児児童生徒に対する指導法に関する研究指導を行う。 （76　氏間　和仁） 主に視覚障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病理的側面に関する研究指導を行う。 （77　林田　真志） 主に聴覚障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病理的側面に関する研究指導を行う。 （123　船橋　篤彦） 主に肢体不自由または病弱のある幼児児童生徒の心理・生理・病理的側面に関する研究指導を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	自然システム教育学特別研究A	（概要）理科の教育目標や理科教員として求められる資質・能力を多面的に理解し，理科の学習内容とその背景となる自然科学の論理を関連づけることにより，理科教育に関する専門性と自然科学（物理学，化学，生物学，地学）に関する専門性を相補的に身につける。また，具体的な授業場面を想定した学習材の開発や学習活動の設計に取り組み，効果的な学習材デザインのための知識や技能を向上させる。これらを通じて，理科教育の課題に対して継続的に取り組むための能力の育成を目指す。受講者は中等理科教育における学習内容や学習活動に関連した研究課題を設定し，先行研究等の調査，実験・観察・フィールドワーク等を取り入れた探究活動を通じて，その課題の解決に取り組む。また，その成果を学会発表や学術論文へ発展させられる素養を身に付ける。 （79　梅田　貴士） 物理概念の理解に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。 （21　古賀　信吉） 無機化学・物理化学・熱化学に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。 （78　網本　貴一） 有機化学・生体関連化学・材料科学に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として指導を行う。 （22　竹下　俊治） 植物や微生物の観察実験に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として指導を行う。 （80　富川　光） 動物の多様性や分類・生態に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。 （23　山崎　博史） 地形・地質に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。 （81　吉冨　健一） 岩石・地質や天体・気象に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。	
		自然システム教育学特別研究B	（概要）理科の教育目標や理科教員として求められる資質・能力を多面的に理解し，科学（理科）教育の歴史や方法論と，その背景となる科学（理科）教育の基本原理を関連づけることにより，科学（理科）教育に関する専門性を身につけるとともに，科学（理科）教育における課題に対して継続的に取り組むための知識やスキルの育成を目指す。受講者は科学（理科）教育にかかわる課題を設定し，内外の文献講読による調査，討論，学習者を対象とした実態調査，教育実践の実地調査等を取り入れた探究活動を通じてその課題の解決に取り組み，理科のカリキュラム構成や授業設計，および評価を行うための知識や技能を向上させる。また，その成果を学会発表や学術論文へ発展させられる素養を身に付ける。 （24　磯崎　哲夫） 科学教育の原理および教師教育に関して比較教育学的・教育史学的アプローチを中心として指導を行う。 （82　松浦　拓也） 科学教育の指導法および評価に関する調査・分析を中心として指導を行う。 （83　三好　美織） 科学教育のカリキュラムおよび教育実践に関する調査・分析を中心として指導を行う。	
		数学教育学特別研究A	（概要）昨今の社会における数学的素養を持った高度な専門職業人への必要性に	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		も応え，そういった職業人を育てる大本である中・高等学校数学科教員の持つべき高度な数学的能力を更に深めるために，この一連の授業では主にセミナー形式で数学の各分野（代数学，幾何学及び解析学）における学習・研究を通して，ハイレベルな数学的能力の開発に努め，各地域における数学教育界でのリーダーのもつべき資質と専門的能力の育成に貢献する。具体的内容は以下である。 （25　池畠　良） 偏微分方程式論（特に双曲型偏微分方程式）に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。 （27　寺垣内　政一） 位相幾何学に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。 （26　下村　哲） ポテンシャル論・偏微分方程式論（特に楕円型偏微分方程式）に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。	
		数学教育学特別研究Ｂ	（概要）本科目では，中等教育段階における数学教育に関する高度な理論的・実践的な知識・技能を習得し，数学科の学習指導と授業設計についての教育・研究に必要とされる資質・能力を育成する。そのため，最新の数学教育学研究をレビューすることによって，理論と実践の両面を考慮し，数学教育学研究の固有性と多様性，研究の対象と方法を知る。次いで，中等教育段階における数学教育の原理と方法に関する日本国内外の理論的・実践的文献を講読し，数学的理解や数学的思考，数学的知識や概念の形成，数学科授業構成（情報機器の活用を含む）を主な論点として討議・講究する。 （5　小山　正孝） 数学教育の原理と方法に関する数学的理解や数学科授業構成（情報機器の活用を含む）を中心的に取り扱う。 （84　影山　和也） 数学教育の原理と方法に関する数学的思考や知識及び概念形成についての理論と実践の関連を中心的に取り扱う。	
		技術・情報教育学特別研究（技術・工業）Ａ	（概要）教育研究分野における技術・工業に関する内容学(木材と加工，金属と加工，メカトロニクス)において，「学び続ける教員」の基礎となる「研究力」を高めるために，基本的研究能力，問題解決能力および研究総括能力を育成する。教育研究分野における技術・工業に関する内容学についてクラス分けを行い，課題選定，文献調査，課題の分析，研究計画の策定，基礎実験法，教材開発，学習プログラム開発，および成果発表の順で進める。技術・工業における教育に関する課題および内容について深く学ぶために，技術･情報教育学特別研究(技術･工業)B の受講生を交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。さらに，技術・工業だけによらない広い視点についても学ぶために，技術・情報教育学特別研究(情報)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。 （28　田中　秀幸） メカトロニクスの観点から研究指導を行う。 （86　木村　彰孝） 木材と加工の観点から研究指導を行う。 （85　鈴木　裕之） 金属と加工の観点から研究指導を行う。	
		技術・情報教育学特別研究（技術・工業）Ｂ	（概要）技術教育の学習活動と学習指導に関する先行研究を講読する。これに基づき技術教育の実践的・体験的な学習活動に付随する思考や技能及び関連要因の構造について把握する。また，技術教育に関わる資質・能力を育成し意欲・態度を涵養する適切な学習指導・評価に関する課題を想定する。さらに，「科学技術」「STEM教育」及び「問題解決」の文脈における技術教育の学習活動と学習指導	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		の位置づけについて検討を行う。これらを通して，技術教育に関する目的・内容・方法・評価について議論・討論を行う。技術・工業における教育に関する課題および内容について深く学ぶため，技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A の受講生を交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。さらに，技術・工業だけによらない広い視点についても学ぶため，技術・情報教育学特別研究(情報)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。 （87　谷田　親彦） 技術・工業の教育の観点から研究指導を行う	
		技術・情報教育学特別研究（情報）A	（概要）教育研究分野における情報に関する内容学(ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク)において，「学び続ける教員」の基礎となる「研究力」を高めるために，基本的研究能力，問題解決能力および研究総括能力を育成する。教育研究分野における情報に関する内容学についてクラス分けを行い，課題選定，文献調査，課題の分析，研究計画の策定，基礎実験法，教材開発，学習プログラム開発，および成果発表の順で進める。情報における教育に関する課題および内容について深く学ぶため，技術・情報教育学特別研究(情報)B の受講生を交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。さらに，情報だけによらない広い視点についても学ぶため，技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。 （30　藤中　透） ソフトウェアの観点から研究指導を行う。 （29　渡辺　健次） ネットワークの観点から研究指導を行う。 （88　川田　和男） ハードウェアの観点から研究指導を行う。	
		技術・情報教育学特別研究（情報）B	（概要）既往研究の調査，課題の設定，研究計画の策定，実験・実習，研究総括により進める。研究テーマに応じて情報教育の多くの内容と様々なレベルにおける学習のモデル，学習者の個人内モデル，学習者間のモデルなどを特定する。テーマに関する既往研究を探索し，1)既知の事項，2)何らかの根拠を援用したり，理論的洞察に基づいて示唆されている事項，3) “open problem”等と表現される未解決の事項の識別を試みる。大まかにみてどのようなアプローチが試みられてきたか，どのような具体的方法が考えられるか。それらをどのような組合せで採用するか。解決できる見通しはあるか，そう考える理由は何か，疑問や反論として何が予想されるか等の考察や活動を通して研究課題の主体的な解決と，何らかの根拠に基づくエビデンスの取得を試みる。情報における教育に関する課題および内容について深く学ぶために，技術・情報教育学特別研究(情報)A の受講生を交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。さらに，情報だけによらない広い視点についても学ぶため，技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。 （31　長松　正康） 情報の教育の観点から研究指導を行う。	
		社会認識教育学特別研究（社会・地理歴史）A	（概要）地域的課題や地球的課題に関する専門性の高い研究課題の設定，研究成果とその教材開発について発表や討論などを通して，専門領域研究・海外の教科書研究と教材開発研究を相互に関連させて発表しながら学び合う。受講者は，独自の研究課題を設定し，先行研究に対する批判的な検討を通じて，自身の研究内容を改善し，自らの成果を学校現場などで活かす方法について議論する。 （32　由井　義通） 人文地理学内容および，ESD を中心テーマとする地理教育に関する研究および教材開発を担当する。 （89　熊原　康博） 自然地理学的内容および，自然災害を中心とする防災教育に関する研究および教	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			材開発を担当する。	
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	社会認識教育学特別研究（社会・地理歴史）B	（概要）社会科認識教育学や地理・歴史に関連した分野を中心として，これらに関連する国内外の高度な専門知識を獲得し，先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法，地理・歴史に係わる革新的な学習材をデザインできる専門家の養成を目指す。受講者は，独自の研究課題を設定し，先行研究・先駆的な実践に対する批判的な検証を通じて，自身の研究枠組みや方法論を省察し改善するとともに，自らの成果を学校現場などで活かす手立てについて議論する。 （9　草原　和博） 主として教科の思想的基盤，カリキュラム論，教師教育論に関する研究および教材開発を担当する。	
		社会認識教育学特別研究（社会・公民）A	（概要）公民教育の内容にかかわる今日的な課題について，文献資料の探索や実証的な調査研究の国際比較を通じて認識を深め，問題構造の解明や解決策を討論しながら考察する。これにより，人文社会科学分野での学術的な調査分析という高度な専門的研究能力の習得と，社会認識教育での高度な教材研究・開発能力を養うことができる。 （33　畠中　和生） 倫理学の基礎・基本問題について確認したうえで，主として環境問題に関する哲学・倫理学的アプローチに関する専門的内容および教材開発についての研究を行う。 （127　森田　英樹） 近現代の社会経済や経済（学）教育について，数学から歴史・思想まで多様な視点から背景となる経済学の専門的内容について講義・報告・討論を行う。	
		社会認識教育学特別研究（社会・公民）B	（概要）中学校社会科・高校公民科を中心とした幅広い公民教育に関する理論・実践・研究を具体的な事例として，先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法の獲得をめざす。受講者は，独自の研究課題を設定し，先行研究・先駆的な実践に対する批判的な検証を通じて，自身の研究内容を省察し改善するとともに，研究成果を学校現場などで活かす方法について議論する。 （34　棚橋　健治） 主として学力論・学習評価論に関する研究および教材開発を担当する。 （90　川口　広美） 主として市民性教育論・カリキュラム（授業）論に関する研究及び教材開発を担当する	
		国語文化教育学特別研究A	（概要）クラス１（川口）では日本文学，クラス２（佐藤）では漢文学，クラス３（小西）では現代日本語学，クラス４（佐々木）では日本語史に関わる研究課題を，それぞれ設定して追究する。言語や文学の様態や歴史について，また，それらを教材化し教育実践に繋げるための視点や方法について，これまでの知見を整理したうえで課題を見つけ，理論的・実証的あるいは実践的に研究を遂行する。授業では，受講生それぞれの課題設定，先行研究の整理，研究計画の策定，調査など研究の遂行，成果の発表とディスカッションを行う。 （35　佐々木　勇） 日本語史の観点から研究指導を行う。 （36　佐藤　大志） 漢文学の観点から研究指導を行う。 （244　川口　隆行） 日本文学の観点から研究指導を行う。 （91　小西　いずみ） 現代日本語学の観点から研究指導を行う。	
		国語文化教育学特別研究B	（概要）クラス１（山元）では国語教育の歴史的研究，比較国語教育研究，クラス２（間瀬）では国語教育学の理論的研究，臨床・実践的研究に関わる研究課題を，それぞれ設定して追究する。国語教育学研究の歴史・理論・方法について，また，それらを今日と将来の教育実践に繋げるための視点や方法について，これ	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		までの知見を整理したうえで課題を見つけ，理論的・実証的あるいは実践的に研究を遂行する。授業では，受講生それぞれの課題設定，先行研究の整理，研究計画の策定，調査など研究の遂行，成果の発表とディスカッションを行う。 （38　山元　隆春） 文学・読書領域を中心に国語教育学の歴史的研究，比較国語教育研究の観点から研究指導を行う。 （37　間瀬　茂夫） 説明的文章領域を中心に国語教育学の理論的研究，臨床・実践的研究の観点から研究指導を行う。	
		英語教育学特別研究Ａ	（概要）英語学研究と英語文学研究の知見を活用しながら，英語教育に関する諸問題を考察する。また，英語教育の内容面を充実させていくための方策についても検討する。学生は，指定された論文を読解し，プレゼンテーションを行う。その中で，その文献で示された知見の利点，実際の応用方法，課題点などについて明らかにすることが求められる。また，実際の授業案，活動例，ワークシート，試験を含めた評価方法についてもデザインを行う。 （39　小野　章） 全体の統括・調整を行う。英語文学研究の観点から英語教育の諸問題を考察する。 （92　西原　貴之） 英語学の観点から英語教育の諸問題を考察する。	
		英語教育学特別研究Ｂ	（概要）英語教育における教育課程，教材，指導法，評価，教師教育，比較教育など主として教育学関係の内容から特定のテーマを取り上げ，関連の文献や授業，教材等の収集，それらの分析・考察を通して問題の本質を理解する。加えて，それら一連のプロセスを通して英語教育に関連する問題解決の方法に関して習得させる。さらには，特に討論やプレゼンテーション，ケースメソッドなどを多く用いることで，扱うテーマの内容のみならず研究方法論の包括的理解を図る。 （40　松浦　伸和） 全体の統括・調整を行う。主として英語の指導法，学力評価，比較教育などの分野を担当する。 （93　樫葉　みつ子） 主として，授業論，教材論，教師教育などの分野を担当する。	
		健康スポーツ教育学特別研究Ａ	（概要）本授業では，健康スポーツ教育学（とりわけ，スポーツ学，スポーツ方法学）に関連した分野を中心として，これらに関連する高度な専門的な知識を獲得し，先導的な健康スポーツ科学の理論と方法や，健康スポーツ科学に係わる革新的なプログラムをデザインできる人材の育成を目指す。 受講生は，独自の研究課題を設定し，先行研究・先駆的な実践事例に対する批判的な検証を通じて，自身の研究内容を省察し改善するとともに，自らの研究成果をスポーツ活動や学校現場などで活かす方法について議論する。また，その成果を基に，学会での発表や学術論文の作成に取り組む。 （41　上田　毅） スポーツ学の観点から研究指導を行う。 （42　沖原　謙） スポーツ学の観点から研究指導を行う。 （43　出口　達也） スポーツ方法学の観点から研究指導を行う。 （94　黒坂　志穂） スポーツ方法学の観点から研究指導を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		（95　小木曽　航平） スポーツ学の観点から研究指導を行う。	
		健康スポーツ教育学特別研究Ｂ	（概要）本授業では，健康スポーツ教育学（とりわけ，スポーツ教育学）に関連した分野を中心として，これらに関連する高度な専門的な知識を獲得し，先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法や，スポーツ教育に係わる革新的な学習材をデザインできる人材の育成を目指す。 受講生は，独自の研究課題を設定し，先行研究・先駆的な実践事例に対する批判的な検証を通じて，自身の研究内容を省察し改善するとともに，自らの研究成果を学校現場や教員養成などで活かす方法について議論する。また，その成果を基に，学会での発表や学術論文の作成に取り組む。 （10　齊藤　一彦） スポーツ教育学の観点から研究指導を行う。 （96　岩田　昌太郎） スポーツ教育学の観点から研究指導を行う。	
		人間生活教育学特別研究Ａ	（概要）人間生活教育や家政学に関連した分野をコアとして，次世代の革新的で先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法や，インクルーシブで協働的な学習空間をデザインできる人材の養成を目指す。本授業では，受講者に独自の研究課題を設定させ，一連の学びを通じて，人間生活教育と家政学に関連する高度な専門性を獲得する。さらに，教授・学習の原理，方法との関連を考慮した学習内容および学習材に関する教師教育デザインの研究を継続的に遂行できる能力を育成する。 （44　今川　真治） 保育学，家族関係学，生涯発達学に関する国内外の重要な文献を講読し，それらの研究の背景，研究手法，分析法および成果について考察し，討議を行う。 （45　村上　かおり） アパレル設計学，アパレル情報学，衣生活教育学等に関する国内外の文献や既往研究論文を読み，研究手法や分析手法などを考察し，討議を行う。 （97　松原　主典） 食物学（栄養・食品・食生活）に関する国内外の重要な文献を講読し，教科内容と研究の背景を理解する。さらに，最新の文献や学習材を種々のデータベースから検索し，要点をまとめて発表・討議を行う。 （98　冨永　美穂子） 食生活学（調理科学，食文化，食行動）に関する国内外の文献を講読し，研究の背景を理解する。研究方法，内容について考察し，討議を行う。 （99　高田　宏） 住居学，住居環境学等に関する国内外の文献を講読し，それらの研究の背景，研究方法および成果を考察し，討議を行う。	
		人間生活教育学特別研究Ｂ	（概要）家政教育，人間生活教育，家庭科教育（原理，方法および内容構造）に関する国内外の文献を講読し，それらの研究の背景，研究方法および成果を考察し，討議を行う。主に，家庭科の教科論，学力論，カリキュラム及び教材構成等について追究する。これらを通して，人間生活教育学及び家庭科教育学に関する高度な専門性を獲得するとともに，教授・学習の原理，方法に関する教師教育デザインの研究を継続的に遂行できる能力を育成する。 （46　鈴木　明子） 人間生活領域の理論的・実践的研究の観点から研究指導を行う。	
		音楽教育学特別研究Ａ	（概要）音楽技法内容学に関する基礎文献を講読するとともに，最新の研究成果を概観し，現代的な学問の潮流を理解する。そのうえで，音楽技法内容学の学問領域にふさわしい研究テーマについて議論し，研究計画の立案方法および授業実践計画の立案方法について整理をする。資料やデータの収集と分析を行い，アカデミックライティングとプレゼンテーションのテクニックを学ぶ。音楽技法内容学は，各担当教員により以下の３つに分けることとする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		（47　枝川　一也） 声楽領域の観点から研究指導を行う。 （48　高旗　健次） 器楽領域の観点から研究指導を行う。 （100　徳永　崇） 作曲領域の観点から研究指導を行う。	
		音楽教育学特別研究Ｂ	（概要）音楽教育や演奏表現の分野を中心として，これらに関連する高度な専門的知識を獲得し，これから望まれる指導，学習，評価，および学習材等のデザインを先導できる人材の育成をめざす。そのために，音楽教育学や演奏表現を基礎とした今日の社会における音楽的事象に関する基礎文献を講読したり，映像資料を視聴したりして，現代的な学問の潮流を理解する。そのうえで，音楽教育の学問領域で注目される研究テーマをとり上げ，ディスカッションを行う。その過程で，研究計画の立案方法や授業実践計画の立案方法について整理をする。また，資料やデータの収集と分析方法の検討を行い，その成果発表を行う。 （101　伊藤　真） 音楽教育学の観点から研究指導を行う。	
		造形芸術教育学特別研究Ａ	造形芸術教育や造形芸術に関連した分野をコアとして，革新的で先導的な次世代の教師教育をデザインできる人材の養成を目指す。受講者は，造形芸術に関わる研究課題を設定し，造形芸術の各領域（絵画・彫刻・デザイン・工芸）における理論的，実践的な研究を通じて専門性を身につけると共に，これらを通して習得した高度な専門的知識・技能，実践力を相補的に活用して，造形芸術教育を先導する教師教育デザイン研究を遂行できるようにする。 （51　内田　雅三） 絵画領域に関する理論的，実践的研究を中心として指導を行う。 （49　一鍬田　徹） 彫刻・立体表現領域に関する理論的，実践的研究を中心として指導を行う。 （102　八木　健太郎） デザイン領域に関する理論的，実践的研究を中心として指導を行う。 （50　井戸川　豊） 工芸領域（陶芸）領域に関する理論的，実践的研究を中心として指導を行う。	
		造形芸術教育学特別研究Ｂ	造形芸術教育や造形芸術に関連した分野をコアとして，革新的で先導的な次世代の教師教育をデザインできる人材の養成を目指す。受講者は，造形芸術教育に関わる研究課題を設定し，理論的，実践的な研究を通じて専門性を身につけると共に，これらを通して習得した高度な専門的知識・技能，実践力を相補的に活用して，造形芸術教育を先導する教師教育デザイン研究を遂行できるようにする。 （103　三根　和浪） 美術教育領域の理論的・実践的教育課題を基に研究課題を設定し美術教育学研究を行う。 （104　蜂谷　昌之） 造形芸術教育に関する文献や実践事例をもとに課題を明確化し，それに基づいた研究を行う。	
		教室環境デザイン基礎研究	児童生徒は学級という集団のなかで，対人関係を通じて全人的な成長を果たしていく。本授業では，児童・生徒の心理・社会的発達の支援方法として学校教育の中で用いられている，構成的グループエンカウンター，ソーシャルスキルトレーニング，ピア・サポート，プロジェクトアドベンチャーなどの集団的サイコエデュケーションの理論と方法を学ぶ。また，そうした教室環境をデザインするための教師のあり方について理解を深めるため，リーダーシップのあり方についても議論を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	教室環境デザイン発展研究	本授業は，授業設計，生徒間コミュニケーション，教材づくり，学級風土，ICTの有効な活用法などの学習環境のデザインに関する内外の研究をはじめとする，教育諸科学における研究領域を対象に，受講生が自身の研究関心にもとづき先行研究の知見の概観と発表を行う演習である。演習を通じて，単なる研究紹介にとどまらない，批判的で建設的なレビューを行うスキルを習得するとともに，他者に分かりやすく発表するスキルを身につけることが目標となる。	
		人間関係（コミュニケーション）デザイン基礎研究ａ	本授業の目標は，人間関係をデザインするツールとして身体運動を取り上げて，スポーツ生理学，バイオメカニクス，発育発達学などの量的研究を中心に学ぶとともに，その知識を健康教育への応用や問題解決の手がかりとして応用できるようにする。現在，教育場面を中心に，数多くの健康問題があり，ライフステージごとの健康教育･実践の役割が重要になっている。この状況を踏まえ，これからの健康教育や健康科学の有り様としての人間関係デザインを学ぶ。本授業は，外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。また人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び，人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な基礎的知識や技能を身につける。	
		人間関係（コミュニケーション）デザイン基礎研究ｂ	教育場面に限らず数多くの健康問題や社会問題があり，ライフステージごとの健康教育の役割が重要になっている。この状況を踏まえ，本授業の目標は，人間関係をデザインするツールとして身体運動を取り上げ，文化人類学的手法や社会学的手法（質的研究手法）を用いて学ぶとともに，その知識を健康教育への応用や問題解決の手がかりとして活かしていくことを検討する。そして，これからの健康教育の有り様としての人間関係デザインを学ぶ。本授業は，外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。また人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び，人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な基礎的知識や技能を身につける。	
		人間関係（コミュニケーション）デザイン発展研究ａ	人間関係（コミュニケーション）デザイン学基礎研究において，種々の身体発達，身体運動，身体機能，遊び，人間関係および社会性の変容を理解してきた。本授業の目標は，人間関係（コミュニケーション）デザイン学を発展的に展開するため，ツールとしての身体，身体運動をスポーツ生理，スポーツバイオメカニクス，発育発達，生理人類学の観点から学ぶ。基礎研究において学んできたことを統合するとともに，実際の学習場面への展開について，人間関係（コミュニケーション）を利用することによって，身体を動かすことが心身の健康に及ぼす影響について理解を深める。本授業は国内外の最新の情報をもとに，外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び，人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な発展的知識や技能を身につける。	
		人間関係（コミュニケーション）デザイン発展研究ｂ	本授業では，人間関係（コミュニケーション）デザイン学を発展的に展開するため，ツールとしての身体や身体運動を文化人類学，スポーツ社会学の観点から学ぶ。人間関係（コミュニケーション）デザイン学基礎研究において，種々の身体発達，身体運動，身体機能，遊び，人間関係および社会性の変容を理解してきた。これらを統合するとともに，実際の学習場面への展開について，人間関係（コミュニケーション）を利用することによって，身体を動かすことが心身の健康へ関与することについて文化人類学的および社会学的に理解を深める。本授業は国内外の最新の情報をもとに，外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び，人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な発展的知識や技能を身につける。	
		ＩＣＴ空間デザイン基礎研究	初等中等学校教育の教室という空間における ICT 活用はもとより，教室外の学校空間や家庭，地域を巻き込んだ教育といった場所に至るまで，様々な場面での教育の空間を念頭において，具体的に ICT を活用するための教育理論を背景にしながら，数理情報科学分野における ICT による空間デザインの基礎的研究を行う。ソフトウェア，ハードウェア，ネットワークなどの教育学外の見地を含めながら，主体的に ICT を活用できるようになることを目標とする。 （125　北臺　如法） 数理科学の観点からの ICT による空間デザインの授業を行う。 （29　渡辺　健次） 情報科学の観点からの ICT による空間デザインの授業を行う。	
		ＩＣＴ空間デザイン発展研究	初等中等学校教育の教室という空間における ICT 活用はもとより，教室外の学校空間や家庭，地域を巻き込んだ教育といった場所に至るまで，様々な場面での教	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		育の空間を念頭において，具体的に ICT を活用するための教育理論を背景にしながら，数理情報科学分野における ICT による空間デザインの発展的研究を行う。情報科学の観点から，ソフトウェア，ハードウェア，ネットワークなどの教育学外の見地を含めながら，主体的に ICT を活用できるようになることを目標とする。この授業では，情報科学の観点からの ICT による空間デザインの授業を行う。	
		ラボラトリーラーニングデザイン研究（理科）	中等教育理科（物理および化学分野）における実験を取り入れた探究的な学習活動をテーマとして，その目的，素材と内容，および学習展開の論理について国内外の研究・実践事例を基にして論考する。また，実験室での効果的な学習活動を創出するための実践的能力を，学習プログラムの開発を通じて育成する。受講者は，個人あるいはグループで学習テーマを選定し，想定した学習段階や学習場面に応じた実験室における学習活動を企画・立案する。その学習活動を模擬的に試行し，分析することにより，実験室における学習活動の意義と有用性を客観的に評価する。本授業を通じて，実験室を学習空間として効果的な学習活動をデザインするための指針と実践的技能の修得を目指す。 （79　梅田　貴士） 基本的な物理概念の習得を目的とした探究的な物理実験に関する学習空間のデザインを担当する。 （21　古賀　信吉） 科学的事象の物理化学的解析とその原理に関して，実験を取り入れた探究的な学習活動のデザインを担当する。 （78　網本　貴一） 化学物質の合成や性質の探究に関して，実験を取り入れた探究的な学習活動のデザインを担当する。	
		フィールドラーニングデザイン研究（理科）	中等教育理科（生物および地学分野）における野外調査を取り入れた探究的な学習活動をテーマとして，その目的，素材と内容，および学習展開の論理について国内外の研究・実践事例を基にして論考する。また，野外での効果的な学習活動を創出するための実践的能力を，学習プログラムの開発を通じて育成する。受講者は，個人あるいはグループで学習テーマを選定し，想定した学習段階や学習場面に応じた野外における学習活動を企画・立案する。その学習活動を模擬的に試行し，分析することにより，野外における学習活動の意義と有用性を客観的に評価する。本授業を通じて，野外を学習空間とした効果的な学習活動をデザインするための指針と実践的技能の修得を目指す。 （22　竹下　俊治・80　富川　光） 地域の生物に関する学習を中心に，野外における生物調査や実験・観察を取り入れた探究的な学習活動のデザインを担当する。 （23　山崎　博史・81　吉冨　健一） 地域の地質に関する学習を中心に，野外における地質調査や実験・観察を取り入れた探究的な学習活動のデザインを担当する。	
		学習開発学基礎研究	（概要）学習のメカニズムや課題等について，教科分野の視点や心理学の視点からアプローチし，学習指導法の類型や知識獲得のメカニズムと学習指導，育成する資質・能力と学習指導等について理解させる。講義では，学習指導法の心理学的理論基盤，理系・文系・実技系の各教科における知識獲得のメカニズムならびに思考・判断・表現の特性と学習指導の関係，アセスメント，現代的課題への対応などを取り上げ，学習指導や学習方法を開発するために必要な基礎的観点を構築する。 （オムニバス方式／全 15 回） （71　藤木　大介／4 回） オリエンテーションとして本講義の全体像を説明するとともに，心理学の視点から，学習指導法の類型や知識獲得のメカニズムとの関係について検討する。 （73　松宮　奈賀子／4 回） 文系分野の教科の視点から，育成する資質・能力と学習指導等について検討す	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			る。 （119　真野　祐輔／3 回） 　理系分野の教科の視点から，育成する資質・能力と学習指導等について検討する。 （15　木原　成一郎／4 回） 　実技系分野の教科の視点から，育成する資質・能力と学習指導等について検討する。	
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	学習開発学発展研究	（概要）現代社会に生きる子どもの学習方法とその意義を理解するために，学校教育における学習方法の多様な開発事例を取り上げて検討する。また，それらの改善について協議することを通じて，子どもの学習方法を開発するための観点を多角的・総合的に探究する。講義では，特に，「歴史的アプローチ」，「道徳性の育成」，「学校と社会教育施設との連携」，「子どもの学びの保証」などを取り上げ，具体的な学習方法の事例検討やフィールドワーク等を交えて，学習方法を実践的に開発するために必要な知識と技能を身に付けさせる。 （オムニバス方式／全 15 回） （14　山内　規嗣／5 回） 　オリエンテーションとして本講義の全体像を説明するとともに，歴史的アプローチから見た学習方法の開発や，道徳性の育成に関する学習方法の開発について検討する。 （18　中村　和世／5 回） 　学校と社会教育施設との連携を踏まえた学習方法の開発について検討する。 （202　松本　仁志／5 回） 　子どもの学びを保証する学習方法の開発や，問題解決能力を育成する学習方法の開発などについて検討する。	オムニバス方式
		学習開発学特論	（概要）学習開発学の構築に必要な幅広い学識を身につける。従来の教育諸科学の視点を踏まえ，生涯学習社会における学習の意味，目的，方法について，幅広い学識を講義する。具体的には教育学，心理学，教科教育学，特別支援教育学の各視点から学習にかかわる諸理論や諸課題を取り上げて講義を行う。またトピックとしては，学習の主体である子どものみならず，子どもの学習を支援する教師，また学習の主な環境である学校にも焦点を当てる。 （オムニバス方式／全 15 回） （13　児玉　真樹子／3 回） 　オリエンテーションとして本講義の全体像を説明するとともに，生涯キャリア形成の視点から見た学習主体，教育心理学の視点からみた学習動機づけについて検討する （74　渡邉　巧／3 回） 　教科教育学の視点からの学習主体，学習論の変遷，教師の学習について検討する （16　木村　博一／3 回） 　教科教育学の視点からみた「主体的・対話的な学び（学習）」，「深い学び（学習）」についてと，「主体的・対話的で深い学び（学習）」を育む教員の養成と研修について検討する （17　權藤　敦子／3 回） 　文化の視点からみた学習の意味，文化の視点からみた学習主体，文化の視点からみた学習論の変遷について検討する	オムニバス方式 共同(一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		（72　米沢　崇／1回） 教育学の視点からみた教師の学習について検討する （20　若松　昭彦・19　川合　紀宗・76　氏間　和仁・75　竹林地　毅・77　林田　真志・123　船橋　篤彦・124　森　まゆ・129　村上　理絵／2回）（共同） 特別支援教育学の視点からみた「主体的・対話的で深い学び（学習）」を育む学習論及び教員の学びについて検討する	
		教科課程デザイン基礎研究a	本授業では，カリキュラムに関する国内外の主要な論文・著書の講読を行うとともに，教科課程デザインの基本的な概念と方法を理解し，学習内容及び学習過程の構成等の見地から検討し合うことによって，カリキュラム開発を進めていく能力の基礎を培う。これらの内容について，クラス１（木村）では文化系教科課程デザインに関わる課題，クラス２（木原）では身体運動系教科課程デザインに関わる課題，クラス３（権藤）では表現系教科課程デザインに関わる課題を中心に取り扱う。	
		教科課程デザイン基礎研究b	教科課程の目的，内容，学習過程に関する文献や先行研究の講読を通して教科課程編成の原理・理論的背景を知る。主として中学校技術・家庭科技術分野を例として普通教育や職業教育の視点からの教科原理や目的・目標論の在り方と理念，「基礎知識と技能」「設計・計画と製作・制作・育成」「技術イノベーション・ガバナンス」などの教育内容と学力構造，「モジュール学習」「プロジェクト法」「デザインプロセス」などの学習過程と学習方法について講義する。	
		教科課程デザイン基礎研究c	本科目では，学校教育における教育課程の意義及び編成の方法に関わる教育課題の一つである教科課程について，理論的・実践的な考察や調査結果の分析に基づいて，教科課程をデザインすることのできる資質・能力を育成する。そのため，学校教育における小学校・中学校・高等学校の教科課程の編成原理と各教科の固有性や役割を知る。また，学校教育における教科課程に関する日本国内外の文献を講読したり，日本国内の全国学力･学習状況調査や国際的な PISA 調査や TIMSS 調査の結果を分析したりすることによって，学校教育における縦断的・横断的な教科課程の編成方法と各教科の位置付けや教科課程デザインにおけるカリキュラム・マネジメントと PDCA サイクル等，教科課程の意義や編成方法，改善案について討議・講究する。	
		教科課程デザイン発展研究a	本授業では，カリキュラムに関する国内外の主要な事例検討を行うとともに，教科課程と内容編成に関する理論的・実践的考察を行い，独自の研究視点から目標・内容・方法が一体化した授業を開発し，教科課程をデザインする能力を高める。これらの内容について，クラス１（木村）では文化系教科課程デザインに関わる課題，クラス２（木原）では身体運動系教科課程デザインに関わる課題，クラス３（権藤）では表現系教科課程デザインに関わる課題を中心に取り扱う。	
		教科課程デザイン発展研究b	教育課程の目的，内容，学習過程の知識等を踏まえ，教科課程や題材等の実践事例を検討する。主として「ものづくり教育」「生物の栽培・飼育教育」「STEM 教育」「コンピュータ・サイエンス教育」「フィジカル・コンピューティング教育術」を対象として，題材・実践事例に関係する教材，評価規準・基準と評価例などを検討する。また，各教育における基礎知識や技能，求められる思考力などの教育内容についての理解を深める。さらに，各教育の学力構造，学習過程，学習方法などの検討を通して，教育課程をデザインする能力を習得する。	
		指導・評価法デザイン基礎研究	教科のカリキュラム，編成原理，編成方法，学習指導，評価について，文献や映像資料等を用いて理論的側面と実践的側面から分析・考察・議論する。これらの内容のうち，主としてクラス１（中村和世）では美的教育に関わる課題，クラス２（松宮奈賀子）では初等教育における英語教育に関わる課題，クラス３（松浦拓也）では理科教育に関わる課題，クラス４（長松正康）では情報教育に関わる課題，クラス５（棚橋健治）では社会科教育に関わる課題，クラス６（山元隆春）では国語教育に関わる課題，クラス７（松浦伸和）では英語教育に関わる課題，クラス８（伊藤真）では音楽教育に関わる課題，クラス９（三根和浪）では美術教育に関わる課題を扱う。	
		指導・評価法デザイン発展研究	教科のカリキュラム，編成原理・方法，学習指導，評価に内在する諸課題を分析・検討し，課題解決にむけたデザインのあり方について発展的に考察する。これらの内容のうち，主としてクラス１（中村和世）では美的教育に関わる課題，クラス２（松宮奈賀子）では初等教育における英語教育に関わる課題，クラス３（松浦拓也）では理科教育に関わる課題，クラス４（長松正康）では情報教育に	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		関わる課題，クラス５（棚橋健治）では社会科教育に関わる課題，クラス６（山元隆春）では国語教育に関わる課題，クラス７（松浦伸和）では英語教育に関わる課題，クラス８（伊藤真）では音楽教育に関わる課題，クラス９（三根和浪）では美術教育に関わる課題を扱う。	
		学力・コンピテンシーデザイン基礎研究	本授業では，学校教育において育成を目指す学力およびコンピテンシーに関して理論的側面に焦点を当て，国内外の理論研究，学力調査，審議会答申や学習指導要領等の教育行政資料等を対象として分析・考察を行うことで，「教師教育者としての研究者」に必要な，研究資料を分析・考察する方法および能力を身につけるとともに，「教師教育者」として持つ学力およびコンピテンシーに対する理論的根拠を形成する。具体的には，学校教育において育成を目指す学力およびコンピテンシーについて，戦後の各種審議会答申や学習指導要領，国内外の目標論・学力論・評価論，学習発達研究に関する研究文献・資料の調査・分析を通して，現在および将来において，学校カリキュラムや各教科のカリキュラムにおいて求められる学力・コンピテンシーについて検討を行う。各クラスでは，言語教育領域（間瀬茂夫），理数教育領域（三好美織），生活自立教育領域（鈴木明子）を中心に扱う。	
		学力・コンピテンシーデザイン発展研究	本授業では，学校教育において育成を目指す学力およびコンピテンシーに関して実践的側面に焦点を当て，国内外の実践研究，教科書や各種教材を対象として分析・考察を行うことで，「教師教育者としての研究者」に必要な，実践資料を分析・考察する方法および能力を身につけるとともに，「教師教育者」として自ら学力およびコンピテンシー観を形成し，それらを育成する教材や授業，単元（題材）やカリキュラムなどを開発する能力を身につける。具体的には，国内外の授業記録や実践報告，教科書や指導書，テスト問題等の実践的資料をもとに，そこで育成が目指される学力およびコンピテンシーの具体とその育成に向けた指導方法や学習活動，評価方法を分析・考察するとともに，これから求められる学力・コンピテンシーを育成するための教材や授業，評価方法を構想する。各クラスでは，言語教育領域（間瀬茂夫），理数教育領域（三好美織），生活自立教育領域（鈴木明子）を中心に扱う。	
		比較カリキュラムデザイン基礎研究	教育の古典的，先端的研究の成果に関する国内外の重要文献（学習指導要領・同解説や諸外国のナショナル・カリキュラムも含む）を取り上げ，特定の教科のカリキュラム構成・編成原理（目的・目標論及び内容構成論），教師教育論などについて，比較教育学的視座（歴史的視座も含めながら）から解説し，これらに関するトピックについて討議する。クラス１（担当：磯﨑）は STEM 教育系教科，クラス２（担当：齊藤）は身体教育系教科，クラス３（担当：川口）は社会科学系教科・市民性教科に関わる事例を取り扱う。これらを通して，学び続ける教師あるいは将来の教育研究者のための授業実践及び教育研究の理論と方法を学ぶ。	
		比較カリキュラムデザイン発展研究	日本と諸外国の教育におけるカリキュラムデザイン（カリキュラムマネジメント・教師教育を含む）に関連した教育内容のうち，クラス１（担当：磯﨑）は STEM 教育系教科,クラス２（担当：齊藤）は身体教育系教科，クラス３（担当：川口）は社会科学系教科・市民性教科に関わる事例を取り扱う。比較教育学的視座から，わが国に及び欧米諸国におけるカリキュラムの理論と実践に関する文献（事例を含む）から，カリキュラムデザインに必要な理論と方法について学ぶ。なお，本授業は，実際にカリキュラムを選び，その分析を通して特質と課題を抽出するという研究プロセスに基づき展開する。具体的には，課題の設定，分析事例の選出，理論的枠組みの検討，調査・分析を通して，成果をまとめ，発表・討議する，という流れをとる。	
		カリキュラムデザイン史基礎研究	学校教育制度における教育カリキュラムの変遷を学び，歴史的視点から教育の諸課題について考察する。本授業では美術の教育課程に焦点をあて，政策，制度面の変遷をはじめ，教科書，教授法の変容，教育カリキュラムに影響を与えた人物やその思想などについて，文献講読や関連資料の分析等を行うとともに，教育研究の方法論への理解をもとに，各時代の動向をふまえながら明治期以降一世紀以上にわたる美術教育の進展や課題について考察する。	
		カリキュラムデザイン史発展研究	我が国及び諸外国における教育内容・方法に関する文献や実践事例への理解をふまえ，今後の教育実践のあり方を探究する。本授業では美術の教育課程に着目し，これまでに発行された教科書や教師用指導書の分析を通して，教材編成や授業構造，指導方法等に関する理解を深め，美術教育にかかわる専門性を身につける。さらに，今日の美術授業の実践例をとりあげ，その指導計画や授業内容との比較検討を通して，教材開発や授業改善への方策を検討する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	子どもと学習材デザイン基礎研究ａ	学校教育における学習材に関する理論的・実践的研究を基盤として，学校の教育実践に即した教育課程の編成を踏まえた学習材デザインについて，理論的・実践的諸課題や諸論点を講義・演習する。クラスＡ（松本仁志）では子どもの文字言語発達に関する課題，クラスＢ（渡邉巧）では子どもの社会性の発達に関する課題，クラスＣ（真野祐輔）では子どもの数概念の発達に関する課題から学校における学習材の構造を考究し，学習材の特性を理解することを通して，学習材に関する必要な知識と技能を身につける。	
		子どもと学習材デザイン基礎研究ｂ	子ども（児童および生徒）に関連した教育内容のうち，ものづくり教育の学習材やプログラミング教育の学習材にかかわる課題を，児童・生徒の理解や教育実践事例を基にした議論を通じて選定し，課題発見・解決に向けた学習材の開発研究を試行する。具体的には，課題選定，文献調査，課題の分析，研究計画の策定，基礎実験法，学習材開発，および成果発表の順で進める。また，人間性や社会性を育む ICT を活用したロボット教材の例により，学習材の開発研究の基礎的な知識と技能を身につける。	
		子どもと学習材デザイン基礎研究ｃ	子どもの数理認識の実態と発達の過程，数理科学に関する課題やその解決のために使われる道具を含む学習環境に関する諸論を中心として，国内外の文献・資料の収集と読解，批判的検討を進める。特に，定規とコンパス，教科書のような物理的道具を使用する場合と，コンピュータソフトウェアを使用する場合との数理認識形成に与える効果の違いに注目する。その成果を踏まえて，効果的に発達させるための適切な学習環境をデザインするための諸原理を考案する。最終的に，数の概念や数量関係，幾何の体系といった，特定の内容に焦点化した学習単元を開発する。	
		子どもと学習材デザイン発展研究ａ	学校教育における学習材に関する理論的・実践的研究の主要な論文・著書を講読することを通して，学校の教育実践に即した教育課程の編成方法を踏まえた学習材デザインに関する理解を深める。クラスＡ（松本仁志）では子どもの文字言語発達に関する課題，クラスＢ（渡邉巧）では子どもの社会性の発達に関する課題，クラスＣ（真野祐輔）では子どもの数概念の発達に関する課題について具体的な事例に即して検討し，学習材の特性について分析することを通して，学習材を俯瞰し，デザインする力量を培う。	
		子どもと学習材デザイン発展研究ｂ	子ども（児童および生徒）に関連した教育内容のうち，ものづくり教育の学習材やプログラミング教育の学習材にかかわる課題を，児童・生徒の理解や教育実践事例を基にした議論を通じて選定し，課題発見・解決に向けた学習材の開発研究を実践する。具体的には，課題選定，文献調査，課題の分析，研究計画の策定，実験法，学習材開発，および成果発表の順で進める。また，人間性や社会性を育む ICT を活用したロボット教材の例により，学習材の開発研究の実践的な知識と技能を身につける。	
		ＳＴＥＭと学習材デザイン基礎研究（理科） a	次世代の社会・生活の知的基盤となる STEM（Science, Technology, Engineering, and Mathematics）リテラシーの育成を目指した教育をテーマとし，STEM 学習の特徴を効果的に活用した STEM 学習材デザインの理論と方法について学ぶ。本授業では，理科（化学分野）の学習と関連付けた STEM 学習材デザインについて，国内外での種々の教育実践事例の分析・評価を通じて，基本理念，素材と内容の特徴，および学習展開の論理を明らかにする。	
		ＳＴＥＭと学習材デザイン基礎研究（理科） b	次世代の社会・生活の知的基盤となる STEM（Science, Technology, Engineering, and Mathematics）リテラシーの育成を目指した教育をテーマとし，STEM 学習の特徴を効果的に活用した STEM 学習材デザインの理論と方法について学ぶ。本授業では，理科（物理分野）の学習と関連付けた STEM 学習材デザインについて，国内外での種々の教育実践事例の分析・評価を通じて，基本理念，素材と内容の特徴，および学習展開の論理を明らかにする。	
		ＳＴＥＭと学習材デザイン基礎研究（数学）	STEM 教育は，近年，国内外において注目を集め，学習指導要領解説にも登場するに至っている。この授業では，STEM 教育の基盤をなす数学分野の学習と関連付けた STEM 学習材デザインについて，国内外での種々の教育実践事例の検討を行いながら，次の３つの観点に焦点を当てる。 ・STEM 教育の歴史的経緯を知る。 ・STEM 学習に関する基礎的理解を基盤として，実際の STEM 学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。 ・開発した STEM 学習材を分析・評価し，学習材デザインの実践的能力の育成を図る。	
		ＳＴＥＭと学習材デザイ	STEM 教育に関する諸外国の事例を考察するとともに，STEM 教育に関して科	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	ン基礎研究（情報）	学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から専門的内容を学ぶ。また，STEM 教育を推進するために必要となる情報通信技術の活用に関する内容についても学習する。その上で，STEM 教育の実践を想定した基礎的な学習材の開発を行う。この段階においても科学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から検討を進めるとともに，情報通信技術を活用することを通して授業実践に必要な基礎的能力を育成する。	
		ＳＴＥＭと学習材デザイン発展研究（理科） a	STEM（Science, Technology, Engineering, and Mathematics）学習に関する基礎的理解を基盤として，実際の STEM 学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。開発した STEM 学習材を分析・評価し，学習材デザインの実践的能力の育成を図る。本授業では，理科（化学分野）の学習と関連付けた STEM 学習材の開発にワークショップ形式で取り組み，学習材開発の実際について学ぶ。また，開発した STEM 学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動を通じて，STEM 学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		ＳＴＥＭと学習材デザイン発展研究（理科） b	STEM（Science, Technology, Engineering, and Mathematics）学習に関する基礎的理解を基盤として，実際の STEM 学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。開発した STEM 学習材を分析・評価し，学習材デザインの実践的能力の育成を図る。本授業では，理科（物理分野）の学習と関連付けた STEM 学習材の開発にワークショップ形式で取り組み，学習材開発の実際について学ぶ。また，開発した STEM 学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動を通じて，STEM 学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		ＳＴＥＭと学習材デザイン発展研究（情報）	STEM 教育に関する諸外国の事例を考察するとともに，STEM 教育に関して科学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から専門的内容の学習を深める。また，STEM 教育を推進するために必要となる情報通信技術の活用に関する内容についても学習を深める。その上で，STEM 教育の実践を想定した発展的な学習材の開発を行う。この段階においても科学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から検討を進めるとともに，情報通信技術を活用することを通して授業実践に必要な発展的能力を育成する。	
		環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) a	地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題である「自然環境の保全」,「持続的な地球資源の利用」,「自然災害の予測と対処」等についての具体的な事例を基に考察し，課題の解決に向けて科学的に探究できる能力の育成を図る。特に，地域，多様性，時間軸，循環をキーワードとして，自然の恩恵やリスクに関する文献調査，フィールドワーク，および室内実験等を通して，科学的な探究に必要不可欠な情報を収集・解析し，それを基に探究的な学習材をデザインするための基本的な知識・技能や論理を明らかにする。	
		環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) b	地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題である「自然環境の保全」，「持続的な地球資源の利用」，「自然災害の予測と対処」等についての具体的な事例を基に考察し，課題の解決に向けて科学的に探究できる能力の育成を図る。特に，地域の生態系や生物多様性に関する内容を中心に，環境や人間社会とかかわりについて概説し，文献調査，フィールドワーク，および室内実験等を通して，科学的な探究に必要不可欠な情報を収集・解析し，それを基に探究的な学習材をデザインするための基本的な知識・技能や論理を明らかにする。	
		環境・社会と学習材デザイン基礎研究（技術・工業）	ものづくり教育における指導の基盤となる，構想・設計・製作と環境・社会の関係性に関する専門的内容を習得する。また，ものづくりの指導における現状を論理的に認識し，環境的・社会的な課題の解決を目指した学習材をデザインするための視点を養う。具体的には，中学校技術・家庭（技術分野）あるいは高等学校工業におけるものづくりの学習内容を取り上げ，１．ものづくり教育の特色，２．背景となる材料・構造・機能と環境・社会に関する専門的内容，および３．環境的・社会的側面を取り入れたものづくり学習材のデザイン，について発表とディスカッション，学習材の製作を行う。	
		環境・社会と学習材デザイン基礎研究（社会・地理歴史）	本授業では，自然環境と人間社会の関係の変容とその要因・背景について，近年発生した身近な自然災害や，農村や山間地の農林業などの具体的な事例を基に考察し，探求的な学習材をデザインするための基本的な論理を明らかにする。授業においては，インターネットを通して得られる新旧地図，空中写真，統計資料，GIS などの各種資料の効果的な活用方法，フィールドワークの技法についても併せて修得し，学習材に取り込む手法を検討する。	
		環境・社会と学習材デザイン基礎研究（家庭）	地球環境，地域環境と人間社会のかかわりの中で，人間生活が環境に及ぼす影響，自然環境の生活への恩恵，持続可能な循環型社会，自然災害と防災など，環境と社会と生活を繋げる視点を養い，理解を深める。先行研究をもとに，関連す	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		る専門的知識を学び，研究方法と成果について考察，討議を行う。また，地域環境と生活に関するフィールドワークを通して，環境と社会と生活の関連の中での課題を発見し，主として都市や住宅に関わる住生活領域の学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科) a	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究（理科）a」で習得した知識や技能に基づいて，地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題の解決に向けて，実際の教育現場で活用可能な学習材をデザインする能力の育成を図る。特に，地域，多様性，時間軸，循環をキーワードとして，「土地の成り立ちや構成物」を題材とした学習材について具体的な課題を設定し，その課題について文献調査，フィールドワーク，室内実験等の手法により情報の収集・解析を行う。さらに模擬的な試行，評価・分析を通じてより実用的な学習材をデザインする能力を育成する。	
		環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科) b	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究（理科）a」で習得した知識や技能に基づいて，地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題の解決に向けて，実際の教育現場で活用可能な学習材をデザインする能力の育成を図る。特に，地域の環境の中から主として生態系や生物多様性を題材とした学習材について具体的な課題を設定し，その課題について文献調査，フィールドワーク，室内実験等の手法により情報の収集・解析を行う。さらに，模擬的な試行，評価・分析を通じてより実用的な学習材をデザインする能力を育成する。	
		環境・社会と学習材デザイン発展研究（技術・工業）	環境・社会に配慮したものづくり教育に適した学習材をエビデンスに基づいてデザインできる実践力を養う。また，環境的・社会的な課題の解決を目指した授業をデザインするための視点を養う。具体的には，中学校技術・家庭（技術分野）および高等学校工業におけるものづくりの構想・設計・製作・評価・改良・応用に関する学習場面を取り上げ，１．ものづくり教育の学習材の現状と課題，２．ものづくり教育における学習材の実践・評価方法，および３．環境・社会に配慮したものづくり教育の学習材のデザイン，について学習材の構想・設計・製作，授業の立案，発表とディスカッションを行う。	
		環境・社会と学習材デザイン発展研究（社会・地理歴史）	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究」で修得した研究視角及び知識をふまえて，自然環境と人間社会の多面的な関係の変容に関する具体的な事例を選定し，インターネットを通して得られる地図，統計，GIS などの各種資料とフィールドワークで得られたデータを用いて，その要因・背景を実践的に考察する。これに基づいて模擬授業やプレゼンテーションを行い，授業内での議論をふまえて，より効果的かつ実用的な学習材の開発を検討する。	
		環境・社会と学習材デザイン発展研究（家庭）	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究」で修得した知識や技能を基に，地球環境，地域環境と人間社会のかかわりの中で，主に住生活領域の学習材の開発を試みる。「地域や都市の安全」「快適な住生活環境」「住まいの安全」をメインテーマとして，履修学生の興味，関心を踏まえながら，情報収集・整理を行う。その中から課題を検討し，学習材開発，発表・討議，改善を行う。このような活動を通じて学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		科学・文化と学習材デザイン基礎研究（理科） a	科学と人間社会・文化との関わりを自然科学の観点から捉え，文化の知的基盤の一つである自然科学について，特に生物学を中心とした専門性を身につけるとともに，生物学の知見を共有する他領域との関連性を概観し，科学や文化を背景とした学習材デザインの理論と方法を修得する。授業では，自然科学（生物学）の内容について，生物や生物を取り巻く環境を題材として扱うとともに，理科の学習における今日的な課題を取り上げ，自然科学と文化および学習材との関連について学ぶ。また，種々の学習材の分析・評価を通じて，理科（生物分野）における学習材の特性と学習展開の論理を明らかにする。	
		科学・文化と学習材デザイン基礎研究（数学） a	解析学の一大分野である偏微分方程式論（特に，双曲型偏微分方程式）の基礎的・典型的内容についてセミナー形式で学習をし，更に関連する数理物理にその起源を持ついくつかの具体的な偏微分方程式についての基礎的・先端的な論文を適宜読んで，新たなる問題の発掘を行い定式化しそのオリジナルな問題の解決を図る。同時に偏微分方程式論を展開し学ぶ上で特に重要な基礎的概念である，いわゆる超関数論に基礎を置く「Sobolev 空間論」，「Fourier 積分論」，「実関数論」及び「関数解析学」についても適宜復習及び習得しながらセミナー形式で学び，偏微分方程式論に関する専門的知識の獲得とその充実も図る。	
		科学・文化と学習材デザイン基礎研究（数学） b	解析学について興味を持つ受講者を対象に， 解析学に関する基礎的な理論的研究成果の分析及び中・高等学校の教科書の分析をしたり，数学の学習における様々な今日的な諸課題を取り扱い検討したりして，数学的な知識だけでなく，数学的概念や思考，論理等の数学的探究の本質や原理について論究する。さらに，その	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		ような学習材に関する基礎的な学びを通して，解析教育における数理認識形成に効果的で適切な学習材デザインについて考察する。	
		科学・文化と学習材デザイン基礎研究（技術・工業）	現代社会に広がる科学技術は生活文化にも大きな影響を与えている。この観点に立脚しながら，小学校から高等学校までの技術・工業系の教科に関する「ものづくり学習材」や「エネルギ変換学習材」の構築に必要な基礎的な知識と技法について学ぶ。技術者倫理学，金属材料学および加工学，エネルギ変換学を中心として，（１）現代の科学・文化の文脈における各学問の関わり，および（２）課題を正確に理解するために必須の専門的内容を学んだ後，（３）ものづくり学習材を通しての課題解決に関する基礎的な内容を例示し，ＰＢＬやＡＬといった手法を用いながら議論し，最終的に各自課題解決策に関するプレゼンテーションを行う。	
		科学・文化と学習材デザイン基礎研究（社会・公民）	時代とともに変動しながらも公式・非公式の制度や伝統として維持されている「文化」の科学的探究をテーマに，主に法律学の分野における社会科学的な調査研究例を紹介し，それらの生徒・学生・一般市民への教授可能性と，学習材として最新の科学的知識を導入する社会的影響とを検討することにより，高度な教材研究を行う基礎的な能力の獲得をめざす。	
		科学・文化と学習材デザイン基礎研究（家庭）	自然科学と人間社会や文化の関係を，自然科学の観点から，また，文化的観点から捉え，次世代の教育を実践できる教育者を養成するための基盤となる専門的知識の広範な視野を養い，家政学の学問領域を背景とした学習材のデザインについて，教育課程と照らして理論的・実践的に研究する視点や方法を学ぶ。衣生活学とその背景となる家政学の専門的内容から，自然科学と文化および学習材との関連について解説する。これらの活動を通じて学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		科学・文化と学習材デザイン基礎研究（美術）	科学・文化に関する知的基盤を背景に，美術（工芸領域）と関連付けられた学習材の開発に実践形式で取り組み，学習材開発の実際について学ぶ。具体的には，（１）美術（工芸）を日本の伝統文化と関連付けて調査する，（２）美術（工芸）を材料科学の観点からの考察する，および（３）作品制作学について実践的に検証する。これによって文化的観点および科学的側面からの発想を自己の作品制作の中に表現できる能力を培い，学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		科学・文化と学習材デザイン発展研究（理科） a	科学・文化の発展に寄与する自然科学（生物学）に関する基礎的な理解を基盤として，理科（生物分野）における学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。また，開発した学習材を分析・評価し，学習材デザインの理論的・実践的能力の育成を図る。授業では，科学・文化に関する知的基盤を背景に，理科（生物分野）と関連付けられた学習材の開発にワークショップ形式で取り組み，学習材開発の実際について学ぶ。さらに，開発した学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動や，学習材のデザインを自然科学の専門的観点および文化的側面から論理的に考察する活動を通じて，学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		科学・文化と学習材デザイン発展研究（技術・工業）	現代社会に広がる科学技術は生活文化にも大きな影響を与えている。この観点に立脚しながら，小学校から高等学校までの技術・工業系の教科に関する「ものづくり学習材」や「エネルギ変換学習材」の構築に必要な応用的な知識と技法について学ぶ。「科学・文化と学取材デザイン基礎研究」において得られた知見をもとに，課題を解決するためのものづくり学習材の製作を行う。主体的で深い学びを触発するためにＰＢＬやＡＬといった手法を用いながら，ものづくりのＰＤＣＡ「企画・構想（Plan）」,「設計・加工（Do）」,「評価（Check）」,「実践（Action）」の一連の流れを経験し，課題の解決策を提供する。これにより，中学校技術科や高等学校工業科の教育の実践的研究者として，技術系教育の改善に向けたな取り組みに参画する応用力のある能力を育む。	
		科学・文化と学習材デザイン発展研究（社会・公民）	基礎研究で参照し検討した「文化の科学的探究」に関する知見をさらに発展させて，受講者は主に法律学の分野における制度や文化の社会科学的調査研究例を読解し報告したうえ，さらに，それらの学習材としての活用可能性や，さらなる調査研究の具体的な設計を受講者間で討論することにより，基礎法学の高度な知識と教材開発能力の獲得をめざす。	
		科学・文化と学習材デザイン発展研究（家庭）	「科学・文化と学習材デザイン基礎研究」で習得した知識や技能に基づいて，自然科学などの文化の発展に寄与する学問領域の成果を次世代へ継承する学習材をデザインし，理論的・実践的に研究する能力の育成を図る。衣生活学および家政学を基盤とした学習材の開発を探究的に扱い開発した学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動，さらにはその学習材のデザインを自然科学の専門的観点と文化的観点から論理的に考察する。このような活動を通じて学習材デザ	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		インの実践的能力を育成する。	
		科学・文化と学習材デザイン発展研究（美術）	基礎研究（美術）で得られた知見を基盤として，より理論的・実践的に研究する能力の育成を図る。具体的には，工芸制作学を中心として，（1）日本の伝統文化と関連付けてより発展的に調査する。（2）「素材（工芸材料科学を含む)」,「意匠」,「表現技法」の三つの造形要素について実践的に検証する（作品制作)。これらを通じて，地域や歴史を背景に，素材と技法によって多様な世界を発展させてきた工芸の特性を多角的に研究し，学習材デザインについて，文化的観点と科学的側面から考察する。	
		ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究（技術・工業）	この授業では，中学校技術および高等学校の工業における教科指導の基盤となる，技術内容学の専門的内容の基礎を学ぶ。また，技術・工業の教科指導における現状を論理的に認識し，その課題の解決を目指した技術・工業学習材の開発のための技術・工業内容学および技術・工業教育の視点を学ぶ。技術・工業内容学を中心として，（1）学習内容の特色，（2）背景となる技術・工業内容学の専門的内容，および（3）学習材の活用と開発について基礎的な観点から議論する。	
		ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究（情報）	この授業では，中学校および高等学校の情報における教科指導の基盤となる，情報内容学の専門的内容の基礎について習得する。また，情報の教科指導における現状を論理的に認識し，その課題の解決を目指した情報学習材の開発のための情報内容学および情報教育の視点を養う。情報内容学を中心として，（1）学習内容の特色，（2）背景となる情報内容学の専門的内容，および（3）学習材の活用と開発について基礎的な観点から議論する。	
		ものづくり教育と学習材デザイン発展研究（技術・工業）	この授業では，中学校技術および高等学校の工業における教科指導の基盤となる，技術内容学の専門的内容を発展的に学ぶ。また，技術・工業の教科指導における現状を論理的に認識し，その課題の解決を目指した技術・工業学習材の開発のための技術・工業内容学および技術・工業教育の評価方法を学ぶ。技術・工業内容学を中心として，（1）学習内容の特色，（2）背景となる技術・工業内容学の専門的内容，および（3）学習材の活用と開発について発展的な観点から議論する。	
		ものづくり教育と学習材デザイン発展研究（情報）	この授業では，中学校および高等学校の情報における教科指導の基盤となる，情報内容学の専門的内容について発展的に習得する。また，情報の教科指導における現状を論理的に認識し，その課題の解決を目指した情報学習材の開発のための情報内容学および情報教育の評価方法を養う。情報内容学を中心として，（1）学習内容の特色，（2）背景となる情報内容学の専門的内容，および（3）学習材の活用と開発について発展的な観点から議論する。	
		社会・生活と学習材デザイン基礎研究（社会・公民）	この授業では，社会・生活の内容のうち主として現代倫理や応用倫理の視点から倫理教育内容，教材開発の基礎研究を行う。まず現代倫理学の基本問題と倫理学が直面する現代的かつ喫緊の課題（生命，環境，情報，福祉など社会・生活に関連する課題）をあらかじめ提起する。そして受講者がこのうちのいくつかを選択し研究報告をし，その後で討論を実施する。文献等の選定は受講者と相談してから決める。適宜映像資料も使う。	
		社会・生活と学習材デザイン基礎研究（家庭）	人の社会行動と生活行動を総合的に理解することによって，適切な学習材がデザインできるようにするために，生物としてのヒトの進化に関わるさまざまな事象を理解するところからはじめる。そこからさらに，衣食住や子育てに関連してヒトが人としてどのような位置づけを持っているかに関する理解を進めるとともに，それらに関わる先行研究を紐解き，その背景，研究手法，分析法および成果についても考察し， 討議を行う。それらを通じて学習材デザインの実践的能力を育成する。	
		社会・生活と学習材デザイン発展研究（社会・公民）	この授業では，「基礎研究」で修得した研究視角および知識をふまえた発展研究として，主として現代倫理や応用倫理の主要課題を題材として，倫理教育内容，教材開発の研究を深める。さらに，倫理に関する内外の基本資料の研究や討論等を通じて，市民性認識の応用力・活用力を高めるとともに，社会認識教育および倫理教育における高度な教材研究・教材開発能力の応用力・活用力の修得をめざす。現代社会について「自ら考える力」を養うことが受講者の目標である。	
		社会・生活と学習材デザイン発展研究（家庭）	「社会・生活と学習材デザイン基礎研究（家庭）」で培ったヒト理解に繋がる知識に基礎を置きながら，人の社会と生活をさらに発展的により深く理解することを目的として，生活経営学，家族関係学，人間発達科学の諸領域に関連する研究課題を取り上げ，それらに関する学術書や文献（英語の文献を原則とする）を講読し，それらに関わる発表，討議を行うとともに，これらの分野に関してどのように学習材をデザインしていくかを論議する。	
		創造性と学習材デザイン基礎研究（社会・公民）	数学から歴史・思想まで守備範囲が広い「経済学」を軸に，数式・実態・史資料から社会経済像を創造し，それらを学習材に仕上げられるような基礎分析力を	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		身に付けることが到達目標である。経済学を中心として，（1）学習内容の特色，（2）背景となる経済学の専門的内容，および（3）教材活用と教材開発について講義と議論をしていく。	
		創造性と学習材デザイン基礎研究（家庭）	食生活の現状を踏まえ，次世代の革新的で先導的な教育を実現するための基礎的資質・能力を育成するために，特に調理科学，食文化，食行動を中心とした人間と食生活との関係について理解を深めていく。人間と食生活との関係に関する近年の研究動向の概説を基に討議，発表を行う。調理科学を中心とした食生活領域に関する基礎研究方法を習得した上で，次世代の食生活支援のあり方，新たな料理の創造など，課題を追究し，デザインする能力を養う。	
		創造性と学習材デザイン基礎研究（音楽）	次世代の革新的で先導的な教育を実現するための資質・能力を育成するにあたり，本講義では現代の新しい音楽創作のスタイルや方法について理解を深める。具体的には，20 世紀以降の代表的な作曲技法・コンセプト・作品について言及する。授業では，多彩な視聴覚資料や楽譜資料を参照することはもちろんのこと，場合によっては部分的な試演を行うことにより，机上の理論のみにとどまらない，より深い体験に基づいた理解を促す。なお，講義後に課すレポートによって評価が行われる。	
		創造性と学習材デザイン基礎研究（美術）	21 世紀型スキルの中核的要素である，創造性を育む学習材の開発と活用に向けて，中学校美術科および高等学校美術科の教科指導の基盤となる，美術科の中においても特にデザインの領域における専門的内容を習得する。 現代のデザインに求められている，さまざまな新しい技術や表現手段，ツールについて，国内外の事例について自ら調査・研究し，その成果にもとづいてデザインの企画・制作を実際に行うことを通して，創造性を養い，その知識と技術について実践的に学ぶ。	
		創造性と学習材デザイン発展研究（社会・公民）	「基礎研究」の講義内容を踏まえて，数学から歴史・思想まで守備範囲が広い「経済学」を軸に，数式・実態・史資料から社会経済像を創造し，それらを学習材として生かしていくために，履修者がテーマごとに報告し，その上で，参加者全員で，議論し，よりよい創造性に基づいた学習材の作成と実践能力を身に付けることを到達目標とする。経済学を中心として，（1）学習内容の特色，（2）背景となる経済学の専門的内容，および（3）教材活用と教材開発について，基礎論で講義した内容を踏まえて，参加者に報告してもらい，その上で，皆で議論していく。	
		創造性と学習材デザイン発展研究（家庭）	創造性と学習材デザイン基礎研究を踏まえ，次世代の革新的で先導的な教育を応用展開していく資質・能力を育成する。特に調理科学，食文化，食行動に関わる研究を中心に人間と食生活との新たな方向性について，実験研究，フィールドワークなど実践活動に焦点を当て，追究する。履修学生の興味，関心を踏まえながら，学外関係者（料理人，現場教員，食文化精通者など）との連携なども視野に入れ，創造性に富んだ視点や方法および実践技能を養う。	
		創造性と学習材デザイン発展研究（音楽）	様々な時代やジャンルにおける音楽創作の方法を用いて実際に作曲し，その特性について理解しつつ，教育現場における学習材の開発・運用方法について検討する。なお，第 1 回から第 7 回においてソナタ作品，第 8 回から第 14 回において現代奏法を用いた作品を作曲し，第 15 回目で試演を行う。続いて第 16 回から第 22 回において対位法の基礎と応用について学び，第 23 回から第 29 回にかけては様々なコンセプトによる即興演奏について学ぶ。第 30 回は即興演奏の試演を行う。	
		創造性と学習材デザイン発展研究（美術）	21 世紀型スキルの中核的要素である，創造性を育む学習材の開発と活用に向けて，中学校美術科および高等学校美術科の教科指導の基盤となる，美術科の中においても特にデザインの領域における，高度に専門的な内容を習得する。 創造性と学習材デザイン基礎研究（美術）における学習をふまえて，自ら企画・立案したデザインを実現するために必要な条件について調査・研究し，その成果にもとづいてプロトタイプ制作を実際に行うことを通して，創造性を養い，デザインを実現するために必要な知識と技術を実践的に学ぶ。	
		言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究（国語）	言語と言語によるコミュニケーションについて，その体系性と多様性を分析・記述するための基礎的知識を確認し，その実践のための資料や方法について学ぶ。また，その知見を言語やコミュニケーションの教育・学習にどのように生かせるかを検討する。特にこの授業では近年開発が進んでいるコーパスを利用した言語研究をとりあげ，その特性や利用法を理解することに重きをおく。さらに，その研究による知見を言語の教育・学習と接続するための視点を明確にする。	
		言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン	この授業では，音声学・音韻論，文字論，形態論，統語論，意味論，語用論，談話分析，レトリック，文体論，文学理論，社会言語学を扱い，英語の構造と機	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	基礎研究（英語）	能，それらに基づいたコミュニケーションの形態についての知識を深める。これら英語学における基礎理論をベースとして，英語教育における現在の学習材の分析，これからの学習材の在り方について検討する。具体的には，実際の中・高等学校の教科書や副教材などを分析し，さらに自分でも教材やワークシートの作成を行う。	
		言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究（音楽）	オペラ，オラトリオ，歌曲のテキストと音楽の関係に着目し演奏解釈を行うとともに，その技法を習得し芸術性の高い演奏を追求する。詩のもつ形，響き，内容の美しさを踏まえ，再現芸術としての音楽をどのように表現するかを学習する。この授業では具体的な方法として，日本歌曲，ドイツリート，オラトリオ，イタリアオペラ，フランス歌曲を扱い，まず言語や時代による詩の形式の特徴を理解し，その上でそれぞれの音楽とテキストの関わりやその表現方法について学ぶ。	
		言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究（国語）	言語と言語によるコミュニケーションの体系性と多様性に関する基礎的知識を生かしながら，記述言語学や社会言語学，方言学の考え方や方法論を学ぶとともに，現代日本語の体系性と多様性についての分析・記述を行う。コーパスや言語地図といったさまざまな言語資料や，アンケート，インタビューなど人を対象にした調査法の特質を知り，研究目的に合わせて適切な方法が選べるようにする。また，そうした知見の国語教育への応用の可能性を検討する。前半は講義・文献講読，後半は受講生が調査課題を設定して発表とディスカッションを行う。	
		言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究（英語）	英語文学テクストを対象に，表現上の工夫・文化的歴史的背景・作者の意図・読者の反応等に関する理解を深める。また，英語コミュニケーション能力のいかなる部分が文学テクストによって効果的に向上するかについても研究する。さらには，文学テクストを英語教材に用いる際の留意点を，アダプテーションの在り方，発問の工夫，マルチメディアの活用，アクティブラーニングの実践等から考える。最終的には英語文学テクストに基づいた教材を作成する。	
		言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究（音楽）	「言語・コミュニケーションと学習材デザイン基礎研究」の発展として，より高度な楽曲を教材とし，コミュニケーションとしての音楽表現を踏まえながら，人間にとって音楽とは何かを追求する。具体的な方法として，すでに学んだテキストと音楽との関わりやその表現方法をもとに，日本歌曲，ドイツリート，オラトリオ，イタリア歌曲，イタリアオペラ，ドイツオペラ，フランスオペラの作品の一部を実際に演奏することでその芸術性を追求する。	
		地域・歴史と学習材デザイン基礎研究（社会・地理歴史）	都市地域や農村地域などで生じている地域的諸課題や地域変化，あるいは世界各国で深刻化している地球的課題などの地理的事象に関して，地理学とその隣接領域の研究成果から学びながら，専門性の高い研究課題の設定，検討課題の整理，資料の収集法，GIS などを用いた統計分析，関連論文の輪講，研究動向の把握を踏まえて，人文地理学や地理教育（特に持続可能な開発に関する教育：ESD）に関する専門領域研究と教材開発研究の遂行に必要な基礎的知識及び技能を習得する。	
		地域・歴史と学習材デザイン基礎研究（国語）	新学習指導要領の高等学校国語科で必修科目となった「言語文化」は，日本語を，日本の歴史の中で創造され，上代から近現代まで継承されてきたものであることを明記した。本授業は，その日本語が，同一時代・同一地域において，どの時代においても多様性をもって存続してきたことを，各時代の具体的な文献に記された言語を詳しく見ることを通して実体験することを目的とする。具体的には，訓点資料の古写本を読む中で，過去の日本語における多様性を理解することで，地域による言語の多様性にも視野を広げ，学習材の基礎的研究に活かす。	
		地域・歴史と学習材デザイン発展研究（社会・地理歴史）	都市地域や農村地域などで生じている地域的諸課題や地域変化，あるいは世界各国で深刻化している地球的課題などの地理的事象および海外の特色ある中等教育の地理教科書に関して，地理学および地理教育とその隣接領域の研究成果から学びながら，専門性の高い研究課題の設定，地理情報システム（GIS）などを用いた統計分析と地図化，研究成果とその教材開発について発表や討論などを通して，専門領域研究・教科書研究と教材開発研究を相互に関連させて発表しながら学び合う。	
		地域・歴史と学習材デザイン発展研究（国語）	新学習指導要領の高等学校国語科で必修科目となった「言語文化」は，日本語を，日本の歴史の中で創造され，上代から近現代まで継承されてきたものであることを明記した。本授業では，地域・歴史と学習材デザイン基礎研究（国語）で得られた知見を基礎に，訓点資料に記された古代の日本語について，研究テーマを主体的に設定して，日本語の多様性に配慮した研究を行うことで，過去の日本語における多様性を体験・理解し，地域の相違による言語の多様性にも視野を広げ，必修科目「言語文化」の学習材を開発するための発展的研究に繋げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	表象・文化と学習材デザイン基礎研究（国語）	人間が世界をイメージし，その行為を通じて表現された文化的事象である表象について，その形式や内容はもとより，生産，流通，受容の関係性について考えるための基礎的知識と態度を養う。さらに，その知見をさまざまな領域における学習課題につなげる視点を獲得する。具体的には，日本の近現代文学（近現代小説，近現代詩歌，ノンフィクション）を取り上げ，表象文化を理解する為の理論的かつ歴史的問題について，また，それらの国語科学習材としての可能性について検討する。授業は教員の講義を中心に進める。	
		表象・文化と学習材デザイン発展研究（国語）	人間が世界をイメージし，その行為を通じて表現された文化的事象である表象について，その形式や内容はもとより，生産，流通，受容の関係性について考えるための発展的知識と方法を養う。さらに，その知見をさまざまな領域における学習材の開発に活かす能力を育成する。具体的には日本の近現代文学（近現代小説，近現代詩歌，ノンフィクション）とその隣接領域（映像や絵画などの視覚文化，雑誌メディア）を取り上げ，国語科学習材の開発を念頭に置いた具体的な表象文化の分析と検討を行う。授業は，演習形式を採用する。	
		こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(保健体育) a	こころ・身体をテーマとした５段階の思考方法「Emphasize（共感）」「Define（定義）」「Ideate（創造）」「Prototype（試作）」「Test（検証）」を身につける。共感は，意見の共有により，感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は，焦点の絞り込みをおこなうことで，正しく問題設定をして，解決策を生み出すことである。創造は，コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ，試作は，最終的な解決策に近づく質問に答えるために，繰り返し実践する事である。検証は，学習者からのフィードバックをもとに，自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的実践に対し，スポーツ学及び身体学の観点から，アプローチを行う。	
		こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(保健体育) b	こころ・身体をテーマとした５段階の思考方法「Emphasize（共感）」「Define（定義）」「Ideate（創造）」「Prototype（試作）」「Test（検証）」を身につける。共感は，意見の共有により，感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は，焦点の絞り込みをおこなうことで，正しく問題設定をして，解決策を生み出すことである。創造は，コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ，試作は，最終的な解決策に近づく質問に答えるために，繰り返し実践する事である。検証は，学習者からのフィードバックをもとに，自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的実践に対し，スポーツ方法学（コーチング）の観点から，アプローチを行う。	
		こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(美術)	美術作品を生み出すさまざまな要素について，“こころ”と“身体”に関わる内容を基に，その関係性を理論的に考察していく。特に絵画作品に関する作者自身のコンセプト（制作意図）や制作プロセス（創造過程），社会的背景（歴史，風土等），表現行為，表現技法（西洋，東洋，現代），表現素材，および鑑賞者の立場や造形芸術教育の視点を含めて，多角的に考察を行っていく。具体的には関連する映像や研究論文等の文献の講読を基に検証することで，基礎的な研究を行っていく。	
		こころ・身体と学習材デザイン発展研究(保健体育) a	こころ・身体をテーマとした５段階の思考方法「Emphasize（共感）」「Define（定義）」「Ideate（創造）」「Prototype（試作）」「Test（検証）」の課題解決方法を身につける。共感は，意見の共有により，感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は，焦点の絞り込みをおこなうことで，正しく問題設定をして，解決策を生み出すことである。創造は，コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ，試作は，最終的な解決策に近づく質問に答えるために，繰り返し実践する事である。検証は，学習者からのフィードバックをもとに，自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的実践に対し，スポーツ学及び身体学の観点からアプローチを行う。	
		こころ・身体と学習材デザイン発展研究(保健体育) b	こころ・身体をテーマとした５段階の思考方法「Emphasize（共感）」「Define（定義）」「Ideate（創造）」「Prototype（試作）」「Test（検証）」の課題解決方法を身につける。共感は，意見の共有により，感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は，焦点の絞り込みをおこなうことで，正しく問題設定をして，解決策を生み出すことである。創造は，コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ，試作は，最終的な解決策に近づく質問に答えるために，繰り返し実践する事である。検証は，学習者からのフィードバックをもとに，自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的実践に対し，スポーツ方法学（コーチング）の観点から，アプローチを行う。	
		こころ・身体と学習材デ	美術における“こころ”と“身体”の関係性を，作品を通して制作者と鑑賞者との双	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム	ザイン発展研究(美術)	方向の立場から実践的に検証していく。特に絵画に関する内容を中心に，作品を構成する造形要素や表現技法，表現行為，表現素材等に着目すると共に，造形芸術教育の視点から理論的，実践的に発展させ考察していく。具体的には，絵画に関するさまざまな資料に関しての自身の考えや経験に基づくワークシートの作成と発表を行い，更にディスカッションも行うことで考察を深めていく。また併せて，絵画作品の制作を通して，実践的な研究も行う。	
		生活・科学と学習材デザイン基礎研究（理科） a	人類がこれまでに築き上げてきた知識基盤を背景に，人間生活と科学の関わりという観点から学習材をデザインし，生徒に確かな学力を育むための学習活動を構成できる教師教育者の基礎を形成させる。本授業では，人間生活と科学の関わりを，人間生活を支える物質の科学の側面から捉え，化学および物質科学に関する学問的背景を学びながら，生活の豊かさをもたらす自然や物質からの恩恵を科学技術との関連で深く理解する。このような理解をもとにして，理科・科学教育における学習材のデザインと開発および学習活動における活用に関する視点や方法論を論考する。	
		生活・科学と学習材デザイン基礎研究（理科） b	人類がこれまでに築き上げてきた知識基盤を背景に，人間生活と科学の関わりという観点から学習材をデザインし，生徒に確かな学力を育むための学習活動を構成できる教師教育者の基礎を形成させる。本授業では，人間生活と科学の関わりを人間生活の舞台としての自然と大地の側面から捉え，地学および地球科学に関する学問的背景を学びながら，自然環境および地表で起こるさまざまな事物・現象を大地の変化との関連で深く理解する。このような理解をもとにして，理科・科学教育における学習材のデザインと開発および学習活動における活用に関する視点や方法論を論考する。	
		生活・科学と学習材デザイン基礎研究（家庭）	人類がこれまでに築き上げてきた知識基盤を背景に，人間生活と科学の関わりという観点から学習材をデザインし，生徒に確かな学力を育むための学習活動を構成できる教師教育者の基礎を形成させる。特に本科目では，人間生活と科学の関わりを人間の食生活や健康維持の側面から捉え，食品学および栄養学に関する学問的背景を学びながら，ヒトの成長や健康と食生活との関わりを物質（食品成分・栄養素）と人間の生体機能（消化吸収・代謝・生理機能）の両面から深く理解する。このような理解をもとにして，家庭科教育における学習材のデザインと開発および学習活動における活用に関する視点や方法論を論考する。	
		生活・科学と学習材デザイン発展研究（理科） a	「生活・科学と学習材デザイン基礎研究」で培った知識や技能を基盤として，生活・科学とその関連分野における未来志向の学習活動や学習材をデザインできる教師教育者としての視点と技能をさらに発展させる。本授業では，人間生活を支える物質の探究を中心に，現代的諸問題とも関連させて当該分野の理解をさらに深めるとともに，生活との関わりを探究させる学習材および学習活動のデザインを取り扱う。最新の学習展開や学習材の活用に関する研究動向と研究手法を把握した後，受講生の専門性に合わせて選択された学習材に関して，素材となる物質や現象の探査，これら素材を学習材として構成するための必要とされる手法，および学習活動への展開を含めた活動を行う。このような活動を通じて，当該分野に関する情報収集力を高め，より高度で効果的な学習活動や学習材をデザインするための実践的能力を育成する。	
		生活・科学と学習材デザイン発展研究（理科） b	「生活・科学と学習材デザイン基礎研究」で培った知識や技能を基盤として，生活・科学とその関連分野における未来志向の学習活動や学習材をデザインできる教師教育者としての視点と技能をさらに発展させる。本授業では，人間生活の舞台としての自然と大地の探究を中心に，現代的諸問題とも関連させて当該分野の理解をさらに深めるとともに，生活との関わりを探究させる学習材および学習活動のデザインを取り扱う。最新の学習展開や学習材の活用に関する研究動向と研究手法を把握した後，受講生の専門性に合わせて選択された学習材に関して，素材となる物質や現象の探査，これら素材を学習材として構成するための必要とされる手法，および学習活動への展開を含めた活動を行う。このような活動を通じて，当該分野に関する情報収集力を高め，より高度で効果的な学習活動や学習材をデザインするための実践的能力を育成する。	
		生活・科学と学習材デザイン発展研究（家庭）	「生活・科学と学習材デザイン基礎研究」で培った知識や技能を基盤として，生活・科学とその関連分野における未来志向の学習活動や学習材をデザインできる教師教育者としての視点と技能をさらに発展させる。特に本科目では人間の食生活と健康維持との関わりを中心に，現代的諸問題とも関連させて当該分野の理解をさらに深めるとともに，生活との関わりを探究させる学習材および学習活動のデザインを取り扱う。最新の学習展開や学習材の活用に関する研究動向と研究	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		手法を把握した後，受講生の専門性に合わせて選択された学習材に関して，素材となる物質や現象の探査，これら素材を学習材として構成するための必要とされる手法，および学習活動への展開を含めた活動を行う。このような活動を通じて，当該分野に関する情報収集力を高め，より高度で効果的な学習活動や学習材をデザインするための実践的能力を育成する。	
		表現と学習材デザイン基礎研究（国語）	自己の内面や外界の事象をある媒体を通して他者に伝えようとするとき，時代や地域，集団の違いによって，どのような差異が生じるのかを考え，またそのような差異が生じる要因や仕組みについて，文字テキストの解釈と分析を通して考察する。 本授業では特に訓読現象及び漢文脈と和文脈の問題を軸として，漢詩文を媒介とする言語表現の特色とテキスト間の差異について考察し，その考察をもとに国語科における教材活用と教材開発について議論する。	
		表現と学習材デザイン基礎研究（音楽）	ヴァイオリン演奏の「表現」に求められる演奏者個人の感性や奏法そのもの，を理論的に学習する。具体的にはまず，これまでヴァイオリンの演奏法を確立した名教師たちの技術的な奏法について整理する。次に実際の楽曲を用い，演奏解釈について，先に学んだ演奏技法との裏付けをもとに，検証する。最終的には，人間の持つ心の内面や自然社会との融合における，ヴァイオリン演奏での「表現」について，論述ができるようなスキルを身につける。またこれらのスキルを，実際の指導において求められる知識と実践についても探る。	
		表現と学習材デザイン基礎研究（美術）	人間にとっての表現行為は，音楽・文学・美術・演劇等といった芸術からスポーツに至るまで広く適用できる概念であるが，本授業では特に彫刻・立体造形の視点から，この表現と学習材の関係性について理論的研究を行う。また，美術の教科指導における現状を論理的に認識し，その課題の解決を目指した美術教材の開発のための彫刻・立体造形教育および制作学の視点を養う。具体的には，作品制作のプロセスに関わるさまざまな表現様式，表現技法，表現素材，造形要素等についての講義と，それらに関わるテキスト批評，発表，ディスカッション等を通じて，彫刻・立体表現教育についての理解を深める。	
		表現と学習材デザイン発展研究（国語）	自己の内面や外界の事象をある媒体を通して他者に伝えようとするとき，特定の時代や地域，集団間にどのような規範意識が共有されているのかを調べ，それらの集団に共有される規範意識と個々のテキストの表現との関係について，文字テキストの解釈と分析を通して考察する。 本授業では，規範意識と表現に関する中国古典文学の近年の成果と課題を踏まえ，個々のテキストが時代や集団の規範意識をどのように受容（模倣と逸脱）しているのかを考察し，その考察をもとに国語科における教材活用と教材開発について議論する。	
		表現と学習材デザイン発展研究（音楽）	理論的な研究の発展として，演奏解釈についての実践的な検証を行う。具体的には「表現と学習材デザイン基礎研究（音楽）」での最終段階である，人間の持つ心の内面や自然社会との融合における，ヴァイオリン演奏での「表現」についての論述をさらに発展させ，ここではあらゆる時代と形態の作品の実演を通して，さまざまな技法や表現法について明らかにする。併せてその指導法や学習プロセスについても，さまざまなレヴェルにある学習者の立場に，常に立つことを想定しながら考察する。	
		表現と学習材デザイン発展研究（美術）	人間にとっての表現行為は，音楽・文学・美術・演劇等といった芸術からスポーツに至るまで広く適用できる概念であるが，本授業では特に彫刻・立体造形の視点から，「表現と学習材デザイン基礎研究」を踏まえた，より発展的・実践的な研究を行う。具体的には，美術の教科指導におけるより発展的な課題解決のために，それらに関わるテキストを通じて彫刻・立体造形の制作過程と原理について学ぶと共に，主題・造形・素材等の視点から表現活動（彫刻制作）を行い，表現と学習材デザインについての考察を深める。	
		教育支援者専門知デザイン基礎研究	生涯学習の観点から，主に学校教育における学習支援の機会や，教育行政機関，教育相談等の学習システムについて現地調査を行い，その役割と課題について理解を深め，これからの生涯学習社会を担う教育支援者に求められる専門知について学校ならびに教育行政の視点から構想する力を育てる。授業形式は，学生の発表と施設見学を主とし，訪問施設ごとに担当グループを編成して事前施設訪問を行い，その内容に基づき全体での事前学習・施設訪問・事後学習をそれぞれ実施する。	
		教育支援者専門知デザイン発展研究	生涯学習の観点から，社会教育，職業教育などの多様な学習支援の機会や矯正教育等の学習システムについて現地調査を行い，その役割と課題について理解を深め，これからの生涯学習社会を担う教育支援者に求められる専門知について学	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		校ならびに教育行政の視点から構想する力を育てる。授業形式は，学生の発表と施設見学を主とし，訪問施設ごとに担当グループを編成して事前施設訪問を行い，その内容に基づき全体での事前学習・施設訪問・事後学習をそれぞれ実施する。	
		教師の成長・キャリアデザイン基礎研究	教師教育に関する国内外の文献を講読し，教師教育や人材育成に関する基本概念や諸理論について理解を深める。さらに，教師教育者の視点から教師教育をめぐる今日的な諸課題を見出し，プレゼンテーション及びグループディスカッションを行い，教師教育や人材育成に関する基本概念や諸理論を適用した解決策を提案する。これらの学修を通じて，教師の成長モデルについて探究するとともに，受講者の教師としてのキャリアデザインを描くことを目指す。	
		教師の成長・キャリアデザイン発展研究	養成・採用・研修という教師の成長・キャリアデザインに着目し，発表やグループディスカッション等を通じて教師教育の新しい考え方を理解する。さらに，人材育成の理論として注目されるインストラクションデザインにもとづいて，演習を行う。具体的には，教員養成や教員研修に関する課題を分析し，教員養成プログラム・教員研修プログラムを開発・実施し，教師教育や人材育成に関する専門的な知識・技能を獲得するとともに，基礎的な教師の成長・キャリアデザインへの支援のあり方を探究する。	
		教職課程・現職研修カリキュラムデザイン基礎研究	本授業の目的は，教員志望者及び現職教員における専門性開発のその成長のための課題解決を支援する方法論について理論的に考察することである。とりわけ，ノールズ，コルブ，コルトハーヘン，ロックランらの諸言説を成人教育論（andragogy），専門性開発論（professional development）の視点から検討し，教師教育の方法論の体系化をはかる。さらに，これらの視点を手がかりにして教職課程や現職研修を観察し，教師教育者の特質や課題について実証的に究明する。	
		教職課程・現職研修カリキュラムデザイン発展研究	教員養成課程の「各教科の指導法」，校内研修の「授業研究」等を中心に，様々な教師教育の取組事例を収集するとともに，これらのカリキュラムを「基礎研究」で学んだ理論を活用して分析・評価し，再デザインする。また，カリキュラムデザイナーとして養成・研修の場にも参画し，カリキュラムの効果や意味を調査，分析する機会を得る。本成果は，大学教員や指導主事らと共同して，教職課程・実習の手引きや，研修ハンドブック等の作成に活かされる。	
		教師教育プラクティカム基礎研究	本授業の目的は，教員志望者及び現職教員における専門性開発のその成長のための課題解決を支援する概論や方法論について実践的に考察することである。とりわけ，ノールズ，コルブ，コルトハーヘン，ロックランらの諸言説を成人教育論（andragogy），専門性開発論（professional development）などの視点から検討し，教師教育の方法論の体系化と理論化をはかる。 さらに，これらの視点を手がかりにして教職課程や現職研修を観察し，教師教育者の特質や課題について実証的に究明していく。なお，事例的に教科教育学（例＞体育科教育学）の視点からも考察する。	
		教師教育プラクティカム発展研究	本授業の目的は，教員養成課程の「各教科の指導法」，校内研修の「授業研究」等の様々な取組事例を視察しながら資料を収集するとともに，分析・評価し，再デザインすることである。 もちろん，これらの目的を達成するために，「基礎研究」で修得した理論を活用して指導・助言の主体として指導と運営に参画し，教師教育者に求められる専門性について省察の機会を得る。したがって，プラクティカムの成果は，大学教員や学校の研究主任及び教育委員会の指導主事らといった教師教育者とともに，アクションリサーチ型の方法論（質的かつ量的）を手がかりとして論文化あるいは教師教育者ハンドブックの作成を試みる。	
		実習指導・授業研究デザイン基礎研究	これからの学校教育においては，「学び」を中心とした授業を計画し，実践する能力をもった教師が必要とされている。教科内容と指導法に関する知識・技能だけでなく，学習科学や生徒に関する知識を持ち，生徒の学びを見とりながら柔軟に授業を展開できる授業力量が現場の教師にはより強く求められるようになったと言える。では，教員養成の段階で，将来の英語教育の担い手が，新しい知識観・学習観に基づいて授業を計画・実施・評価する基礎的な能力を身に付けるための教育実習はどうあるべきであろうか。また，力量形成につなげるための授業研究をどのように実施するべきであろうか。本授業では，これらの問いに答えるための足掛かりとして，教育実習観察を実施して現状への理解を深め，観察者間の協議を通して授業研究の実施に関する課題の整理を行う。	
		実習指導・授業研究デザイン発展研究	教員養成の段階で，将来の英語教育の担い手が，新しい知識観・学習観に基づいて授業を計画・実施・評価する基礎的な能力を身に付けるための教育実習はどうあるべきであろうか。また，力量形成につなげるための授業研究をどのように	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		実施するべきであろうか。本授業では，「実習指導・授業研究デザイン基礎」の学修を通して見出した課題を解決し，授業改善や力量形成に資するものとなるよう，当事者意識，対話の活性化，実践意欲の向上と実践の改善をキーワードとした実習指導・授業研究のデザインを検討する。	
		特別支援教育学特論	特別支援教育の歴史，制度，理論と現状について知ると共に，特別支援学校，特別支援学級ならびに通級による指導の実際について知識を得ることを目的とする。特別支援教育の動向を歴史・社会的背景・理念・制度を分析・考察するとともに，視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱教育についての解説，現状と課題についての考察を行う。また，特別支援学校，特別支援学級と通級による指導における実践と関係する学習指導要領，教育課程に関して説明する。さらに，インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮や基礎的環境整備，通常教育における特別な教育的ニーズに対する対応の在り方についても解説する。	
		特別支援教育実践研究	特別支援学校等で行われている授業の参観（授業場面を収録したビデオの視聴も含む）や，研究科附属特別支援教育実践センターで行われている教育相談への参画等をとおして，障害のある幼児児童生徒や成人に対する教育的支援や保護者支援の実際について学ぶ。特別支援学校等で行われている授業を参観する場合は，事前指導において参観に臨む際の倫理的配慮や参観の視点等について整理するとともに，事後指導において参観をとおしての気づきや疑問等に関するディスカッションを行う。研究科附属特別支援教育実践センターで行われている教育相談に参加する場合は，事前・事後指導の受講に加え，ケース会議への参加や教材・教具の作成，指導プログラム案の作成等にも取り組む。	
		発達障害指導法特論	（概要）自閉症，ＬＤ，ＡＤＨＤ等の発達障害のある児童生徒の心理・生理・病理及び指導方法，授業を進める上での留意点等を紹介し，発達障害のある児童生徒の教育に携わるための基礎的知識を身につけることを本授業の到達目標とする。 （オムニバス方式／全 15 回） （20　若松　昭彦／8 回） 発達障害の概念と医学的，心理学的特徴 自閉症の定義と概念の変遷 自閉症の心理特性 構造化された指導と学習・生活支援 自閉症のコミュニケーション支援 社会的スキルの指導(2)コミック会話，ソーシャル・ストーリー 発達障害のある児童生徒が在籍する学級の人間関係形成 （129　村上　理絵／7 回） 高機能自閉症・アスペルガー症候群の児童生徒の特徴と授業での留意点 ＡＤＨＤの児童生徒の特徴と授業での留意点 ＬＤの児童生徒の特徴と授業での留意点 　発達障害のある児童生徒のアセスメント 発達障害のある児童生徒を持つ保護者への支援 　不適応行動への対応 社会的スキルの指導(1)ソーシャルスキル・トレーニング	オムニバス方式
		コミュニケーション障害指導法特論	言語・コミュニケーション障害分野における最新の臨床事情や研究動向について，国内外の文献購読を行うことにより，新たな知見や有効で信頼性の高いエビデンスを得ることを本講義の目的とする。なお，以下の３つの内容を本講義の柱とする。 １．言語・コミュニケーション障害分野における最新の臨床事情を，実践研究論文や実践報告を講読することにより把握する。また，研究論文や実践報告で述べられた臨床効果について，そのエビデンスのレベルを個人レベルでのレビューやシステマティックレビューを通して検討することとする。 ２．言語・コミュニケーション障害分野における最新の研究動向を，研究論文を講読することにより把握する。また，Critical Reading を行うことにより，研究論文で示されている研究仮説や研究課題，方法，分析，結果，考察，研究の限界点および今後の展望について，優れている点や問題点を検証する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		３．研究と臨床の接点について考察し，研究のための研究ではなく，研究プロセスおよび結果を臨床に生かし，社会に貢献する研究デザインのあり方について検討する。また，いかにして Evidence-Based Practice を言語障害教育分野に適応させ，より有効で，教育的ニーズに適った臨床方法を個々の児童・生徒に実践することができるか，という点についても検討する。	
		重複障害指導法特論	重複障害者，とりわけ重度の感覚障害や運動障害・知的障害を併せ持つ児童生徒への指導については，教育現場において大きな課題となっている。そこで，本講では，第一に医療的ケアを必要とする子ども達に教師としてどのようにかかわるか，安全にかつ教育効果を高める指導とは何かについて学習を行う。次に，重複障害教育の国際的動向について，国内外の論文を購読し，重複障害児・者の多様な教育的ニーズに応える実践的な指導法について学習を行う。以上の内容を中心に受講者間で協議を行い，重複障害者教育の現状と今後の課題について，考察を深めることとする。	
		視覚障害指導法特論	本授業では，視覚障害児の指導の基礎となる，視覚障害児の特性に応じた指導上の留意点や教材について講義し，視覚障害児の指導に関する基礎知識を身につけることを目標とする。具体的な内容は，１）学習指導要領における視覚障害児の指導の留意点，２）触覚の特性，３）弱視児の指導と拡大の方略，４）点字・漢字の読み書きの指導，５）各教科における教材と指導上の配慮（１）算数・数学，６）各教科における教材と指導上の配慮（２）社会，７）各教科における教材と指導上の配慮（３）理科，８）各教科における教材と指導上の配慮（４）体育，９）コンピューター等を使用した読み書きの指導，10）触覚教材を用いた指導の留意点，11）触覚教材の作成法，12）視覚障害児の自立活動，13）自立活動における歩行の指導，14）進路・キャリア教育，15）視覚障害児の指導法に関するまとめ，である。	
		視覚障害学演習	視覚障害のある幼児児童生徒の指導に関するテーマについて講義すると共に，指導法に関する文献購読の演習を行うことを通して，視覚障害のある幼児児童生徒の指導における指導法や教材について理解を深め，指導に活かす力を身につけることを目標とする。さらに，視覚障害のある幼児児童生徒に対する心理・生理及び病理に関するアセスメント法の原理と手続き・分析法を習得し，併せてアセスメント結果に基づく個別の指導計画立案のプロセスについて理解することも目標とする。 （オムニバス方式／全 15 回） （76　氏間　和仁／8 回） 第 1 回　オリエンテーション，教育的な視機能評価について 第 2 回　分離閾を用いた評価について 第 3 回　認識範囲の評価について 第 4 回　視知覚発達の評価について 第 5 回　読書評価の原理と方法について 第 6 回　読書評価の分析法について 第 7 回　アセスメントに基づいた支援計画の作成について 第 8 回　アセスメントに基づいた教育的な配慮について （124　森　まゆ／7 回） 第 9 回　教科の指導と教材（国語・算数・数学） 第 10 回　教科の指導と教材（理科・社会） 第 11 回　教科の指導と教材（体育） 第 12 回　自立活動の指導（点字） 第 13 回　自立活動の指導（歩行） 第 14 回　高等教育における視覚障害学生支援 第 15 回　進路・キャリア教育	オムニバス方式
		視覚障害心理学特論	視知覚に必要な光学・解剖・生理・病理の知識を概観した上で，見えにくさが発達や学習に与える影響と教育的な解決策について，心理学を基盤とした国内外の文献を通して学ぶ。なお，以下の３つの内容を本講義の柱とする。 １．弱視が文字等の知覚や読書等に及ぼす影響を測定する心理学を基盤とした方法について，研究論文を精読することにより，その考え方や，手続き，分析方法に関する知識を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		２．弱視教育における実践研究論文を精読することで，弱視が発達や学習に及ぼす影響や，指導上の配慮の効果の測定方法について心理学の視点から考察することで，その考え方や，手続き，分析方法に関する技能・知識を身につける。 ３．これらの知識を基盤として，基礎研究と教育実践研究の２つの側面から，弱視の幼児児童生徒に対して教育的ニーズに応じた教育方法の実践の可能性について心理学的視座のもと受講者間での発表や協議を交えて思考を深める。	
		聴覚障害指導法特論	聴覚障害のある幼児児童生徒を対象とした教育課程の編成や指導方法に関する従来の学術的知見や実践事例を整理するとともに，彼らやその保護者等が抱える学習上及び生活上の課題を改善・克服するための手立てについて理解を深めることを目標とする。親子関係の確立や種々のコミュニケーション手段の習得にむけた指導，聴覚管理と装用指導，書記言語指導，各教科等の指導，肯定的な障害認識を促すための指導，社会性の発達を促すための指導等について，国内外の研究論文や実践報告からの知見をふまえながら学習を進める。特定のテーマにもとづく先行研究等の収集，当該研究に係るレポートの作成とそのプレゼンテーション，学生間でのディスカッションをとおして，聴覚障害幼児児童生徒に対する教育的支援について考察する。	
		聴覚障害学演習	聴覚障害の疑似体験方法，聴覚障害幼児児童生徒の聴力や言語能力のアセスメント方法等について体験的に学習するとともに，各種アセスメントの利点や難点をふまえたうえで，その結果を聴覚障害幼児児童生徒の学習場面に活かす方法について，ディスカッション等をとおして考察する。また，特別支援学校（聴覚障害）等で行われている授業の参観等をとおして，聴覚障害のある幼児児童生徒に対する指導方法や保護者支援の実際について学習するとともに，聴覚障害のある幼児児童生徒を対象とした各教科等や自立活動の学習指導案や教材・教具等を試作する。	
		聴覚障害心理学特論	聴覚障害の心理，生理及び病理に関するこれまでの学術的知見を整理するとともに，聴覚障害幼児児童生徒が抱える学習上及び生活上の課題について理解を深めることを目標とする。聴覚障害の原因や特徴，聴覚管理や聴覚補償の方法，コミュニケーションや言語発達といった側面における課題等について，国内外の研究論文や実践報告からの知見をふまえながら学習を進める。特定のテーマにもとづく先行研究等の収集，当該研究に係るレポートの作成とそのプレゼンテーション，受講学生間でのディスカッションをとおして，聴覚障害幼児児童生徒に対する教育的支援について考察する。	
		知的障害指導法特論	知的障害のある児童生徒の授業に関して，実態把握，計画，授業の実施，評価という授業改善のＰＤＣＡサイクルについて理解するとともに，学校における組織的な授業研究の進め方を習得することを目標とする。知的障害のある児童生徒の心理的特徴と学習上の特性，授業分析の系譜，授業の一般的な特徴，個別の指導計画や年間指導計画の作成，単元計画の作成，学習指導案の作成，授業の評価と授業研究法の理論と実際について，実践的・理論的に検討し，考察する。	
		知的障害学演習	知的障害のある児童生徒の指導法に関する文献を読み，具体的な指導案や個別の教育支援計画，個別の指導計画等を模擬的に作成する。そして，作成上の留意点を明らかにすることを通して，受講生が将来の教育実践で，これらを活用できる力を育む。また，知的障害研究で用いられる主要な心理統計法，研究計画法等に関する文献講読を行とともに，質問紙式検査や個別式検査の解説・実習・検査結果の解釈，知的障害特別支援学級での話合い活動場面のビデオ視聴を通して，他者との関わりの中で育まれる資質・能力に関する協議を行う。これらの演習を通じて，受講者の教育実践力並びに研究能力の基礎を養うことを本授業の到達目標とする。	
		知的障害心理学特論	知的障害のある児童生徒の知覚，記憶，言語・概念発達，動機づけ等の心的機能の諸側面について論じ，知的障害教育に携わるための基礎的知識を身につけることを本授業の到達目標とする。さらに，受講生の興味・関心に基づいて，言語・非言語コミュニケーションや社会性，情緒発達，自己理解，運動発達，保護者やきょうだいの心理等，知的障害の心理学的特性に関わるテーマを採り上げ，関連文献の講読，質疑や協議を行うことで内容の理解を深める。また，文献講読に際しては，知的障害に関する心理学的研究で用いられる量的・質的な研究方法についての解説を行う。	
		肢体不自由指導法特論	本講では，肢体不自由者への身体介助や指導技法について，国際的にスタンダードになっている支援技法の理論的背景について学び，支援に関する基礎的知識とその応用について学習することを目指す。また，臨床動作法については，演習	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		を通して，体験的な学びを通して，指導技術を身に付けることを目標とする。最後に，肢体不自由を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だてについて，コミュニケーションエイドの活用法を中心に学習を行い，肢体不自由者の指導法について考察を深める。	
		肢体不自由心理学特論	肢体不自由者の心理発達の中でも，姿勢運動発達・姿勢反射反応の成熟・中枢神経系の成熟の三者関係について取り上げて，教育・指導法の基礎としての姿勢運動発達・成熟過程に関する知識を習得することを目標とする。また上記に関連して，国内外の研究知見を踏まえて，認知発達理論について学習し，「姿勢・運動の発達」と「認知発達」の関連性について考察を深めることとする。なお，姿勢反射反応の成熟・中枢神経系の成熟については，生理・病理的内容についても取り上げるものとする。	
		病弱教育特論	近年の病弱者教育では，小児期の慢性疾患（ぜんそくや腎臓疾患など）に加えて，心身症や適応障害等のある子ども達への対応が大きな課題となっている。その為，教科や自立活動等の指導を展開していく上では，教育・心理学的な実態把握や支援の手法を修得することが重要である。以上を踏まえて，本講義では，国内外の文献を通して，病弱者教育の実際に触れ，また，ロールプレイを用いたカウンセリングの演習などを通して児童生徒や保護者をサポートする力（実践力）の修得に向けて考察を深める。	
		病弱生理・病理特論	発生から分娩までの生理学を復習した上で，発生期，胎生期，周産期の障害について生理・病理学的アプローチで解説する。遺伝因子，胎児，母体，環境因子等に起因する感覚器や運動機能障害，脳・神経系の障害のメカニズムを学習し，日常遭遇する疾患を中心に説明をする。さらに，幼年期の情動に関する障害について病理学的知見を解説する。また，出生前診断，遺伝子治療やＥＳ細胞等について最近の知見を紹介し，病弱児における特別支援教育と医療的ケアの可能性を探る。	
		特別支援教育ファシリテーション論	特別支援教育コーディネーターとして，学校外の社会的な資源（関係機関やＮＰＯ等）と連携・協力を深め，学校組織内のシナジー効果を促し，特別支援教育に関する諸課題を創造的に解決していくための理論と実践的スキルを習得することを目標とする。学校と関係機関との連携・協力に関する現状と課題，学習する組織づくりとファシリテーション，ファシリテーションのスキル（場のデザインのスキル，コミュニケーションのスキル，構造化のスキル，ファシリテーショングラフィック，合意形成のスキル）について，理論的に学ぶとともに，ワークショップを企画・実施し，実践的に考察を深める。	
		学校心理学	学校心理学・教育学的な観点から，学校における諸問題への対応にかかわる基礎的な理論や技法，担うべき役割等について指導する。 具体的には，まず，学校・子どもを取り巻く環境と，子どもの心をめぐって学校の抱える問題について講義する（山内）。それを踏まえ学校心理学の観点からみた，学習や学級集団づくり，生徒指導や進路指導（キャリア教育含む）に関わる諸問題とそれにかかわる理論を紹介し，これらの諸問題への対応方法を講義する（児玉真樹子）。また，学校現場における地域連携や危機管理等の実際と課題について講義する（米沢　崇）。	
		学習支援論	本授業では，学校心理士に求められる，学習支援に関する理論と方法について理解を深めるとともに，児童生徒の学習を支援する実践的力量の向上を図る。具体的には，知識獲得，学習意欲（学習動機づけ），学習方略に関する理論に加えて，個別学習相談（認知カウンセリング），習得および探究の授業づくり，深い学びを促す教育評価など，実践的な支援方法を学ぶ。授業は，教員からの講義とそれを踏まえた受講生同士の議論から構成される。	
		学校臨床心理学	学校での児童生徒の心理的な問題に実際に対処できる知識を身につけることを目的とする。児童生徒が学校生活を適応的に過ごすことができるような心理学的な支援を考える際に求められる臨床心理学の知見について解説する。さらに,不登校,いじめ,非行といった児童生徒をめぐる諸問題に対して,臨床心理学の立場からどのような対応をしていくのかについて，心理療法や面接技法，適応への支援や医療機関等との連携などの実践例を紹介する。	
		心理教育的アセスメント演習	医療心理臨床，障害者心理臨床，学校心理臨床等における，心理査定の実際とアプローチについて学ぶ。学校・司法などの領域で広く用いられる知能検査法・発達検査法を中心にとりあげ，発達の芽・成長の芽を摘まないよう見出すアセスメントと，それを活かしていくためのアプローチ法を学ぶ。テストバッテリーの組み方や総合的理解のあり方について学ぶ。さらに，こうしたアセスメントを生	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム		かして，教員と心理職や福祉職などとの他職種協働によるチーム支援をどのように進めるかということについても検討する。	
		学校カウンセリング論演習	学校におけるカウンセリングは，病理モデルに基づく心理治療的アプローチではなく，成長モデルあるいは発達モデルに基づく教育支援的アプローチである。そのため，カウンセリングにおいては，児童生徒の抱える問題を成長過程における発達課題ととらえ，その課題を児童生徒が自ら解決していくプロセスを支援するとともに，問題解決能力自体を高めていくことが必要となる。そのための学校カウンセリングの方法論を理論的・実践的に習得する。また，学校カウンセリングの原理を通常の教育活動にどのように活用するかということについても検討する。	
		生涯キャリア形成支援論	生涯にわたるキャリア形成のためには，「生きる力」の育成が必要となる。本授業では，学校教育における生徒指導・キャリア教育および，生涯にわたってのキャリア形成支援にかかわる課題を取り上げる。具体的には子ども理解に関わる諸理論，子どもの問題行動の現状と対応，学級集団作りに関わる諸理論，キャリア発達に関わる諸理論とそれを踏まえたキャリア教育の在り方などを扱う。これらに対して，心理学的な視点からアプローチし，それらの実施に必要な基礎的知識と基礎的技法を習得することを目指す。	
		知識構成論	言語を介した知識の獲得やその使用に関して講義し，人の発達や学習についての理解を深める。まず，言語獲得に関する理論の変遷から発達への遺伝と環境の影響について考える。次に，幼児期以降の言語の発達の姿について説明する。その上で，言語を介したコミュニケーションといった社会性の発達，言葉と自己意識の発達との関連についても概説する。さらに，言語と認知・思考の発達，第二言語習得といったトピックについても扱う。また，より基礎的な認知のメカニズムとして，語や文，文章の理解と産出といった内容についても説明する。	
	教育学プログラム	教育哲学特講　I	教育の諸理論および教育の諸問題を哲学的に考察することを通して，教育現象に対する深い洞察力を養う。また，教育哲学研究の動向と方法論に触れることにより，教育の哲学的研究方法及び思考様式を理解する。さらに，教育哲学の諸成果を批判的に吟味し可能性を探る。具体的には，『教育哲学研究』や『近代教育フォーラム』に掲載された緒論を手がかりに，以上の活動を，講義および読書課題をめぐるクラス討議によって進める。読書課題に関する批判的小論を授業前に提出する。	
		教育哲学特講　II	教育の諸理論および教育の諸問題を哲学的に考察することを通して，教育現象に対する深い洞察力を養う。また，教育哲学研究の動向と方法論に触れることにより，教育の哲学的研究方法及び思考様式を理解する。とりわけ本授業では，「教育と他者性」をテーマに教育をめぐる具体的な諸言説を取り上げ，これらを構成する概念，論理構造，前提を解明する。以上の活動を，講義および読書課題をめぐるクラス討議によって進める。読書課題に関する批判的小論を授業前に提出する。	
		日本東洋教育史特講 I	日本では，古代に中国から漢字を受容して以来，文字の読み書きを重視し，文字によって文化を形成してきた。教育もまた，文字を通じて行われてきた。そこで，古代から近世にかけての教育機関で使用された，代表的なテキスト（漢籍・往来物など）を，原史料（漢文・くずし字）に即して解読していく。そのうえで，①誰が教育内容を決定したか，②どのように作成されたか，③どのように学習者の手に渡ったか，④学習者はどのように利用したか，などの諸点から検討する。最終的には，写本としてのテキストが教育をどのように規定したのか，出版物としてのテキストの普及が教育にどのような影響を与えたかといった，テキストと教育の関係性を考察する。受講生は，全授業内容を参考にして，「テキストからみる前近代教育の特徴」というテーマでレポートを作成する。本授業は，現代の教科書を見る際の相対的な視点を獲得することを目的とする。	
		日本東洋教育史特講 II	義務教育の教科書は，マスメディアと呼ぶにふさわしい公共性と形式を備えている（佐藤卓己 2005）。その形式（記述事項の選択・配列・表現方法など）には，教科書を発行・検定する国家や，教科書執筆者の思想が入り込む余地がある。そこで，初等教育機関の教科書の歴史について，1872 年の学制頒布以降，1947 年の検定制度発足に至るまでを，自由採択～統制開始期，検定教科書期，国定教科書期に分けて概説する。そのうえで，具体的に，各時期の歴史教科書中の遣唐使記述に着目して，その記述がどのように変化したか，その変化にはどのような歴史的背景や政治的理由があるか，といった点について考察する。受講生は，全授業内容を参考にして，広島大学教科書コレクション中の 10 冊以上を分析したうえで「メディアとしての教科書の役割」というテーマでレポートを作成する。本授	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学プログラム		業は，現代の教科書を批判的に検証する視点や方法を獲得することを目的とする。	
		西洋教育史特講 I	現在の日本における教育史研究の到達点と現在の教育に対する認識から検討すべき課題を理解し，それらの課題を研究するためのさまざまなアプローチについて国内の先行研究をもとに検討する。加えて，自分の言葉で現在の教育課題について意見を述べることができるようにする。授業は学生による発表と質疑応答，議論，解説という流れで構成する。学生は授業における発表，ディスカッション等での授業内で行う課題に加えて，最終的に現在の教育史研究の課題に関するレポートを授業終了後に提出する。	
		西洋教育史特講 II	本講義ではイギリスにおける教育史研究の動向を知り，国際的な関心を集めている教育課題についての知見を深めるとともに，それらの課題に対してどのようなアプローチがありうるかを国内外の先行研究をもとに考察する。加えて，自分の言葉で現在の教育課題について意見を述べることができるようにする。なお，本授業も学生による発表と質疑応答，議論，解説という流れで構成する。学生は授業における発表，ディスカッション等での授業内で行う課題に加えて，最終的に現在の教育史研究の課題に関するレポートを授業終了後に提出する。	
		教育社会学特講 I	教育社会学は確かな研究手法にもとづき，教育現象を社会学の理論や概念を用いて分析的・批判的に検討する領域である。本講義では，最新の研究成果にもとづき，教育社会学で用いられる理論や概念を理解し，それらを用いて実際の教育現象について議論が行えるようになることを目標とする。本講義で扱うのは，教育社会学の研究領域のうち，主にマクロな視点によるものである。具体的には社会階級と教育，学歴社会論，社会的・文化的再生産論などの領域である。これらの領域における最新の研究論文を用い，受講生の報告とそれをめぐる意義や課題などについての議論によって教育社会学の基礎について理解を深める。	
		教育社会学特講 II	教育社会学は確かな研究手法にもとづき，教育現象を社会学の理論や概念を用いて分析的・批判的に検討する領域である。本講義では，教育社会学 I の内容を引き継ぎながら，最新の研究成果にもとづき，教育社会学で用いられる理論や概念を理解し，それらを用いて実際の教育現象について議論が行えるようになることを目標とする。本講義で扱うのは，教育社会学の研究領域のうち，主にミクロな視点によるものである。具体的にはクラスルーム，教師，カリキュラム，いじめ・不登校といった教育問題などに関する社会学的な研究である。これらの領域における最新の研究論文を用い，受講生の報告とそれをめぐる意義や課題などについての議論によって教育社会学の基礎について理解を深める。	
		教育方法学特講 I	教育方法学研究における主要な問題領域を扱った文献の講読とその議論を通じて，教育方法学研究の対象と方法の特質を理解する。教育方法学研究は，学校研究，カリキュラム研究，授業研究，生活指導研究，教師教育研究など多岐に亘っている。本講義では，教育方法学研究の対象に焦点を当てて，学会及び実践の動向に関わる文献の読解を通じて，その特質と課題を理解する。講義では教育方法学研究の動向に関わる講義を中心としながら，読解した文献をもとにディスカッション等も行う。	
		教育方法学特講 II	教育方法学研究における主要な問題領域を扱った文献の講読とその議論を通じて，教育方法学研究の対象と方法の特質を理解する。教育方法学研究は，学校研究，カリキュラム研究，授業研究，生活指導研究，教師教育研究など多岐に亘っている。本講義では，教育方法学における研究方法論に焦点を当てて，学会及び実践の動向に関わる文献の読解を通じて，その特質と課題を理解する。講義では教育方法学研究の動向に関わる講義を中心としながら，読解した文献をもとにディスカッション等も行う。	
		社会教育学特講 I	本講義では，近現代日本において社会教育実践の範疇および根本理念を構想しようとした議論の歴史的展開についての理解を深めることを目的とする。具体的には，『社会教育基本文献資料集成』（大空社，1991～1994 年）や『日本現代教育基本文献叢書　社会・生涯教育文献集』（大空社，1999～2001 年）に収められた，主要な社会教育行政関係者，社会教育実践者の著した原典の講読とそれを基とした受講者の討論を通じて，「社会教育」という概念がどのような原理に立ち，またどのような教育活動を包含するものとして構想されていったかについての理解を深めていく。	
		社会教育学特講 II	本講義では，近現代日本における様々な社会教育実践の社会的背景について理解を深める。具体的には，近現代において社会運動的な広がりを伴った社会教育実践（自由大学運動，生活改善運動，共同学習運動，生活記録運動，など）を扱った歴史研究の講読とそれを基とした受講者の討論を通じて，それらの実践を支え	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学プログラム		ていた学習者がどのような属性的特徴を有していたか，また，それらの実践における学習内容・方法が，どのような社会的背景によって規定されていたか，についての理解を深めていく。	
		教育行財政学特講 I	教育行財政の基本原則および教育行財政学の根本問題，重要概念に関する理解を深めるとともに，教育行財政の現代的諸問題，重要な改革動向に関する主体的かつ協働的な検討を通して複眼的論理的に考察できるようにする。本特講で扱うテーマは，①教育と政治（教育委員会制度による教育統治），②教育における参加（学校運営協議会）である。授業では，これら教育行財政学における重要テーマに関する講義を踏まえ，各テーマに関して指定された学術論文を担当者が事前に要約し，論点を提示して討論を行う。	
		教育行財政学特講 II	教育行財政の基本原則および教育行財政学の根本問題，重要概念に関する理解を深めるとともに，教育行財政の現代的諸問題，重要な改革動向に関する主体的かつ協働的な検討を通して複眼的論理的に考察できるようにする。本特講で扱うテーマは，①教育と市場（学校選択制度），②教育の機会均等とマイノリティ（アメリカの言語マイノリティに対する平等な教育機会保障）である。授業では，これら教育行財政学における重要テーマに関する講義を踏まえ，各テーマに関して指定された学術論文を担当者が事前に要約し，論点を提示して討論を行う。	
		比較国際教育学特講 I	本授業では，比較国際教育学に関連する基本概念と諸課題を体系的に教授し，それらへの理解を深めるとともに，グローバルな視野から思考できる力量を育成する。具体的には，①国際的影響関係，②文化と教育，③アイデンティティ問題，④教育の平等性，について扱う。授業は，学生による関連領域をカバーする論文内容の発表と質疑応答，教員による解説，参加者全員による議論という流れで構成する。授業後，授業で扱ったテーマに関する最終レポートを提出する。	
		比較国際教育学特講 II	本授業では，比較国際教育学に関連する基本概念と諸課題を体系的に教授し，それらへの理解を深めるとともに，グローバルな視野から思考できる力量を育成する。具体的には，①ジェンダーと教育，②教育の統制と分権化，③成人教育と生涯学習，④政治と教育，について扱う。授業は，学生による関連領域をカバーする論文内容の発表と質疑応答，教員による解説，参加者全員による議論という流れで構成する。授業後，授業で扱ったテーマに関する最終レポートを提出する。	
		教育経営学特講 I	本授業では，教育経営学の理論・思想の展開と基本概念を体系的に教授し，学校（経営）をめぐる諸課題を教育経営的に思考できる力量を育成する。具体的には，成り行き管理から，効率性を追求する理論（科学的管理法），人間性を追求する理論（人間関係論），社会性を追求する理論（オープン・システム論など），創造と省察を追求する理論（学習する組織論など）への展開について，それぞれの経営観（組織観，人間観，目標—評価観，人材育成観など）を比較しながら考察する。	
		教育経営学特講 II	本授業では，教育経営学の理論・思想の展開と基本概念を体系的に教授し，学校の諸課題を教育経営的に思考できる力量を育成する。具体的には，近年の学校（経営）をめぐる諸課題（学校の主体性・自律性，校長の役割，スクールリーダー教育，教職大学院における「理論と実践の往還」，学校と地域の連携・協働など）をとりあげ，特講 I で学んだ教育経営の理論の展開およびその基本概念を踏まえながら，これからの教育経営（学校経営や学校組織や教職員の人材育成など）の在り方を考察する。	
		幼児教育学特講 I	本授業は，次のような具体的なトピックの検討を通して，国内外の幼児教育学をめぐる理論的・実践的動向や今後の展望・課題等について理解を深めることを目的とする。(1) 保育の質が子どもの発達やその後の人生に与える影響に関する欧米の先行研究の動向を精査する。(2) 国際的関心としての保育の質評価をめぐる動向や具体的な評価方法について理解する。(3) 幼児教育の国際比較を通して社会・文化的営みとしての保育実践について検討する。(4) 子育て支援をめぐる基本的事項や国内外の動向について理解する。	
		幼児教育学特講 II	本授業では，講義を通して受講生は（1）保育カリキュラムや保育方法など，国内外の幼児教育の動向に関する問題意識を持つ，(2) 子育て支援や手会教育についての基本的事項を理解するとともに，就学前教育の実態に関する問題意識を持つ，ということを最終目的とする。 授業は 1) 国内外の幼児教育の動向について，特に保育カリキュラム，保育方法，保育の質の評価，保育の専門性などの観点から検討する。また (2) 子育て支援について，わが国の実態や諸外国の課題などの基本的事項について概説する。また就学前教育に関わる様々な話題について広範囲に言及する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学プログラム	異文化間理解の社会理論と実践特講 I	異文化間理解と関わる社会事象に関する論説・社会理論について多角的に学ぶ。異文化間理解の問題は,異文化コミュニケーション・グローバル社会・多文化社会・フェミニズム理論等の社会理論,大学国際化や地域の国際化などの現実的課題とも密接に関連するとともに,今日の日常とも関わる問題となっている。異文化体験・カルチャーショックなどの現実的体験にも触れつつ, 文化本質主義に関する論争等も含め異文化間理解に関する理論について考察する。文化の構成要素,価値前提,自己概念,言語メッセージと非言語メッセージ,対人関係,組織と文化,適応と再適応など多面的に探る。国際的体験学習や協働学習の実践的事例も分析しつつ,異文化間理解に関する理論や知識構築の枠組みについて多角的に分析する力を養う。	
		異文化間理解の社会理論と実践特講 II	異文化間理解と関わる社会事象を分析する論説・社会理論について多角的かつ発展的に学ぶ。異文化間理解の問題は,異文化コミュニケーション・グローバル社会・多文化社会・フェミニズム理論等の社会理論,大学国際化や地域の国際化などの現実的課題とも密接に関連するとともに,今日の日常とも関わる問題となっている。異文化体験・カルチャーショックなどの現実的体験にも触れつつ, 文化本質主義に関する論争等も含め異文化間理解に関する理論について考察する。文化の構成要素,価値前提,自己概念,言語メッセージと非言語メッセージ,対人関係,組織と文化,適応と再適応など多面的に探る。国際的体験学習や協働学習の実践的事例も分析しつつ,異文化間理解に関する理論を生かしつつ実践の方策について検討する力を養う。	
		教育哲学演習　I	日本語で書かれた教育の諸理論および諸問題に関する論考を哲学的に精読して批判的論考にまとめるとともに，クラス内で議論することを通して，教育理論と教育現象に対する深い洞察力を養う。扱われる内容としては，教育人間学，精神科学的教育学，教育倫理学，近代教育批判，批判的思考などの理論研究から，不登校問題，特別支援教育，優生学，教育格差，国際協力などの具体的な諸問題までが取り上げられる。これらを教育哲学的に検討することにより，教育哲学への理解を深め，教育哲学を実践する力量を育成する。	
		教育哲学演習　II	外国語で書かれた教育の諸理論および諸問題に関する論考を哲学的に精読して批判的論考にまとめるとともに，クラス内で議論することを通して，教育理論と教育現象に対する深い洞察力を養う。また，認識論，分析哲学，現象学，心の哲学，政治哲学などの緒論考を取り上げて教育哲学的に読解するとともに，能力論や社会正義に関する論考を取り上げ具体的な問題を教育哲学的に検討することにより，教育哲学への理解を深め，教育哲学を実践する力量を育成する。	
		日本東洋教育史演習 I	明治～昭和戦前期に多く発行された教育関係雑誌の史料としての有効性が見出されたことによって，近年，雑誌を使用した教育史研究が蓄積されてきた。しかし，教育関係雑誌を使用した研究の方法が確立されているわけではなく，課題も少なくない。そこで，受講生が分担して，『日本の教育史学』『日本教育史研究』といった教育史関係の学術雑誌や専門書に掲載された論文のなかから，教育関係雑誌を使用した研究を抽出し，それらを読み，それらの研究方法について検証し，問題点を明らかにする。受講生は，これらについて授業で発表するとともに，「教育関係雑誌による教育史研究の課題」というテーマでレポートにまとめる。こうしたことによって，先行研究の検索，批判的読解，レビューといった教育史研究に必要な基礎的技能を習得する。	
		日本東洋教育史演習 II	日本東洋教育史演習Ｉで明らかになった教育関係雑誌を用いた先行研究の問題点を克服し，確固とした研究方法を打ち立てるべく，受講生各自が，教育言説に関してテーマを設定し，実際に特定の教育関係雑誌を対象史料として分析する。受講生は，調べた内容を授業で発表するとともに，「教育関係雑誌からみる教育言説―研究方法の確立の観点から―」というテーマでレポートにまとめる。こうしたことによって，新たな教育史研究方法の模索，研究テーマの構想，史料収集とその解読・分析など，教育史研究に必要な能力を習得する。これからの教育史研究を牽引していく研究者育成につながると考えられる。	
		西洋教育史演習 I	本演習では国際的な教育課題に関する歴史研究を読むことを通して, 外国の教育の歴史に関する知見を養うとともに，外国語論文の読み方を実践的に習得する。加えて本授業では史料論および歴史学的な史料分析の基本的な手法について理解し，議会史料や地方行政文書等の公的な文書だけではなく，書簡や日記等の個人的な史料についての史料批判の方法について学ぶ。授業の方法としては，外国語論文の読み方を実践的に習得するために，学生が訳したものを担当教員が説明を加えながら皆で検討し，その内容について議論する。その中で扱われている史料について，筆者がどのような史料批判・分析の方法を用いているかを理解するこ	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学プログラム		とで，史料批判の方法について学ぶ。	
		西洋教育史演習 II	西洋教育史演習 I で学んだ史料批判の方法を用いて，実際に一次史料を批判し，内容を解読し，分析することで，西洋教育史研究の手法を実践的に学ぶ。ここで扱う史料は，広島大学のデータベースに収められている 19 世紀・20 世紀初頭のイギリスの議会文書史料および授業者が収集したイギリスの学務委員会史料等の公的文書に加えて，個人情報保護の観点からすでに公開されている学校所蔵の史料や，書簡および日記等の個人的な史料も用いる。	
		教育社会学演習 I	教育社会学の研究には社会学的な理論と方法についての深い理解が求められる。本演習では教育社会学の研究方法のうち，質的手法を取り上げ，とくにライフヒストリー法について検討を行う。具体的にはライフヒストリーの歴史，およびその意義に触れた後，インタビューなどの具体的な実施方法，データの分析，および解釈の中心となる社会学理論，また実際の分析の過程，さらには倫理的課題について文献を購読しながら理解する。ライフヒストリー法について理解することで，質的分析方法を行う基礎的な知識と技術を身につける。	
		教育社会学演習 II	教育社会学演習 I で身につけた質的研究法，およびライフヒストリー法の知識をもとに実際にインタビューから分析までを実習形式で行う。具体的には，受講生の興味関心にしたがって研究計画を立て，インフォーマントへの調査依頼，インタビュー実施，トランスクリプトの作成，レジュメでの報告を経て，最終的には論文を作成する。本演習では，こうした調査の実践を通じて教育社会学研究で求められる応用的な知識と技術を身につける。	
		教育方法学演習 I	教育方法学の主要な問題領域を扱った文献，とりわけ外国語文献の講読を通じて，教育方法学研究の今日的課題に取り組む研究態度を養う。講読する文献は，学校研究，カリキュラム研究，授業研究，生活指導研究，教師教育研究などの中から一つを選択し，受講生との相互の読解と議論を通じて，文献読解から明確になる教育方法学の意義と課題について議論する。本演習では，教育方法学研究の動向に関わる講義形式の情報提供も交えつつ，読解した文献の解釈に基づいてディスカッションを行い，教育方法学における研究方法論の基礎を培う。	
		教育方法学演習 II	教育方法学研究の主要な問題領域および研究対象としての授業研究に焦点を当て，学校における授業研究のフィールドワークを通じて，教育方法学研究の今日的課題に取り組む研究態度を養う。フィールドワークの対象とする学校の選定および授業の記録のとり方，授業記録の作成とそれに基づく授業の分析・解釈を一連の授業研究のプロセスとして取り組む。フィールドワークの知見に基づいて，教育方法学研究の意義と課題について議論する。	
		社会教育学演習 I	本演習では，ノンフォーマル教育の国際比較という視点から，第二次世界大戦以前，および戦後（高度成長期まで）の日本における社会教育に関連した制度，実践の展開についての理解を深める。具体的には，近代日本の社会教育史について論じた英語文献の講読とそれを基にした受講者の討論を通じて，「社会教育」とされる範疇に含まれる制度や実践がどのように変化していったか，またその範疇が，海外の adult education, non-formal education といった概念で指し示される制度や実践との間にどのような異同を有しているか，についての理解を深めていく。	
		社会教育学演習 II	本演習では，ノンフォーマル教育の国際比較という視点から，今日の日本における社会教育に関連した制度，実践の特性とその社会的背景についての理解を深める。具体的には，現代日本の社会教育実践について論じた英語文献の講読とそれを基にした受講者の討論を通じて，近年における学校教育，地域社会，学校以外の学習機会の変化にどのように対応しながら社会教育の特性が変化しつつあるか，また，その変化の方向が先進諸国との間にどのような異同を有しているか，についての理解を深めていく。	
		教育行財政学演習 I	教育行財政学の多様な研究対象と方法および最新の研究成果についての理解を深め，残された研究課題や研究の展開可能性を検討するために近年の教育行財政学・教育制度学に関連する学術論文から，以下のテーマに関する論文を受講者が関心に沿って選び，論文の要約・論点を発表し，討議する。そのため受講者には，発表レジュメの作成や他の受講生からの質問に対する準備，討議への主体的協働的参加が求められる。 本演習で扱う研究テーマは，地方政治と教育（首長，議会と教育委員会），少子化と学校の適正配置（学校統廃合），公教育と市場（公立学校選択制度），学校参加制度（学校運営協議会，学校評価制度），教育内容行政（学習指導要領，全国学力・学習状況調査，教科書検定・採択制度），教員の確保と資質向上（教員人事制度），である。	
		教育行財政学演習 II	教育行財政学の多様な研究対象と方法および最新の研究成果についての理解を	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学プログラム		深め，残された研究課題や研究の展開可能性を検討するために近年の教育行財政学・教育制度学に関連する学術論文から，以下のテーマに関する論文を受講者が関心に沿って選び，論文の要約・論点を発表し，討議する。そのため受講者には，発表レジュメの作成や他の受講生からの質問に対する準備，討議への主体的協働的参加が求められる。本演習で扱う研究テーマは，学校の管理・運営の多様化（学校設置会社，公設民営学校），公教育空間の拡張と教育行財政（広域通信制とバーチャル空間），義務教育無償性と就学援助，後期中等教育の機会保障（高校授業料無償化），高等教育機会の財政的保障（給費奨学金）である。	
		比較教育学演習 I	本授業では，比較国際教育学の理論と方法についての理解を深めるために，関連する雑誌（Comparative Education, Comparative Education Review, Compare）に近年掲載された学術論文から，特に演習 I では，比較の方法論や課題に関する内容のものを取り上げる。学生は，論文の要約・論点をレジュメ形式で発表し，その後参加者全員で討議する。授業後，学んだことを振り返るレポートを提出する。	
		比較教育学演習 II	本授業では，比較国際教育学の最近の動向についての理解を深めるために，関連する雑誌（Comparative Education, Comparative Education Review, Compare）に近年掲載された学術論文から，特に演習 II では，地域研究と教育開発に関する内容のものを取り上げる。学生は，論文の要約・論点をレジュメ形式で発表し，その後参加者全員で討議する。授業後，学んだことを振り返るレポートを提出する。	
		教育経営学演習 I	本授業では，教育経営学に関する国内外の学術文献を講読することを通して，教育経営に関する諸概念・理論および研究方法の理解を深め，教育諸科学の動向の中での教育経営学の位置づけや意義を考察しながら，近年の教育経営研究の動向と課題を理解する。とくに演習 I では，我が国及び欧米の教育経営学のパラダイムの展開を概説した上で，近年の学校経営（マネジメント）・学校組織の理論・思想に関する文献をとりあげ，その意義と課題についてディスカッションし考察する。	
		教育経営学演習 II	本授業では，教育経営学に関する国内外の学術文献を講読することを通して，教育経営に関する諸概念・理論および研究方法の理解を深め，教育諸科学の動向の中での教育経営学の位置づけや意義を考察しながら，近年の教育経営研究の動向と課題を理解する。とくに演習 II では，演習 I の内容を踏まえ，教職員の人材育成・教師教育（スクールリーダー教育，教職大学院における「理論と実践の往還」など）に関する文献をとりあげ，その意義と課題についてディスカッションし考察する。	
		幼児教育学演習 I	本授業では幼稚園・保育所・認定こども園などの実践の場において，実際の保育への参与観象をとおして観察の基礎的な技能を養うとともに，実践に対する指導能力の形成をめざす。また保育を対象とする事例研究に関する近年の議論と具体例を講義することをとおして，保育観察への導入を行う。保育観察のなかから，個々の幼児の事例を参照して，具体的なかかわりのあり方を議論するとともに，保育計画，カリキュラムなどについての理解を深める。	
		幼児教育学演習 II	本授業は，教育学分野における観察の理論的動向を踏まえた上で次の内容で構成する。まず受講生を小グループに編成し，幼稚園保育所などの観察調査に基づくフィールドワークやインタビューに基づくデータ収集を実施する。そして種々の研究方法論に依拠したデータ分析などを通して研究成果を発表し合う。具体的には，データの収集を，観察とインタビューから，カテゴリー化を行い，最終的には理論仮説の生成と検証を行うことを目的とする。	
		教育調査統計学演習	教育学研究において，統計的な手法は不可欠であり，十分な理解が必要とされる。本演習では学校や教育行政，企業等の実務，教育に関する調査や研究に必要な基礎統計の理論を学習するとともに，実際にデータの分析の実習を行うことにより研究者や調査分析担当者として必要な統計分析の技能を身につける。また，これらの学習を通じて，一般に用いられている統計的手法の問題点を見抜き，適切に統計的手法を用いることができる力を身につける。本演習で扱う基礎統計は，相関係数，平均値の差の検定，カイ２乗検定，一元配置分散分析などである。	
		教育学フィールドワーク演習	本授業は，教育学分野における質的研究の理論的・歴史的背景及び質的研究の動向を踏まえた上で次の内容で構成する。まず受講生を小グループに編成し，フィールドワークやインタビューに基づくデータ収集を実施する。そして特定の質的研究方法論に依拠したデータ分析などを通して研究成果を発表し合う。具体的には，質的データの収集を，観察とインタビューから，フィールドノーツとデータ	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学プログラム		ベースの作成，そしてコードとカテゴリーを行い，最終的には理論仮説の生成と検証を理論的飽和という視点から分析するものである。	
		高等教育基礎論Ⅰ（理論・手法）	本科目は，受講生が高等教育研究において理解しておくべき基本的な理論と手法について学ぶことを目的とする。高等教育研究は歴史学，教育社会学，比較教育学，教育経済学等，様々なディシプリンによる学際領域のため，それぞれの分野でどのような研究課題が設定され，考察されているのかを確認する。本科目は二部構成とし，第一部では高等教育研究における基礎的な理論への理解を図る。第二部では質・量・ミックスメソッドなど異なる手法への理解を図り，問いに対する適切な手法の選び方，データ分析の手法について学ぶ。	国際教育開発 P 共用
		高等教育基礎論Ⅱ（制度・政策）	本科目は，主要な国・地域の高等教育制度・政策の基本的な事実を知り，歴史的変容について学び，高等教育システムの多様性および現在の動向の背景にある文脈の違いを理解することを目的とする。また，各国の高等教育システムを知ることを通じて，比較の視点を養うことを目的とする。	国際教育開発 P 共用
		Comparative Studies in Higher Education	（英文）The purpose of this course is to introduce students to studies of higher education from comparative, international, and development education perspective. It includes reviewing the dynamic historical, cultural, comparative, social, economic, political, and organizational aspects of higher education system with a specific focus on contemporary issues. （和訳）本科目の目的は，比較教育，国際教育，および開発教育の観点から高等教育を理解することである。現代的な問題に重点を置いて，高等教育システムの歴史的，文化的，比較的，社会的，経済的，政治的，組織的な側面について考察する。	国際教育開発 P 共用
		大学教育論	本科目では，大学の重要な役割の一つである教育活動について多角的に考察できるようになることを目的とする。本科目は三部構成とし，第一部では学習理論の変遷を学ぶ。現在の政策等の根底にある学習観を理解する。第二部では大学組織と教育活動の関係について学ぶ。大学と社会の関係，組織的教育活動を支える仕組みについての理解を深める。第三部では教員と教育活動に焦点を当てる。大学教員の役割，専門性開発，学問分野と教育活動の多様性等についての理解を深める。	国際教育開発 P 共用
		大学カリキュラム開発論	大学カリキュラムの基本概念や分析枠組みなどに関する整理・解説を行ったうえ，歴史的・比較的・実証的視点から，大学カリキュラムの主なモデル，特に主要諸国における大学カリキュラムの変容や特徴，カリキュラムの改革に関する問題点や動向なども論ずる。またこの授業は，担当者によって系統的な講義が行われると共に，受講生が参考資料を読んだうえで，関連テーマについて，能動的な分析と報告が求められることになる。	国際教育開発 P 共用
		高等教育目標論	高等教育目標論では，大学の目的と機能について明治から現在まで，140 年の日本の高等教育の歴史を中心に講じる。 具体的には，帝国大学令，大学令，学校教育法，私立学校法，認証評価制度，国立大学法人法について学ぶ。 歴史的視点を通じて学生は，大学教育の受益者，大学の階層性，大学の行政と管理，大学自治，学問の自由， 学部・研究科の組織問題，大学の社会貢献など日本的特質と課題について理解を深めることができる。	
		高等教育経済論	教育経済学を学ぶ上で不可欠となる数学，統計学，ミクロ経済理論を理解し，高等教育領域における経済分析の基本的理論と統計（計量経済）分析手法を習得する。	国際教育開発 P 共用
		高等教育組織論・職員論	本講義は大学の組織並びに教職員の在り方等を理解することを目的とする。大学の組織・職員に関連する制度・政策，大学における実践等について，基本的な概念・理論を学ぶとともに，制度等の歴史的変遷や現状を国際比較をしながら学習する。講義では，大学運営，組織編成，人事制度，ガバナンス，リーダーシップ，組織文化・学習等の理論や実践について学ぶとともに，米国や英国，フランス等の関連制度等との比較を行う。	国際教育開発 P 共用
		高等教育評価論	本授業を通じて， 1.大学や高等教育を評価することの基本的な意味を理解する。 2.評価に関わる情報の収集，分析に関わる理論・方法を理解する 3.評価を通じた公共機関の活動のあり方を理解する 4.物事に関する深い考察の仕方を理解・会得する 5.文献の読解，内容の整理の仕方を理解・会得する 6.プレゼンテーション能力を会得する	国際教育開発 P 共用
		高等教育アドミッション	本授業科目において，高等教育機関における学生募集と入学許可に関する理論と	国際教育開発 P

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学プログラム	論	実践を比較・歴史的視点から学習し，学生募集や入学許可のあり方を考察・研究できる能力を身につける。そのことを通して，ある特定のアドミッションポリシーを掲げた高等教育機関や高等教育制度における教育効果を最大化するための学生募集方法を検討・開発し，その募集方法を実施，評価，改善できるようになる。	共用
		学術政策論	日本の科学技術政策について，国の科学技術政策立案プロセスおよび政策の読み方を学ぶと共に，歴史的変遷および現代的課題と動向について知ることを目的とする。	
		学生論	この授業では，学生の視点からみた大学教育をテーマとする。具体的には，学生の在学中の学習行動並びに卒業後のキャリアの 2 点からアプローチする。そのため，学生調査，卒業生調査を中心に扱った著書や論文を扱い，国際比較や教育改革の実態も交えて日本の大学教育を反省的に考察する。	
		Advanced Statistics	本授業科目は，既に統計学の基礎を習得した博士課程前期（M2）レベル以上の学生を対象とした英語開講による統計学である。（標準）正規分布，カイ二乗分布，F 分布，t 分布等のつくり（構造）や相互関係性を踏まえて，さまざまな統計的検定の考え方を理解する。さらに，最小二乗法（OLS）や一般化最小二乗法（GLS），最尤推定法などによる回帰分析手法について理解を深めることを目的とする。統計ソフトウェア等を活用した演習科目ではなく，数学および統計学をベースとする理論の習得にウェイトを置いた科目である。	
		Higher Education in Japan	（英文）The purpose of this course is to make an introduction to higher education in Japan. It covers from the development history to main subjects and issues of higher education in Japan. And it also addresses main characteristics of higher education system in Japan. Through this course, students will have comprehension about the higher education based on basic knowledge of the Japanese case. （和訳）本科目の目的は，日本の高等教育について紹介することである。日本の高等教育の歴史的展開と課題，日本の高等教育システムの主な特徴を取り上げる。学生は日本の事例に基づいて高等教育を理解する。英語による授業科目である。	
		Development of Higher Education	本科目の目的は，現在，世界の高等教育が抱える種々の問題を先進国，開発途上国両方の視点から分析し，講義，ディスカッションすることにある。本科目では，学生グループが，各国の高等教育の発展について要点をまとめ発表する形式を取り，その後，KJ 法を活用したディスカッションを行うことで以下の学習成果を得る教育を提供する。本科目の履修を通して，受講生は，1）高等教育開発論における世界的重要課題について概説できる。2）履修者の母国の高等教育制度，重要課題について文献をもとに考察し，課題について論述できる。3）教育開発に関する諸問題を分析し，問題を解決する方策を立案することができる。	
		学費政策論	本講義は，大学の授業料・納付金等の「学費」をめぐる政策に注目し，日本および諸外国の動向と課題を比較考察することを目的としている。現在，大学の学費は無償・低廉に設定されている国がある一方，高額な授業料を徴収している国もある。経済的理由によって大学進学・修学が困難な学生に対して，国は高等教育を受ける権利と機会均等を保障するために奨学金等の経済的支援を講じる必要がある。しかし，その方法は国によって異なっており一様ではない。そこで，本講義では，学費政策に関するテキスト・資料の講読，発表，討論を行い，国の学費政策の在り方を考察する。	
		高等教育基礎演習 I（実践研究）	大学現場での実践における課題を対象として，評価，検証し，改善策を考察することを目的とする。そのためにアクションリサーチの手法を学び，実際に手法を用いて考察する。	
		日本語教育研究方法論	（概要）本授業では，言語学，文化学，心理学など，日本語教育学を構成する様々な領域の基礎的知識および研究方法を学ぶことで，日本語教育に関する諸問題について研究を遂行するために必要な研究リテラシーを獲得することを目的とする。複数の教員がオムニバス形式で授業を行うことで，それぞれの専門領域の知識や研究方法を教授するとともに，学問領域間のつながりを意識しながら広い視点で研究を展開することができる能力の育成を目指す。 （オムニバス方式／全 15 回） （60　白川　博之／1 回） 非母語話者の視点に立った日本語文法研究	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	日本語教育学プログラム		（4　永田　良太／2 回） ことばを談話から捉える方法 （61　仁科　陽江／2 回） 対照言語学の方法 （62　西原　大輔／2 回） 近代世界システム論 （63　畑佐　由紀子／1 回） 第二言語習得に関する疑問を研究計画につなげる方法 （7　松見　法男／1 回） 心理学研究法の基礎 （8　柳澤　浩哉／1 回） レトリックとは何をする学問か （114　中山　亜紀子／1 回） 第二言語学習者のストーリーから見えるもの （115　西村　大志／2 回） 社会学の理論を研究に生かす （116　渡部　倫子／2 回） 日本語教師を対象とした質問紙調査の方法	
		日本語教育学研究プロジェクト	「日本語教育研究方法論」で身につけた日本語教育学を構成する様々な研究領域の基礎的知識および研究方法に関する知識にもとづいて，日本語教育に関する具体的な問題の解決に取り組むことで，研究方法についてのより深い理解と問題解決能力を身につけることを目指す。授業に際しては，「日本語教育研究方法論」を担当する教員が共同で学生の指導にあたり，それぞれの専門的見地から当該問題に対するアプローチを行う。このことを通して，領域間のつながりと融合することの必要性を理解することも本授業のねらいである。	共同
		日本語習得論特講	言語を外国語あるいは第二言語として獲得する人の習得過程の特徴や習得に言語学的，心理学的，社会言語学的，文化学的，教育学的要因がどのように影響するのかについて検討するとともに，重要な理論と研究について紹介する。その上で，日本語を母語としない学習者が様々な環境で日本語をどのように獲得して行くのかに関する研究についての理解を深め，習得研究の成果を日本語教育にどのように応用できるか，また応用する際の留意点について検討する。さらに，当該分野の論文を批判的に読めるように，論文の査読の仕方について勉強する。	
		言語教育心理学特講	日本語を母語として，あるいは第二言語として学習する児童・生徒・学生の四技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の習得過程を，心理学的側面から捉え，その特徴を理解する。教育・学習・発達心理学の知見に基づき，日本語の聴解（「聞く」），発話（「話す」），読解（「読む」），作文（「書く」）を支える認知的機制（外言と内言の発達，概念及び論理的操作・思考力の発達，作動記憶と長期記憶等）について，実証研究を紹介しながら講義を行う。そして，国語教育及び日本語教育の教室で実践が可能な，かつ真に有効な日本語の教授法とは何かを考える。	
		日本語教育評価法特講	日本語教育と外国ルーツの児童生徒に対する国語科教育における評価法に関する基礎的な知識を得るとともに，言語アセスメントの開発方法について学ぶ。受講者は日本語教育および国語科教育における言語アセスメントの在り方について体験的・且つ批判的に捉えることで，今後の日本語・国語科指導での活用を考えながら取り組む。評価に関する基本的な用語・概念の振り返りを講義・輪読形式で行い，四技能別の評価方法，四技能統合型の評価方法についての知識を得るとともに，デモンストレーションを通して概略を把握する。また，妥当性の高い言語アセスメントの開発方法に関する基礎的な知識を得る。以上の成果を，レポートにまとめて提出する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	日本語教育学プログラム	年少者日本語教育特講	年少者に対する日本語教育の教育方法論についての基礎的な知識を得るとともに，カリキュラム設計と模擬授業の実施を通して効果的な教育方法を探求する。国内外の教育実践研究に関する文献の講読と討議を通して，年少者日本語教育（文化言語の多様な児童生徒への言語教育）の方法論に関して理解を深めるとともに，国語科教育（日本語を母語とする児童生徒への言語教育）との類似・相違点を検討する。その上で，文化言語の多様な児童生徒を対象とした言語教育カリキュラムを設計し，模擬授業の計画と実施，振り返りを通して，効果的な教育方法を探り，実践研究者としての実践力と内省力を養う。以上の成果をレポートにまとめて提出する。	
		日本語構造論特講	現代日本語の文法に関する研究成果を，日本語を外国語として学習する人々の視点をまじえて検討することを通して，日本語文法のしくみ（それぞれの形式の機能やお互いの関係）を体験的に理解する。外国人の日本語学習にも役に立つような日本語文法は旧来の「国語学的」（あるいは「言語学的」）な文法とは異なった原理で構築されなければならない。この授業では，以下の 3 部に分けて，臨床的にどのような問題があるのか，その問題を解決するためにはどのような記述が必要なのかを例文（誤用例を含む）を見ながら具体的に考える。Ⅰ．総論：日本語教育文法の原理（第 2 回～第 4 回），Ⅱ．各論(1)：本当は難しい初級文法（第 5 回～第 10 回），Ⅲ．各論(2)：中上級らしい文法項目（第 11 回～第 13 回）	
		日本語表現法特講	西洋修辞学の知見を使ってテキストを分析する方法を修辞学的分析と呼ぶ。本講義はこの方法を概説した後，使いこなすために必要な分析事例を講義する。この方法は西洋古典修辞学を基盤とするが，比喩や誇張法など狭義の修辞技法だけでなく，文法形式・構文・語彙・話法・叙述の密度・叙述の速さ・言葉の量など表現を形成する多様な要素に注目することに特徴がある。それらの要素の作り出す表現効果・説得効果を考えることで，書き手のこだわり，書き手の見方や語り方の癖，物語の見せ方の工夫，説得戦略などを客観的にあぶり出すことができる。修辞学的分析は表現を手がかりに教材を読み解く方法であり，国語教育に対する有効性も高い。修辞学的分析は，日本ではあまり知られた方法でないため，西洋修辞学の歴史をふまえながらこの方法を概説した後，評価の定まった文学作品・定番教材を使い，この方法を使った分析事例を講義していく。	
		対照言語学特講	外国語と対照することによって，母語を世界の中の一言語として理解し，言語類型論的観点から日本語の特徴や文法の記述について探求する。具体的には，言語類型論と言語普遍の理論に基づき，未知の言語を含めた様々な言語の構造を言語学の下位分野に沿って概観し，言語の多様性と共通性についての理解を深める。国内外の言語研究に関する文献の講読と討議を通して，言語を対照する方法論を学び，言語の分析や記述を通して，母語である日本語についての洞察力を養い，日本語に関連する問題を解決する能力を養成する。	
		社会言語学特講	社会言語学に関する文献の講読と討議を通して，言語を文脈の中で捉えるための基礎的知識を身につけるとともに，言語行動や会話を分析する際の観点と方法論を理解する。具体的には，日本語母語話者が無意識に行っている言語行動や会話がどのように成立しているのか，言語は我われの社会的属性とどのように関わるのかという問題について，先行研究の講読と討議を通して探究する。さらに，それらを日本語教育の中でどのように扱うべきかという問題についても議論を発展させたい。	
		異文化間教育学特講	異文化間教育学とは，国の文化を超えて，異なる文化的背景を持った人，異なる個人的歴史を持った人を理解し，そこで養われた他者を理解する態度，技術を教育に反映させるための学問である。本授業では，異文化間教育学での主要な論点（アイデンティティ，学習者／学生主体，学習者／学生の主観，学習者／学生の自己など）を知り，さまざまな観点から批判的に自らが行ってきた教育実践や世間的な常識を考える。それらの考察を通して，実際に教育現場に立った時，より幅広い視点から異なった文化背景をもった学生や生徒を理解する態度を養う。	
		文化社会学特講	近・現代の「日本」の文化と社会を研究するための理論および方法を，具体的事例および広範な資料を援用しつつ講義する。おもに文化社会学，歴史社会学領域の知見を中心として身につけ，社会学周辺の各種文化理論も補助線としつつ，より高度な思考力，論理構成力を養成する。資料に関しては，文字資料にとどまらず，漫画，映画，落語等のような図像，音声，映像資料等を融合的に検討していく。文化社会学研究にとどまらず，幅広く論理的で，学際的な文化研究を遂行できる能力の涵養をめざす。	
		日本近代文学特講	明治維新以降，昭和後期に至るまでの日本近代文学を論じる。この授業では，	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	日本語教育学プログラム		特に詩的テクストの読解を重視し，講義を進めてゆく。散文的テクストとは異なり，詩的テクストにおいては，一語一語が重層的な意味を生み出す傾向が強い。テクストは表層的な内容を伝えるだけでは，詩歌として十分機能しえない。表面的な意味の流れの背後にある，潜在的なメッセージをどのように汲み取り，いかに解釈してゆくべきなのかを考えることが重要である。また，テクストはその内部において，互いに連関し，一つの統一体を作っている。その相互関連性を読み解くためには，解釈の技術が必要である。いわゆる詩歌の分野に属さない小説や随筆においても，詩的なテクストの原理が生かされていることが多い。散文的テクストといえども，文学である以上，詩的テクストに通じる要素があるのである。明治から昭和後期に至るまでの様々な文学作品を題材としつつ，テクスト分析の技法を学んでゆく。	
		日本語習得論演習	日本語を外国語あるいは第二言語として獲得する人の日本語の習得過程に影響する言語学的，心理学的，社会言語学的，文化学的，教育学的要因を探る研究について，研究目的や課題の妥当性と意義，課題と研究方法論の整合性，研究計画の妥当性と信頼性，分析の適切さ，結果の解釈の妥当性，結論の強さなどを批判的に検討する。その上で，日本語習得に関する研究を立案，計画し，その研究意義と妥当性を主張できるような研究計画書を作成する。さらに，事前調査を行い，研究計画の実行可能性について検討する。	
		言語教育心理学演習	日本語を母語として，あるいは第二言語として学習する児童・生徒・学生の四技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の育成に関して，学校教育（小学校から大学まで）でどのような実践が行われているかを，教育・学習・発達心理学の方法論に基づき，受講生自らが調べる（調査）。そして，それらの実践を教授法または学習法として位置づけたときの特徴を，心理学の理論に基づいて分析し，その一部について仮説を立てた実験を行いながら，教授法または学習法の有効性を検証する（実験）。実験では，各技能に応じた言語テストや認知テストを採用して実施することをとおして，四技能を測定する言語テストの知識理解を深め，国語または日本語の教師として必要な，学習者の各能力を客観的に評価するための統計的知識を学ぶ。	
		日本語教育評価法演習	日本語教育・国語科教育における評価研究を概観し，言語アセスメントを実施するために必要な理論と技能を獲得する。英語と日本語による文献講読と演習課題を通して，言語アセスメント実施におけるデータの収集，記述，分析，解釈について，基本的な知識や技術を身につけることを目指す。また，それらの知識や技術の特長や限界を理解し，適切に使えるようになる。データ分析の演習課題では，受講生の興味，関心，研究テーマ，レディネスなどを考慮し，相談しながら扱うアセスメントを決定する。データ分析の結果を口頭発表し，その内容に関するディスカッションを行う。以上の成果を，レポートにまとめて提出する。	
		年少者日本語教育演習	国内外の文化言語の多様な子どもの言語習得・言語教育研究を概観し，年少者日本語教育における調査研究を実施する上で必要な理論と技能を獲得する。国内外の文献講読と討議を通して，文化言語の多様な子どもの言語発達や習得の実態についての理解を深めるとともに，その調査・分析方法に関して基本的な知識や技術の獲得を目指す。研究方法に関しては，文献に応じて量的・質的の両面から取り上げる。そして，年少者日本語教育研究において残された研究課題を受講者が自ら設定し，その課題の解決のために，どのような研究方法が援用できるかを検討・議論する。以上の成果をレポートにまとめて提出する。	
		日本語構造論演習	本授業では，次の 2 点を目標とする。1. 専門的な論文を読んで日本語文法に関する具体的な言語事実についての知識を深める。2. 文法研究の現状・方法を検討し，自分で文法を研究する力を養う。具体的には，現代日本語文法に関して近年発表された論文を分担して読むことを通して，より新しく高度な研究成果と方法を学ぶ。日本語学・日本語教育関係の専門誌に掲載された論文またはこれらの分野に関する専門書の中から担当教員が指定したものを教材とする。	
		日本語表現法演習	日本語表現法特講で講義を行った修辞学的分析を実践する。素材には小説などの文字テキストだけでなく映画も使用する。いわゆる映画の文法は，映画の各技法の表現効果を分析したものであり，表現効果から多用な言語要素を整理した修辞学と相性が良い。授業では，修辞学的分析および映画の文法を概説した後，小説の分析，映画シナリオの分析，映画分析の順に進めて行く。映画シナリオでは聴衆を飽きさせずに惹きつけ続けることが強く求められるため，小説では必ずしも必要でない技法が随所に用いられている。小説・シナリオ・映画の三者の分析を通して，それぞれの素材の特質を考え，戦略や戦術といった発想をもって書き	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	日本語教育学プログラム		手・作り手の意図や計算を明らかにしていきたい。	
		対照言語学演習	日本語と他言語との対照研究，言語類型論と言語普遍に基づいた言語学研究を行うための方法論を身につけ，言語の分析や記述の実践力を養う。具体的には，対照言語学についての国内外の文献を批判的に講読し，残された課題を討議する。受講者自ら研究課題を設定し，言語データを収集・分析することにより，実践力や内省力を養い，自律的研究力の養成をめざす。文献研究による知見と併せて，自らの実践的研究成果をレポート作成や発表を通してわかりやすく伝えるスキルも養う。	
		社会言語学演習	社会言語学・談話分析に関する先行研究を批判的に検討して，そこに残された課題を受講者自身が指摘する。そこで指摘された研究上の課題について，実際にデータを収集し，分析することを通して，言語を文脈や社会的要因との関わりの中で捉える視点を身につけるとともに，「会話」を分析する際の観点と手法を理解することを目標とする。また，そこでの分析結果を論拠として論理的な考察を行うとともに，それを他者に説得的に伝達する能力を身につけることも本授業のねらいである。	
		異文化間教育学演習	本授業の目的は，異文化間教育学，言語教育学の中で，質的研究などを使った論文などを批判的に読解することを通して，生徒や学校教育，学校運営などを理解するとともに，それらを研究する際の方法論的知見を深めることである。現在広く使われている質的研究と言われる方法は大きく５つあるが，その５つの方法を用いた論文などを読む。ついで，それぞれの論文の対象となっている言語学習者，教育現場についての知見を広める。さらに，そこで用いられている研究方法，存在論，認識論などの理解をディスカッションを通して深める。	
		文化社会学演習	近・現代の「日本」の文化と社会をおもな対象とした文化社会学，歴史社会学およびその周辺の文化理論に関わる重要文献を読み，報告・討議を行う。報告者の読解力，プレゼンテーション能力の向上は言うにおよばず，報告の聞き手も能動的に議論を展開し，報告者と聞き手の討議という相互作用からあらたな知に至れるように試みる。文化社会学研究にとどまらず，幅広く文化，社会を研究，考察する力を身につける。あわせて，文字資料にとどまらないさまざまな資料の集め方，分析の仕方についても学ぶ。	
		日本近代文学演習	日本の近代文学の作品を取り上げ，受講生とともに解釈してゆく。明治以降の日本では，小説・詩歌・演劇など，幅広い分野において，優れた作品が多く作られた。これらの文学的テクストの分析にあたっては，多様な方法論がすでに試みられてきた。特に 20 世紀においては，ロシア形式主義以降，様々な文学理論が開発され，作品の読みを豊かにしてきた。新批評，構造主義や脱構築，フェミニズム批評，ポストコロニアリズム，さらには近年のカルチュラルスタディーズと，テクストを読む手法は実に多様である。それらの様々なアプローチの技法を学ぶとともに，研究面のみならず，教育の場面においてどう生かしてゆくかも考える。作者の人生や文学観といった，文学的テクストを読む上で重視されてきた古典的な情報源にも触れながら，テクストを外部から切り離し，自立したものとして扱う手法について学んでゆく。文学研究の技法を習得するとともに，学校教育における活用を念頭に置いて演習を行う。	
		国内日本語教育実践研究	本授業ではまず授業観察の観点や方法について学ぶ。その後，日本語教育の機関見学や模擬授業に参加しながら日本語指導の状況や現場を理解する。観察録にもとづいてディスカッションを行い，理解を深めた後，日本語教材の分析，教案やタスクの作成について学び，日本語教育機関において実習授業を行う。実習授業終了後には授業検討会を行い，自身の授業を評価し，改善点を探る。授業に際しては，日本語教育経験を有する複数の教員が共同で指導にあたり，受講学生の実践力の育成に努める。	共同
		海外日本語教育実践研究	異文化理解と外国語としての日本語教育の指導法についての実態調査と疑似練習を通して，異文化における外国語としての日本語教育の現状および教室のマネージメント，教室活動など実践における諸問題について考察する。 まず，指定された海外の教育機関及びその国の文化についての調査を行う。その後，海外の教育機関で使われている教材やシラバスを分析するとともに，初級文法の導入方法と練習方法，会話授業の方法について実践的に学ぶ。それらをふまえて，海外で実習を行う際の教案を作成し，教壇実習の準備を行う。海外における実習終了後には，録画した授業のビデオをもとに自己評価するとともに実習前に記した教育観の変容について内省を行う。授業に際しては，日本語教育経験を有する複数の教員が共同で指導にあたり，受講学生の実践力の育成に努める。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	国際教育開発プログラム	教育基礎論	本講義の目的は，受講者が，教育の目的，歴史，思想に関する基礎的な概念・用語等を習得し，それらを用いて，様々な教育開発をめぐる事象について，他の人がわかるように，自らの考えを論じることができるようになることである。 講義形態は，毎年発刊される教育学の最新の学術書（洋図書）をテキストとして用い，受講者が各章を分担して発表する形態をとる。 講義の具体的な内容は，用いるテキストによって厳密には異なるが，概ね，なぜ学校で教えるか，今日の児童・生徒はどのような背景を持っているか，誰でも教師になれるか，どのような学校が良い学校か，児童・生徒の学習をどのように評価すべきか，学校選択は教育の改善に資するか，ICT は学校をよりよくするか，などである。	
		国際教育協力論	この授業は、初等教育、中等教育、TVET、高等教育を対象とし、受講する学生が途上国の教育開発に関する基本的な問題を理解し、それらの分析方法を身につけること、また、教育開発に関わる理論、政策、実践を踏まえて、国際教育協力の異なる形態をハンズオンで学び、それらの特徴と課題に対して、明確に自らの意見を述べることができるようになることを目指す。講義、グループワーク、発表、レポートなど多様な形態を用いての授業を行う。授業はすべて英語で行う。	
		教育人材開発論	本講義の目的は，受講者が，日本ならびに諸外国における教育人材開発に関わる基礎的な課題・施策についての理解を深めるとともに当該領域の問題・課題について自らの学修・研究と関連付けながら分析・考察できるようになることである。 講義形態は，毎年発刊される教師教育分野の最新の学術書（洋図書）をテキストとして用い，受講者が各章を分担して発表する形態をとる。 講義の具体的な内容は，用いるテキストによって厳密には異なるが，概ね，教師教育の歴史，教師教育の改革動向，教職アイデンティティ，教師教育の道徳・倫理的責任，教師教育の政治・社会・文化的責任，教師の職能成長，教師教育における評価，教師教育者の学修と教育などである。	
		ノンフォーマル教育論	本科目は，途上国や先進国の開発課題を達成する上で重要な役割を果たしているノンフォーマル教育に注目し，受講生がその理論と実践を理解した上で，途上国の文脈における意義と課題を考えることを目的とする。本科目は三部構成とする。第Ⅰ部ではノンフォーマル教育の定義や背景にある諸理論について学ぶ。第Ⅱ部ではノンフォーマル教育と途上国や先進国における開発課題との関係を複数の観点から探っていく。第Ⅲ部では日本および途上国におけるノンフォーマル教育の事例研究を通して，その意義と課題を分析する。本科目の履修を通して受講生は以下の能力を修得する。1) ノンフォーマル教育に関連する理論を説明できる、2) ノンフォーマル教育と途上国の開発課題について複数の観点から説明できる、3) 学修した知識やスキルに基づき、ある国のノンフォーマル教育のサブセクター分析ができる。	
		理科教育開発論	本講義においては開発途上国における理科授業のあり方について、実践的に修得することを目的としている。まず、開発途上国における一般的な問題として、授業の中で行う理科実験の経験不足がある。これは、本学で学習する途上国からの留学生についても言える。そこで、まず相対的に実験の経験が豊富な日本人学生が留学生に対して紹介する。この実践を通じて、日本人学生についてはコミュニケーション能力や途上国出身者に対する授業方法を体得することができ、途上国出身学生については、実験方法を習得することができる。さらに、留学生側も文献等で新たな実験を発見、開発し授業の中で実験を取り入れる手法を習得する。	
		科学教育開発基礎論	本講義は以下の 2 点についてその能力を身につけさせることを目的とする。 １． 開発途上国の理科教育の現状について分析する視点を養う ２． 開発途上国における理科の授業手法を開発するための基礎知識を獲得する この目的を達成するために、まず各学生に自国の理科カリキュラムについて発表してもらう。発表者側は自らのカリキュラムの特長を内省的にとらえることができ、さらに聴衆側は他国の現状を知ることができる。さらに授業の中ではカリキュラムのあり方を分析的に開設することにより、その視点を養うものとする。	
		数学教育開発論	数学教育研究の一般的な理論を論じるとともに，開発途上国では，先進国のカリキュラムをそのまま持ち込むことの問題性が指摘されており，民族数学をはじめとして，地域固有の文化・社会・歴史の観点からも数学教育を考察したい。この両者，すなわち一般的視座と特殊文脈の 2 軸のもとで，現行の途上国の数学教育に批判的な分析を加えることが本講義の目的である。基本的な理論を講義形式で紹介しつつ，論点を取り上げて理解を深める。次のような内容を取り上げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	国際教育開発プログラム		＊開発途上国が抱える数学教育の問題点と研究枠組みについて論じる。 ＊数学教育カリキュラム開発の一般論，具体的事例を論じる。 ＊数学教育の文化的側面を論じる。 ＊数学教育の教師，教師教育，授業について論じる。 ＊数学教育の評価について論じる。 ＊開発途上国の数学教育の問題点を振り返り，グローバルな文脈との接合を図る。	
		高等教育開発論	本科目の目的は、現在、世界の高等教育が抱える種々の問題を先進国、開発途上国両方の視点から分析し、講義、ディスカッションすることにある。本科目では、学生グループが、各国の高等教育の発展について要点をまとめ発表する形式を取り、その後、KJ 法を活用したディスカッションを行うことで以下の学習成果を得る教育を提供する。本科目の履修を通して、受講生は、1）高等教育開発論における世界的重要課題について概説できる。2）履修者の母国の高等教育制度、重要課題について文献をもとに考察し、課題について論述できる。3）教育開発に関する諸問題を分析し、問題を解決する方策を立案することができる。	
		教育協力実践基礎論 I	（概要）本科目の目的は、国際教育協力プロジェクトを住民参加型で計画立案するための複数の手法を学ぶことにある。具体的には、日本国政府の国際協力プロジェクトの運営に用いられるプロジェクト・サイクル・マネージメント（PCM）の手法を中心に学ぶ。PCM 手法で作成される PDM は多くの国際援助機関で用いられるロジカル・フレームをモデルにしており、PCM や PDM の理解は、日本のみならず、国際援助機関での実践に向けた基礎構築にもつながる。本科目の履修を通して、受講生は以下の能力を修得する。1）国際教育協力プロジェクトの立案方法を理解する、2）参加型開発の意義を理解する、3)他の参加型立案方法と比較した PCM 手法の長所短所を説明できる。 （オムニバス方式／全 15 回） （68　三輪　千明／4 回） ガイダンスおよびプロジェクトとは，参加型開発の意義と手法 1，参加型開発の意義と手法 2，参加型開発計画の理解の確認（小テスト）と自己評価 （120　丸山　隆央／1 回） プロジェクト・プロポーザルとは何か （274　八木　恵里子・275　南村　亜矢子・68　三輪　千明／8 回）（共同） PCM 手法の概要，関係者分析，問題分析 1，問題分析 2，目的分析，プロジェクト選択，PDM の作成，活動計画 （120　丸山　隆央・68　三輪　千明／1 回）（共同） PCM 手法とその他の参加型立案計画の比較検討 （2　馬場　卓也・1　清水　欽也・120　丸山　隆央・68　三輪　千明／1 回）（共同） PCM 手法の理解に関する発表と討論	オムニバス方式・共同（一部）
		教育協力実践基礎論 II	（概要）本科目の目的は、プロジェクト・サイクル・マネージメント（PCM）の手法に基づき、ある途上国の教育セクターを事例に、異なる背景をもつ人々の参画を得て一つの国際教育協力のプロジェクト・プロポーザルを仕上げていく過程を体験的に学ぶことにある。本科目の履修を通して、受講生は以下の能力を修得する。1) PCM 手法に基づき、国際教育協力のプロジェクト・プロポーザルを立案できる、2）参加型開発の意義を体験的に理解する、3）論理的思考やコミュニケーション力が向上する。 （オムニバス方式／全 15 回） （68　三輪　千明／9 回） ガイダンスおよび PCM 手法の振り返り，対象国の概要と教育開発，対象国の教育プロジェクトの関係者分析，対象国の教育プロジェクトの問題分析，対象国の教育プロジェクトの目的分析，対象国の教育プロジェクトのプロジェクト選択，対象国の教育プロジェクトの PDM 作成，対象国の教育プロジェクトの活動計画，	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	国際教育開発プログラム		PCM 手法の理解の確認（期末テスト）と自己評価 （120　丸山　隆央／1 回） 　プロジェクト予算の立て方 （120　丸山　隆央・68　三輪　千明／2 回）（共同） 　問題点と対策 1，問題点と対策 2 （2　馬場　卓也・1　清水　欽也・120　丸山　隆央・68　三輪　千明／3 回）（共同） 　対象国の関係者分析と問題分析の結果発表と討論，対象国の目的分析とプロジェクト選択の結果発表と討論，対象国のプロジェクトと PDM の結果発表と討論	
		国際教育協力実践研究	国際教育開発の課題とそれに対する開発援助機関による取り組みの事例を通じて，国際教育協力の現象と構造に関する理解を深め，国際協力マインドの育成，学生の今後の研究領域，研究設問の設定に役立てる。具体的には、以下の内容を取り扱う。コースオリエンテーション、国際教育開発の動向と課題を理解する、援助機関のアプローチの特徴を理解する（世界銀行・国際協力機構）、教育統計・教育計画のモニタリングの現状と課題、援助機関のアプローチの特徴を理解する（国際協力機構のアプローチ、教師教育支援、住民参加型学校運営支援、住民参加型学校運営にかかる調査分析、インクルーシブ教育（障害者支援）への取り組み）。	
		基礎教育開発論	本講義の目標は大きく二つある。一つ目は，発展途上国の基礎教育，ＳＤＧｓ４達成に向けた国際社会の取り組み・残された課題や，教育開発の理論的パラダイムに対する理解を深めることである。二つ目は，文献を批判的に（クリティカルリーディング）読める力を身につけ，先行研究が行えるようにすることである。２回のリフレクションペーパーの作成や、学期末には、先行研究を作成する。ペーパー作成の練習のため、すべての提出物を２回まで（再）提出して良いこととする。より優れたスコアのものを最終的な成績とする。	
		教育協力事業評価論	本講義の目的は、「評価」の理論と手法を理解し、政府開発援助（ODA）による教育分野の国際協力プロジェクト及びプログラムに対する事前評価（案件形成時）、モニタリング、事後評価等の目的と手順を習得して、自らの研究プロセスに応用できるようにすることにある。 ODA 事業評価の手順では、評価可能性チェック、評価デザイン（ロジックモデル作成、指標設定、質問票作成）、データ収集・分析、貢献要因・阻害要因確認、レーティング、報告書作成の手順を、実例を用いながら解説し、質問票作成とインタビュー調査等の一部は講義中に実践する。 追加的に、インパクト評価、参加型評価、メタ評価、日本の教育分野で実施されている大学評価、学校評価、教育評価についても理解を深め、評価の役割と評価結果の活用（フィードバック）とアカウンタビリティの重要性を体験的に学ぶ。	
		教科教育授業論	児童中心の学習の理論、授業観察のポイントを踏まえた授業観察を通して、下記の知識とスキルを習得する。 （1）児童中心の学習の理論および日本における授業研究の方法について理解する。 （2）日本における算数、理科、社会科の教育目的、内容、方法について理解し、教材研究の方法と授業案の作成方法を理解する。 （3）授業観察の方法を理解し、授業研究を行うスキルを習得する。 （4）自国の文脈（教科教育、児童生徒の特性）を鑑みた授業計画案を作成することができる。 （オムニバス方式／全 15 回） （66　中矢　礼美／5 回） 　児童中心の学習の理論、授業研究概論、社会科授業観察のポイント、社会科教材研究、社会科などの授業計画作成指導	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	国際教育開発プログラム		（2　馬場　卓也／5回） 算数の授業観察のポイント、算数の教材研究、算数の授業計画作成指導 （1　清水　欽也／5回） 理科の授業観察のポイント、理科の教材研究、理科の授業計画作成指導	
		途上国の比較教育学	本講義では、発展途上国の教育を比較の視点から学ぶ。受講者は、途上国の事例研究から、教育政策的側面、実践的側面について自国や日本の教育を念頭に置きつつ、比較による知見を導出していく。また、本授業では教育政策や実践のみならず、文化や社会、国民性など、ホリスティックな比較を目指す。担当者の専門とする地域がバングラデシュであるため、同国を中心に、インド、ネパールなど南アジア諸国の教育を軸とした比較事例研究を講義、比較教育学の手法を学ぶ。	
		インクルーシブ教育論	この講義には３つの目的がある。一つ目は、国による障害の定義や教育・福祉制度の違いについての情報を共有することである。二つ目は、世界におけるインクルーシブ教育の国際的な動向を示すことである。三つ目はインクルーシブ教育システムの意義を考察することである。また、なぜ途上国と OECD 諸国でインクルーシブ教育の推進が積極的に行われたのか、インクルーシブ教育の対象者は誰なのか、など、インクルーシブ教育の導入の経緯や社会的情勢について理解を深め、今後の在り方等についても検討する。	
		平和社会のための教育	平和の概念、平和教育の理論、平和教育カリキュラム開発およびマネジメントの方法についての知識と実際に自国の平和構築に向けたカリキュラムを開発するスキルを習得することを目的とする。具体的な授業の到達目標は以下の通り。 ・平和の概念を理解した上で、自国の平和の状況を暴力の形態と状況から分析し、その原因と解決の方策について意見を表明できる。 ・平和教育の理論、カリキュラム開発原理およびマネジメント方法について理解し、自国の教育の課題を指摘することができる。 ・各国の平和教育を概観し、その特徴と優れた点について理解する。 ・最終的に、自国の平和構築に向けた平和教育カリキュラムを開発する。（１時間の授業から年間プログラムまで、目的と対象に合わせて学生が選択する）	
		教育統計概論	本講義では、開発途上国からの留学生が主たる受講対象であることを踏まえ、SPSS などの高価な統計分析ソフトウェアではなく、EXCELL や電卓などの計算ソフトを使うだけでできる統計分析について、その基礎や原理について具体的な事例やデータを用いながら講義する。講義の内容は主として、（1）教育測定の考え方、（2）平均、標準偏差などの基礎的統計指標の計算法およびその意義、（3）t-検定、（4）分散分析、（5）相関分析、（6）因子分析、（7）重回帰分析等を扱う。（6）、（7）は EXCELL による分析方法ではなく、SPSS による出力の見方などが中心となる。	
		教育開発フィールドワーク論	教育開発研究において必要なフィールドワークの基本的スキルを習得することを目標とする。（1）質的調査法の特徴と主要なタイプを概観し、問いの立て方、分析方法、まとめ方、研究倫理とフィールドでの位置取りを理解する。（2）擬似的なインタビュー調査や観察調査を行い、データ収集・分析し取りまとめる。そして、講義での発表・議論を通してフィールドワークについての理解を深める。 （オムニバス方式／全 15 回） （66　中矢　礼美／5回） 質的研究概論、エスノグラフィー、調査計画指導、調査分析指導 （67　牧　貴愛／5回） 教育開発分野におけるフィールドワーク、調査計画指導、調査分析指導	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	国際教育開発プログラム		（118　日下部　達哉／5回） データ分析の方法、調査計画指導、調査分析指導	
		地域カリキュラム開発論	持続可能な地域開発に必要な資質能力の育成を目指す地域カリキュラム開発についての知識とスキルを習得することを目的とする。 （1）国家カリキュラムや学校カリキュラムとの比較から地域カリキュラムの特徴と機能を理解し、地域カリキュラムの原理・原則、歴史、カリキュラムの開発・実施・評価の指標を理解する。（2）日本およびインドネシアを主たる対象地域として、全教育段階における地域カリキュラム（開発プロセス、構造）、カリキュラムマネジメント（運営、評価）および教授学習過程の特長と課題を理解する。（3）学生が対象とする地域に焦点を当てた地域カリキュラムを開発し、発表およびディスカッションを行う。これにより、学生が今後教育開発分野において当該地域の人々のニーズにより適した持続可能な地域社会づくりに資する教育開発に積極的に関わっていく動機付けとなり、そこで必要な知識・技能・態度を養っていくことが期待できる。	
		スポーツ教育開発論	本科目では、国際協力において体育・スポーツが果たす役割について考えることを目的としている。まずは体育・スポーツに関する基礎的知識を集積しながら、日本や諸外国での体育・スポーツの実情についての理解を深める。その上で、実際に行われている体育・スポーツを通じた国際協力の事例について学びながら、その成果や問題点などについて考える。最終的には、国際社会の様々な社会課題に対する、体育・スポーツの活用方法、有効性、限界等について、ディスカッションを通じて考察する。	
		グローバルシティズンシップ教育論	グローバル時代における持続可能な開発を目指すシティズンシップ教育のあり方について議論し、各国の文脈に応じたグローバルシティズンシップ教育を模索するための知識の習得と分析能力を学習することを目的とする。具体的な授業の到達目標は以下の通り。 （1）グローバルシティズンシップ教育の基本的な考え方を理解し、議論する。 （2）グローバルシティズンに必要とされるコンピテンシーを説明する。 （3）グローバルシティズンシップの考え方を各国の課題に適用して、議論することができる。例えば、少数民族、移民、ジェンダー、特別な支援が必要な人々。 （4）自国のシティズンシップ教育への示唆を提案する。	
		幼児教育・保育開発論Ⅰ	本科目は，受講生が幼児教育・保育に関する諸理論の理解を通して，乳幼児期はなぜ重要か，幼児教育・保育はどうあるべきかを，主に発展途上国の状況を踏まえながら考えることを目的とする。本科目は二部構成とし，第Ⅰ部では子どもの発達に関する諸理論を学び，第Ⅱ部では幼児教育・保育に関する理論や考え方を様々な観点から学んでいく。本科目の履修を通して，受講生は以下の能力を修得する。1）乳幼児期の重要性を理論的に説明できる，2）幼児教育・保育がどうあるべきかについて複眼的視点から考えられる。	
		幼児教育・保育開発論Ⅱ	本科目は，受講生が幼児教育・保育の政策や内容・方法等の理解を通して，途上国における幼児教育・保育の量的拡大や質的向上をどう図るべきかを考えることを目的とする。本科目は三部構成とし，第Ⅰ部では途上国における幼児教育・保育の量的拡大の現状や手法への理解を図る。第Ⅱ部では幼児教育・保育の質に焦点を当て，質の高い幼児教育・保育とは何か，どのようなカリキュラムが最も効果的で，どのような評価が可能なのかを考える。第Ⅲ部では日本の幼児教育・保育を事例に取り上げ，日本の経験や実践から途上国が学べることは何かを議論する。本科目の履修を通して，受講生は以下の能力を修得する。1）幼児教育・保育の多様な内容や方法について長所・短所を含めて説明できる，2）途上国の幼児教育・保育のサブセクター分析を行い，量的拡大や質的向上に関する提言ができる。	
		特別研究	（概要）教育科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに，修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定，検討課題の整理，既存研究のレビュー，調査・実験の方法，データ処理・分析手法，論文執筆，発表方法の習得等，研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため，指導を行う。 **教育学プログラム**	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			(57　黄　福涛) 大学カリキュラム開発・高等教育国際化の観点から研究指導を行う。 (52　丸山　恭司) 教育哲学の観点から研究指導を行う。 (6　山田　浩之) 教育社会学の観点から研究指導を行う。 (56　七木田　敦) 障害児保育学の観点から研究指導を行う。 (54　小川　佳万) 比較国際教育学の観点から研究指導を行う。 (55　曽余田　浩史) 教育経営学の観点から研究指導を行う。 (58　大膳　司) 教育社会学の観点から研究指導を行う。 (203　渡邉　聡) 教育経済学・高等教育政策の観点から研究指導を行う。 (53　鈴木　理恵) 日本東洋教育史の観点から研究指導を行う。 (106　吉田　成章) 教育方法学の観点から研究指導を行う。 (107　久井　英輔) 社会教育学の観点から研究指導を行う。 (110　恒松　直美) 異文化間理解・社会理論の観点から研究指導を行う。 (111　佐藤　万知) 高等教育論・大学教育論の観点から研究指導を行う。 (105　三時　眞貴子) 西洋教育史の観点から研究指導を行う。 (112　村澤　昌崇) 教育社会学の観点から研究指導を行う。 (113　大場　淳) 日仏高等教育・職員開発の観点から研究指導を行う。 (108　滝沢　潤) 教育行政学の観点から研究指導を行う。 (109　中坪　史典) 幼児教育学の観点から研究指導を行う。 (128　KIM YANGSON) 高等教育の国際比較の観点から研究指導を行う。 (59　藤村　正司)	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			教育社会学の観点から研究指導を行う。 **日本語教育学プログラム** （60　白川　博之） 日本語文法研究の観点から研究指導を行う。 （4　永田　良太） 社会言語学・談話分析の観点から研究指導を行う。 （61　仁科　陽江） 対照言語学の観点から研究指導を行う。 （62　西原　大輔） 日本近代文学研究の観点からの研究指導を行う。 （63　畑佐　由紀子） 第二言語習得研究の観点から研究指導を行う。 （7　松見　法男） 認知心理学・言語心理学の観点から研究指導を行う。 （8　柳澤　浩哉） 日本語表現法・レトリックの観点から研究指導を行う。 （114　中山　亜紀子） 異文化間教育論の観点から研究指導を行う。 （115　西村　大志） 文化社会学の観点からの研究指導を行う。 （116　渡部　倫子） 日本語評価法の観点から研究指導を行う （117　櫻井　千穂） 年少者日本語教育の観点から研究指導を行う。 **国際教育開発プログラム** （2　馬場　卓也） 指導分野は、数学教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。 （1　清水　欽也） 指導分野は、科学教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。 （66　中矢　礼美） 指導分野は、グローバルシティズンシップ教育、平和教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。 （68　三輪　千明） 指導分野は、就学前教育・ケアの教育活動、指導者育成、評価などである。 （67　牧　貴愛） 指導分野は、教師に関わる政策および実施、教師教育、教員評価などである。 （120　丸山　隆央） 指導分野は、国際教育開発協力の現象と構造の分析である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目			(64　吉田　和浩) 指導分野は、国際教育協力の世界的な動向と援助機関による分析、提言である。 (3　石田　洋子) 指導分野は、国際教育協力分野の事業評価の理論と実践である。 (118　日下部　達哉) 指導分野は、発展途上国の教育のホリスティックな比較研究である。 (65　櫻井　里穂) 指導分野は、発展途上国の初等教育の現状・課題の分析である。 (11　堀田　泰司) 指導分野は、高等教育開発論における世界的、各国の課題と問題解決である。 (19　川合　紀宗) 指導分野は、インクルーシブ教育の意義、制度、実践に関する研究である。 (10　齊藤　一彦) 研究分野は、国際協力における体育・スポーツ教育に関する成果と活用方法についてである。 (203　渡邉　聡) 研究分野は、高等教育政策と教育経済学的分析である。 (57　黄　福涛) 研究分野は、大学カリキュラムとその改革についての研究である。 (113　大場　淳) 研究分野は、大学組織。大学運営、ガバナンスなどについての研究である。 (111　佐藤　万知) 研究分野は、大学と社会との関係についての研究である	